

令和8年度

# シラバス

学校法人 福岡医療学院  
福岡医療専門学校

柔道整復科Ⅱ部

令和8年度 福岡医療専門学校 柔道整復科Ⅱ部 シラバス 目次

教育理念	.....	P 1
養成人材像	.....	P 1
教育課程編成・実施の方針	.....	P 1
科目及び授業時間数	.....	P 2
基礎分野	.....	P 3
専門基礎分野	.....	P10
専門分野	.....	P35

## 教育理念

親が子に残せる唯一の財産は教育である

## 養成人材像

患者に寄り添いながら適切な施術を行い、専門分野を探究し続けることができる柔道整復師を養成する。

## 教育課程編成・実施の方針

本校の教育理念に基づき、柔道整復科の養成人材像を踏まえた教育を行う上で必要なカリキュラムを作成し、基礎分野、専門基礎分野、専門分野の科目の講義、実習をおこなう。

1年次では、基礎分野（人間と生活、科学的思考）、専門基礎分野（解剖学、生理学、運動学、医学史、衛生学・公衆衛生学、関係法規、柔道）、専門分野（柔道整復総論、柔道整復各論、柔道整復実技、臨床実習）の科目を履修する。社会人基礎力を身につけるとともに、柔道整復術と医学の基礎を学ぶ。また、附属臨床実習施設で臨床実習を行い、医療人としての態度や人間性、倫理観を養うとともに職業理解を深める。

2年次では、基礎分野（人間と生活、外国語）、専門基礎分野（運動学、病理学概論、一般臨床医学、外科学概論、整形外科学、リハビリテーション医学）、専門分野（柔道整復各論、柔道整復実技、臨床実習）の科目を履修する。様々な疾病や外傷を学ぶことで、柔道整復師の業務範囲内・外の疾患を的確に評価・鑑別・施術ができる医学的知識と専門技術を身につけていく。また、臨床実習では、実習指導者の指導・監督の下で施術の介助を行い、臨床的な能力を養う。

3年次では、国家試験対策の科目や、認定実技審査に対応した科目を履修し、これまで修得した専門的知識と技術を高める。また、臨床実習では、模擬患者を相手に、問診から施術、施術録（カルテ）の作成まで、一連の流れが実践できる能力を養う。医療面接を通して医療人としてのコミュニケーション能力や、鑑別診断、外傷を適切に処置できる知識と技術を修得するとともに、臨床実習終了後は、症例報告会を行い、意見交換を行うことで、専門的知識の理解を深める。

以上を通して、柔道整復師としての専門的知識と技術を身につけ、柔道整復師の国家資格取得を目指す。

柔道整復科 科目及び授業時間数

令和8年度 入学生				1年次		2年次		3年次		
分野	教育内容	科目名	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
基礎分野	科学的思考の基盤人間と生活	人間と生活Ⅰ	2	30	2	30				
		人間と生活Ⅱ	2	30	2	30				
		人間と生活Ⅲ	2	30			2	30		
		科学的思考Ⅰ	2	30	2	30				
		科学的思考Ⅱ	2	30	2	30				
		科学的思考Ⅲ	2	30	2	30				
		外国語	2	30			2	30		
	小計	14	210	10	150	4	60			
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	2	60	2	60				
		解剖学Ⅱ	3	75	3	75				
		解剖学Ⅲ	1	30					1	30
		生理学Ⅰ	2	60	2	60				
		生理学Ⅳ	1	15	1	15				
		生理学Ⅱ	2	60	2	60				
		生理学Ⅴ	1	15	1	15				
		生理学Ⅲ	1	30					1	30
		運動学Ⅰ	1	30	1	30				
		運動学Ⅱ	1	30			1	30		
	小計	15	405	12	315	1	30	2	60	
	疾病と障害	病理学概論	2	60			2	60		
		一般臨床医学Ⅰ	2	60			2	60		
		外科学概論	2	60			2	60		
		整形外科Ⅰ	2	60			2	60		
		リハビリテーション医学Ⅰ	2	60			2	60		
		リハビリテーション医学Ⅱ	1	15			1	15		
	小計	11	315			11	315			
	柔道整復術の適応	一般臨床医学Ⅱ	1	15			1	15		
		整形外科Ⅱ	1	15			1	15		
小計	2	30			2	30				
保健医療福祉と柔道整復の理念	医学史	1	15	1	15					
	衛生学・公衆衛生学	2	60	2	60					
	関係法規Ⅰ	1	30	1	30					
	関係法規Ⅲ	1	30					1	30	
	柔道Ⅰ	2	60	2	60					
	柔道Ⅱ	1	45					1	45	
小計	8	240	6	165			2	75		
社会保障制度	関係法規Ⅱ	1	15					1	15	
	小計	1	15					1	15	
専門分野	基礎柔道整復学	柔道整復総論Ⅰ	3	75	3	75				
		柔道整復総論Ⅱ	1	30	1	30				
		柔道整復総論Ⅲ	1	30					1	30
		基礎演習Ⅰ	2	60					2	60
		基礎演習Ⅱ	1	30					1	30
		基礎演習Ⅲ	1	30					1	30
		基礎演習Ⅳ	1	30					1	30
		基礎演習Ⅴ	1	30					1	30
	小計	11	315	4	105			7	210	
	臨床柔道整復学	柔道整復各論Ⅰ	1	30	1	30				
		柔道整復各論Ⅱ	3	75			3	75		
		柔道整復各論Ⅲ	3	75			3	75		
		柔道整復各論Ⅳ	2	60			2	60		
		柔道整復各論Ⅴ	2	60					2	60
		柔道整復各論Ⅵ	1	30					1	30
		臨床演習Ⅰ	1	30					1	30
		臨床演習Ⅱ	2	60					2	60
		臨床演習Ⅲ	2	60					2	60
		臨床演習Ⅳ	2	60					2	60
	小計	19	540	1	30	8	210	10	300	
柔道整復実技	柔道整復実技Ⅰ	2	60	2	60					
	柔道整復実技Ⅱ	2	60	2	60					
	柔道整復実技Ⅲ	1	30	1	30					
	柔道整復実技Ⅳ	2	60			2	60			
	柔道整復実技Ⅴ	2	60			2	60			
	柔道整復実技Ⅵ	2	60			2	60			
	柔道整復実技Ⅶ	2	60			2	60			
	柔道整復実技Ⅷ	1	30			1	30			
	柔道整復実技Ⅸ	3	90					3	90	
小計	17	510	5	150	9	270	3	90		
臨床実習	臨床実習Ⅰ	1	45	1	45					
	臨床実習Ⅱ	1	45			1	45			
	臨床実習Ⅲ	1	45					1	45	
	臨床実習Ⅳ	1	45					1	45	
	小計	4	180	1	45	1	45	2	90	
合計			102	2760	39	960	36	960	27	840

科目名	人間と生活 I						柔道整復科 II 部		
学科	1年	分野	基礎	単位数	2単位	時間数	30時間	期間	1学期
評価担当	下迫 勇夫			担当 教員	下迫 勇夫				
科目概要	現代社会における様々な問題を発見し、考察することで社会への興味・関心を高め、社会人として必要な基礎知識を身につける。またグループワークをとおして傾聴性や協調性などの能力を育成する。								
到達目標	①日本の政治体制・三権分立・権利の仕組みについて理解する。 ②宗教(仏教・キリスト教・イスラム教)について理解し、宗教問題について説明することができる。 ③国際連合・国際政治・国際社会についての関係を理解し説明することができる								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	日本現代史(1)	日本通史(大和王権の成立から現代まで)					講義	下迫	
2	日本現代史(2)	明治以後第二次世界大戦までの歴史(流れ)					講義	下迫	
3	日本の民主化と戦後の発展(1)	日本国憲法 前文と条文の構成 憲法改正の問題					講義	下迫	
4	日本の民主化と戦後の発展(2)	国会・内閣・裁判所					講義	下迫	
5	社会保障制度	資本主義社会下における生存権の保障・医療分野					講義	下迫	
6	戦後の国際経済	ブレトンウッズ体制・IMF 設立					講義	下迫	
7	国際連合の仕組み	国際平和と安全の維持					講義	下迫	
8	東西冷戦	キューバ危機、ベルリン危機					講義	下迫	
9	中東の混乱	イギリスとオスマン帝国					講義	下迫	
10	EU	EUの誕生と発展					講義	下迫	
11	世界の三大宗教(1)	仏教					講義	下迫	
12	世界の三大宗教(2)	キリスト教					講義	下迫	
13	世界の三大宗教(3)	イスラム教					講義	下迫	
14	古代ヨーロッパ史	古代ローマ帝国とゲルマン民族					講義	下迫	
15	日本の課題	少子化、教育(家庭教育、学校教育、社会教育)、国力の低下、国防、資源の確保、日本社会の将来					講義	下迫	
評価方法									
評価指標	小テスト	-	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	100
教科書	適宜、プリントを配布する。								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の 注意点	①新聞を読む習慣を身につけること。 ②評価は次時の開始五分間で、毎時実施する。								

科目名	人間と生活Ⅱ						柔道整復科Ⅱ部		
学科	1年	分野	基礎	単位数	2単位	時間数	30時間	期間	1～3学期
評価担当	富永 忠雅			担当 教員	富永 忠雅				
科目概要	円滑な人間関係の構築を実現するための基盤としてのコミュニケーション力(主として、話す力・聞く力・書く力)を育成する。 教材に基づく講義や演習を通して、場面に応じた応対ができるよう、実践的な力を養成する。								
到達目標	①考える力、話し聴く力、読み書く力の基礎を養う。 ②場面と相手に応じた応対(説明、医療面接など)が適切にできるようになる。								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	オリエンテーション、聴く力・話す力の基礎	授業内容の概要説明、履修上の注意点、聴くことの留意点、傾聴について					講義	富永	
2	読解力の養成(1)	読解力養成問題とその解説					演習	富永	
3	読解力の養成(2)	読解力養成問題とその解説					演習	富永	
4	読解力の養成(3)	読解力養成問題とその解説					演習	富永	
5	要約の作成(1)	教科書を利用し、要約を書く					演習	富永	
6	要約の作成(2)	教科書を利用し、要約を書く					演習	富永	
7	ディスカッション(1)	題材について議論する					演習	富永	
8	ディスカッション(2)	題材について議論する					演習	富永	
9	ディスカッション(3)	題材について議論する					演習	富永	
10	解説文(1)	題材について解説文を作成(レポート)					演習	富永	
11	解説文(2)	題材について解説文を作成(レポート)					演習	富永	
12	スピーチ・読解問題(1)	スピーチの評価・読解力養成問題とその解説					演習	富永	
13	スピーチ・読解問題(2)	スピーチの評価・読解力養成問題とその解説					演習	富永	
14	スピーチ・読解問題(3)	スピーチの評価・読解力養成問題とその解説					演習	富永	
15	まとめ	一学年学習内容の総括					演習	富永	
<b>評価方法</b>									
評価指標	提出物	レポート	スピーチ	-	-	-	合計		
評価割合(%)	50	25	25	-	-	-	100		
教科書	適宜、プリントを配布する。								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の 注意点	①表現活動が多くなるので、積極的に取り組むこと。 ②グループによる話し合い活動においては、まず初めに自分の考えを必ず持つこと。その後、考えを出し合うようにすること。 ③講義をしっかり聞いて演習に臨み、課題の提出期日に遅れず提出すること。								

科目名	人間と生活Ⅲ						柔道整復科Ⅱ部		
学科	2年	分野	基礎	単位数	2単位	時間数	30時間	期間	1～3学期
評価担当	館原 宗幸			担当教員	館原 宗幸				
科目概要	円滑な人間関係の構築を実現する基盤としてのコミュニケーションの力（話す力・聴く力・読む力・書く力）を育成する。講師作成の教材に基づく講義や演習を通して、場面に応じた応対ができるよう、実践的な力を養成する。								
到達目標	①考える力、話し聴く力、読み書く力の基礎となる日本語に対する感性を養う。 ②目的と相手に応じた文書（履歴書、送り状など）が作成できるようになる。 ③場面と相手に応じた応対（説明、医療面接など）が適切にできるようになる。								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	オリエンテーション	授業内容の概要説明、新聞について、5W1H					講義 演習	館原	
2	自分新聞をつくろう	材料集め、構成、新聞づくり→相互評価					講義 演習	館原	
3	聴く力・話す力の基礎	聴くことの留意点、話の構成の仕方、傾聴について					演習	館原	
4	スピーチ(1)・敬語(1)	スピーチの評価・敬語の必要性、敬語の種類、種類とその使い方					講義 演習	館原	
5	スピーチ(2)・敬語(2)	スピーチの評価・敬語の種類とその使い方					演習	館原	
6	短い文章の作成	新聞記事を利用し、短い文章を書く					演習	館原	
7	スピーチ(3)・敬語まとめ	スピーチの評価・敬語まとめテスト					演習	館原	
8	スピーチ(4)・読解問題(1)	スピーチの評価・読解力養成問題とその解説					演習	館原	
9	スピーチ(5)・読解問題(2)	スピーチの評価・読解力養成問題とその解説					演習	館原	
10	読解力の養成(1)	読解力養成問題とその解説					演習	館原	
11	読解力の養成(2)	読解力養成問題とその解説					演習	館原	
12	短い文章の作成	テーマ「私の出会った神対応」 構想と構成 評価					演習	館原	
13	履歴書の作成(1)	履歴書作成上の留意点、作成					講義 演習	館原	
14	履歴書の作成(2)	履歴書作成(提出→添削後返却)					講義 演習	館原	
15	就職のための面接	面接の作法、模擬面接					講義 演習	館原	
評価方法									
評価指標	提出物	自分新聞	履歴書	スピーチ等	短文章	小テスト	合計		
評価割合(%)	40	15	10	15	10	10	100		
教科書	適宜、プリントを配布する。								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義をしっかり聞いて、演習に臨み、課題の提出期日に遅れず提出すること。								

科目名	科学的思考 I						柔道整復科 II 部		
学科	1 年	分野	基礎	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	1 学期
評価担当	當眞 裕樹			担当教員	當眞 裕樹				
科目概要	スポーツ心理学分野を中心とし、スポーツと発達、動機づけ、運動による健康の増進、競技者心理などを学習する。また、性格検査を実施し、その結果から自身の心理的特徴を理解するための手掛りとする。								
到達目標	科学的思考を涵養し、社会に関する幅広い知識とコミュニケーション能力の素養を身につける。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	概要および性格検査		授業概要および YG 性格検査の実施				講義	當眞	
2	性格検査		YG 性格検査ふりかえり				講義	當眞	
3	スポーツと発達 1		運動発達、社会性の発達				講義	當眞	
4	スポーツと発達 2		子どもへの動機付け、スポーツ指導				講義	當眞	
5	運動の制御機構		運動の言語化、イメージ				講義	當眞	
6	運動の学習と指導		運動プログラムの獲得				講義	當眞	
7	スポーツにおける動機づけ		自己効力感、セルフハンディキャップ				講義	當眞	
8	スポーツの社会心理		リーダーシップ、ソーシャルスキル				講義	當眞	
9	運動による健康の増進 1		ストレス、不安				講義	當眞	
10	運動による健康の増進 2		運動行動の促進				講義	當眞	
11	競技心理 1		アスリートの心性				講義	當眞	
12	競技心理 2		コーチングの心理				講義	當眞	
13	メンタルトレーニング		リラクゼーション技法				講義	當眞	
14	スポーツ臨床		スポーツ傷害と心理、バーンアウト				講義	當眞	
15	まとめ		まとめ				講義	當眞	
評価方法									
評価指標		小テスト ワークシート等	授業参加度	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		60	40	-	-	-	-	100	
教科書	よくわかるスポーツ心理学 ミネルヴァ書房 2,400 円+税								
教材・参考図書	YG 性格検査用紙								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の 注意点	グループでの活動を伴うことがある為、積極的な活動を期待します。								

科目名	科学的思考Ⅱ						柔道整復科Ⅱ部		
学科	1年	分野	基礎	単位数	2単位	時間数	30時間	期間	1～2学期
評価担当	田淵 弘太郎			担当教員	田淵 弘太郎				
科目概要	生物学は健康や病気を理解するために欠かせない基礎的な学問である。ヒトの詳細な機能を理解するためには『生物』というものをより詳しく理解しなければならない。本講義ではヒトの構造・機能を理解するのに必要な基礎的な理解・知識について講義を行う。								
到達目標	①生物の定義を理解しヒトの構造とその機能を理解し説明できる。 ②体内における物質代謝について説明できる。 ③各器官の機能について説明できる。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	人体を構成する要素 ホメオスタシス	原子・分子・細胞・組織・器官など、内部環境、ホメオスタシス				講義	田淵		
2	からだの科学的構成(1)	原子の構造、イオンと同位体、分子と化学結合、栄養素の種類(5大栄養素)				講義	田淵		
3	評価(1)	1～2回の評価				演習	田淵		
4	からだの科学的構成(2)	糖質の種類と構成元素、蛋白質の種類と構成元素、蛋白質の機能、脂質の種類と構成元素				講義	田淵		
5	からだの科学的構成(3)	栄養素の代謝、代謝調節とホルモン				講義	田淵		
6	評価(2)	4～5回の評価				演習	田淵		
7	循環器の機能	心筋の特徴、刺激伝導系、心電図、心周期、循環調節				講義	田淵		
8	呼吸器の機能	換気の仕組み、換気量と残気量				講義	田淵		
9	評価(3)	7～8回の評価				演習	田淵		
10	神経系の基本機能	静止膜電位、活動電位、伝導、伝達、				講義	田淵		
11	神経系の成り立ち	中枢神経、末梢神経、反射				講義	田淵		
12	評価(4)	10～11回の評価				演習	田淵		
13	尿の生成と排泄	再吸収と分泌排尿				講義	田淵		
14	感覚器	一般感覚、特殊感覚				講義	田淵		
15	評価(5)	13～14回の評価				演習	田淵		
評価方法									
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	100
教科書	生理学 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥6,600+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の 注意点	生理学の教科書をもちいて講義を行うが、適宜必要な理解・知識等を追加しながら講義を行うため、ノートをきちんと作成すること。前回授業の内容を踏まえて講義を実施するため、各講義後に復習を行うこと。								

科目名	科学的思考Ⅲ						柔道整復科Ⅱ部		
学科	1年	分野	基礎	単位数	2単位	時間数	30時間	期間	1～3学期
評価担当	大神 啓裕			担当 教員	大神 啓裕				
科目概要	現代の情報社会では、IoT(モノのインターネット)やAI(人工知能)等の発展により、以前に比べ情報端末やインターネットがより私たちの生活に浸透してきている。そのため、本講義では基礎的な情報リテラシー(知識や能力)を身につけることをめざす。								
到達目標	①情報機器を使用し情報の発信、検索、取得などができ、情報の信頼性・信憑性を検討することができる。 ②情報機器により報告書や広告の作成ができる。								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	Gmail、Google Classroom	Gmail、Google Classroom の設定					講義	大神	
2	情報の扱い方	情報発信時の注意点					演習	大神	
3	情報発信の注意点、SNS について	情報発信時の注意点をまとめ、その発表					演習	大神	
4	個人情報・肖像権、知的財産権	個人情報・肖像権について、知的財産権について					講義	大神	
5	情報機器の扱い方(1)	キーボード配置、確認					演習	大神	
6	情報機器の扱い方(2)	タイピング					演習	大神	
7	情報収集方法(1)	図書館、医中誌の使用について					演習	大神	
8	情報収集方法(2)	メディカルオンラインについて					演習	大神	
9	生成 AI と嘘情報(1)	生成 AI と嘘情報について、そのまとめる					演習	大神	
10	生成 AI と嘘情報(2)	生成 AI と嘘情報についての発表					演習	大神	
11	報告書の作成(1)	Word を使用した報告書作成					演習	大神	
12	報告書の作成(2)	Google ドキュメントを使用した報告書作成					演習	大神	
13	広告の描き方(1)	広告作成の注意点、作成					演習	大神	
14	広告の描き方(2)	パワーポイントを使用した広告作成					演習	大神	
15	広告の描き方(3)	Google スライド、ペイントを使用した広告作成					講義	大神	
<b>評価方法</b>									
評価指標	レポート	小テスト	課題	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	10	10	80	-	-	-	-	100	
教科書	適宜指示する。								
教材・参考図書	適宜指示する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の 注意点	①出席し課題などに取り組むことが評価の前提となるため、必ず出席すること。 ②グループでの活動を伴うことがある為、積極的な活動を期待します。								

科目名	外国語						柔道整復科Ⅱ部		
学科	2年	分野	基礎	単位数	2単位	時間数	30時間	期間	1～3学期
評価担当	井原 恒治			担当教員	井原 恒治				
科目概要	<p>患者が来院し、外来受付から受診・検査・治療・会計までの各場面で使う基本語彙や重要表現を、次の4項目の演習を通じて習得させる。①聞いて理解できる②話すことができる③読んで理解することができる④書いて表現する事ができる。</p> <p>以上を踏まえ、患者との対話を想定したロールプレイなどを通して活きた英語運用力を養成する。</p>								
到達目標	<p>医療分野でコメディカルを目指す学生が、外来病棟を中心とした最新の病気や症例に関する学習の意欲を持続させ、限られた時間の中で英語運用能力を習得する事を目標とする。できるだけ医療現場で使える英会話に慣れさせる事を目指す。</p>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	オリエンテーション Chapter 1	授業展開に関する注意。自己紹介、受付における基本的な会話のやりとりを演習、患者対応の基本を演習				講義 演習	井原		
2	Chapter 2	病院内の各場所を分かりやすく案内、方向や位置を表す表現を演習、今までの学習の理解度テストを実施				講義	井原		
3	Chapter 3	患者の症状などを聴取し情報を収集、痛みの表現を演習				講義 演習	井原		
4	Chapter 4	患者の痛みの訴えを問診				講義 演習	井原		
5	Chapter 5	人体の各部位の名称を覚える、患者の症状の問診を練習、今までの学習の理解度テストを実施				講義 演習	井原		
6	Chapter 6	問診時に使用する重要表現を覚える、患者の症状・既往歴等の尋ね方をペアで演習				講義	井原		
7	Chapter 7	病名を覚える				講義 演習	井原		
8	Chapter 8	アレルギーや生活習慣の尋ね方を演習、英文の紹介状を読んで理解				演習	井原		
9	Chapter 9	臓器の名称を覚える				講義 演習	井原		
10	Chapter 10	バイタルサインの計測に関する表現を覚える、バイタルサインの測定を行う、今までの学習の理解度テストを実施				講義	井原		
11	Chapter 11	整骨院での処置について演習、人骨の名称を覚える				講義 演習	井原		
12	Chapter 12	整骨院での診察について演習				講義 演習	井原		
13	Chapter 13	リハビリ患者への指示の出し方を演習、足関節の可動域を表す表現を覚える				講義	井原		
14	Chapter 14	前十字靭帯損傷に関する文を読んで理解、今までの学習の理解度テストを実施				講義 演習	井原		
15	Chapter 15	会計での基本的な会話のやりとりを演習、医療費領収書の明細を表現できるようにする				講義 演習	井原		
評価方法									
評価指標	ワークシート提出	小テスト	授業参加度等	-	-	-	合計		
評価割合(%)	40	50	10	-	-	-	100		
教科書	医療英語コミュニケーション ICL 国際語学センター 医療・福祉英語検定協会 ¥2,381+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	教科書に沿って学習していく。小テストを授業中に適宜行う。公欠を除く欠席者に関しては、小テスト及び理解度テストの点数は0点とする。授業中の私語・携帯電話やスマホの操作・居眠りなどは減点対象とする。								



科目名	解剖学 I						柔道整復科 II 部		
学科	1 年	分野	専門基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	1~2 学期
評価担当	中村 秀樹			担当教員	中村 秀樹				
科目概要	解剖学は人体を理解するうえで最も重要かつ基本となる科目である。解剖学 I では、運動器系を構成する骨格系および筋系の詳細について解説する。授業は講義形式で、教科書、板書やスライドを用いた図解を主とする。体表解剖では、実際に身体に触れつつ解説する。								
到達目標	①人体の骨格と筋の構造と機能について学ぶことで運動器を理解し、全身の関節運動がどのように行われるかを説明できるようになる。 ②実際に身体に触れてみて、その部の名称を答えられるようにする。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	人体解剖学概説(1)	A 意義と分類				講義	中村		
2	人体解剖学概説(2)	E 人体の区分				講義	中村		
3	骨格系(1)	総論				講義	中村		
4	骨格系(2)	各論(1) a 脊柱、b 胸郭				講義	中村		
5	骨格系(3)	各論(2) c 上肢骨、d 上肢の関節				講義	中村		
6	骨格系(4)	各論(3) e 下肢骨				講義	中村		
7	評価(1)	1~6 回の評価				演習	中村		
8	骨格系(5)	各論(4) f 下肢の関節				講義	中村		
9	骨格系(6)	各論(5) g 頭蓋				講義	中村		
10	筋系(1)	総論(1) a 筋の形態と起始、停止、b 筋の作用				講義	中村		
11	筋系(2)	総論(2) c 筋の補助装置、d 筋の神経				講義	中村		
12	筋系(3)	各論(1) 2 頭部、3 頸部の筋				講義	中村		
13	筋系(4)	各論(2) 4 胸部の筋、5 呼吸運動				講義	中村		
14	評価(2)	8~13 回の評価				演習	中村		
15	筋系(5)	各論(3) 6 腹部の筋				講義	中村		
16	筋系(6)	各論(4) 7 背部の筋				講義	中村		
17	筋系(7)	各論(5) 8 上肢の筋 a 上肢帯の筋				講義	中村		
18	筋系(8)	各論(6) 8 上肢の筋 b 上腕の筋				講義	中村		
19	筋系(9)	各論(7) 8 上肢の筋 c 前腕の筋				講義	中村		
20	筋系(10)	各論(8) 8 上肢の筋 d 手の筋				講義	中村		
21	筋系(11)	各論(9) 9 下肢の筋 a 下肢帯の筋				講義	中村		
22	評価(3)	15~21 回まで評価				演習	中村		
23	筋系(12)	各論(10) 9 下肢の筋 b 大腿の筋				講義	中村		
24	筋系(13)	各論(11) 9 下肢の筋 c 下腿、d 足の筋				講義	中村		
25	体表解剖(1)	A 体表区分、B 骨格系				講義	中村		
26	体表解剖(2)	C 筋系、H 生態計測				講義	中村		
27	骨格筋運動神経(1)	脊髄神経(1)				講義	中村		
28	骨格筋運動神経(2)	脊髄神経(2)				講義	中村		
29	評価(4)	23~28 回の評価				演習	中村		
30	総括	解剖学 I の総括				講義	中村		
評価方法									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	解剖学 (公社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 ¥7,800+税								
教材・参考図書	イラスト解剖学 松村譲児 中外医学社 ¥7,600+税								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	解剖学で学ぶ知識は膨大な量があるので、確実に身につけていくためには、授業ごとに予習・復習を行うこと。授業における板書では図を多用するので、色分けができるよう、ノートと 4 色以上のボールペン、蛍光ペン、もしくは色鉛筆を準備すること。								

科目名	解剖学Ⅱ						柔道整復科Ⅱ部		
学科	1年	分野	専門基礎	単位数	3単位	時間数	75時間	期間	1～3学期
評価担当	新井 文用			担当教員	新井 文用				
科目概要	解剖学は人体やその疾患・治療を理解するうえで最も基本となる科目である。解剖学Ⅱでは、細胞、組織、脈管系、内臓系、内分泌系、神経系、感覚器、映像解剖について解説する。授業は講義形式で、教科書、板書やスライドでの図解を主とする。								
到達目標	①胸部および腹部内臓の位置、構造を三次元的にとらえ、その基本構造と機能を理解する。 ②神経系および内分泌系の構成、構造と機能を理解し、全身の臓器・組織との関連を説明できる。 ③感覚器の構造と機能を理解する。 ④X線、CT、MRIなどの画像診断の特性と映像について理解する。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	組織(1)	B 細胞および組織(1)				講義	新井		
2	組織(2)	B 細胞および組織(2)				講義	新井		
3	組織(3)	C 発生				講義	新井		
4	組織(4)	D 器官系統				講義	新井		
5	脈管系(1)	A 総論				講義	新井		
6	脈管系(2)	B 心臓				講義	新井		
7	評価(1)	1～6回の評価				演習	新井		
8	脈管系(3)	C 心脈管系(1) 肺循環と体循環				講義	新井		
9	脈管系(4)	C 心脈管系(2) 動脈系(頭部、頸部、上肢)				講義	新井		
10	脈管系(5)	C 心脈管系(3) 動脈系(胸腹部、骨盤、下肢)				講義	新井		
11	脈管系(6)	C 心脈管系(4) 静脈系と胎児循環				講義	新井		
12	脈管系(7)	D リンパ系				講義	新井		
13	内臓系(1)	A 消化器(1) 口、口腔腺、歯、舌				講義	新井		
14	評価(2)	8～13回の評価				演習	新井		
15	内臓系(2)	A 消化器(2) 咽頭、食道、胃、小腸、大腸				講義	新井		
16	内臓系(3)	A 消化器(3) 肝臓と胆道、膵臓、腹膜				講義	新井		
17	内臓系(4)	B 呼吸器(1) 外鼻、鼻腔と副鼻腔、咽頭、喉頭				講義	新井		
18	内臓系(5)	B 呼吸器(2) 気管および気管支、肺、胸膜、縦隔				講義	新井		
19	内臓系(6)	C 泌尿器				講義	新井		
20	内臓系(7)	D 生殖器(1) 男性生殖器				講義	新井		
21	内臓系(8)	D 生殖器(2) 女性生殖器				講義	新井		
22	評価(3)	15～21回の評価				演習	新井		
23	内分泌系(1)	内分泌器の働き、下垂体、松果体、甲状腺				講義	新井		
24	内分泌系(2)	上皮小体、副腎、膵臓、精巣、卵巣				講義	新井		
25	神経系(1)	A 神経系の基礎				講義	新井		
26	神経系(2)	B 脳				講義	新井		
27	神経系(3)	C 脊髄				講義	新井		
28	神経系(4)	D 末梢神経(1) 脳神経Ⅰ～Ⅵ				講義	新井		
29	評価(4)	23～28回の評価				演習	新井		
30	神経系(5)	D 末梢神経(2) 脳神経Ⅶ～Ⅻ				講義	新井		
31	神経系(6)	D 末梢神経(3) 脊髄神経				講義	新井		
32	神経系(7)	D 末梢神経(4) 自律神経				講義	新井		
33	感覚器(1)	A 外皮				講義	新井		
34	感覚器(2)	B 視覚器				講義	新井		
35	感覚器(3)	C 聴覚器および平衡器、D 味覚器				講義	新井		
36	映像解剖	X線、CT、MRI、サーモグラフィ				講義	新井		
37	評価(5)	30～36回の評価				演習	新井		
38	総括	解剖学Ⅱの総括				講義	新井		
評価方法									
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	解剖学 (公社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 ¥7,800+税								
教材・参考図書	イラスト解剖学 松村譲児 中外医学社 ¥7,600+税								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の注意	解剖学で学ぶ知識は膨大な量があるので、確実に身につけていくためには、授業ごとに予習・復習を行うこと。授業における板書では図を多用するので、色分けができるよう、ノートと4色以上のボールペン、蛍光ペン、もしくは色鉛筆を準備すること。								

科目名	解剖学Ⅲ						柔道整復科Ⅱ部		
学科	3年	分野	専門基礎	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	2～3学期
評価担当	長門 俊一			担当教員	長門 俊一				
科目概要	1年次において履修した解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱにて獲得した知識をもとに、国家試験問題を解くにあたっての技術を身につける。								
到達目標	①人体を構成する細胞・組織・器官が身体の中のどの部位にあるのか理解し説明できる。 ②諸器官の形態・構造および機能を一体として把握することができる。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	人体解剖学概説	人体各部の名称など解剖学的用語				講義	長門		
2	細胞および組織(1)	細胞内小器官、細胞周期と細胞分裂				講義	長門		
3	細胞および組織(2)	組織の分類と特性、人体の発生				講義	長門		
4	運動器系(1)	総論、脊柱、胸郭、上肢の骨格、下肢の骨格、頭蓋骨				講義	長門		
5	運動器系(2)	体幹の筋、上肢の筋、下肢の筋、頭頸部の筋				講義	長門		
6	脈管系(1)	血管系、心臓				講義	長門		
7	脈管系(2)	動脈系、静脈系、胎児循環、リンパ系				講義	長門		
8	呼吸器系	鼻腔・副鼻腔、咽頭・喉頭、気管と気管支、肺、				講義	長門		
9	消化器系(1)	消化管の基本構造、口腔、咽頭、食道				講義	長門		
10	消化器系(2)	胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜				講義	長門		
11	泌尿器系 生殖器系	腎臓、尿路、男性生殖器、女性生殖器、受精と発生				講義	長門		
12	内分泌系	下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓、性腺				講義	長門		
13	神経系(1)	神経系の構造、脊髄、延髄と橋、中脳、小脳、間脳、大脳、脳室系				講義	長門		
14	神経系(2)	髄膜、脳脊髄液、脳の血管、末梢神経系				講義	長門		
15	感覚器系	視覚器、平衡感覚器、味覚器、嗅覚器				講義	長門		
評価方法									
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	解剖学 (公社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 ¥7,800+税								
教材・参考図書	イラスト解剖学 松村譲児 中外医学社 ¥7,600+税								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の 注意点	解剖学で学ぶ知識は膨大な量があるので、確実に身につけていくためには、授業ごとに予習・復習を行うこと。授業における板書では図を多用するので、色分けができるよう、ノートと4色以上のボールペン、蛍光ペン、もしくは色鉛筆を準備すること。								

科目名	生理学 I					柔道整復科 II 部			
学科	1 年	分野	専門基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	1～2 学期
評価担当	岡本 順子			担当教員	岡本 順子				
科目概要	生理学は人体の正常な機能を理解するうえで最も重要かつ基本となる学問である。生理学 I では、血液、循環、消化などの学習をとおして、人体の構造と機能及び心身の発達を系統立てて理解できる能力を養う。								
到達目標	①生理学の基礎を説明できる。 ②血液、循環、呼吸の機能を説明できる。 ③栄養と代謝、消化と吸収の関連性と機能を説明できる。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	生理学とは(1)	A 細胞の構造と機能(1～2)				講義	岡本		
2	生理学とは(2)	A 細胞の構造と機能(3～4)				講義	岡本		
3	血液(1)	A 血液の成分と組成				講義	岡本		
4	血液(2)	B 止血				講義	岡本		
5	血液(3)	C 血液型				講義	岡本		
6	血液(4)	D 免疫				講義	岡本		
7	評価(1)	1～6 回の評価				演習	岡本		
8	循環(1)	A 心臓(1～2)				講義	岡本		
9	循環(2)	A 心臓(3～4)				講義	岡本		
10	循環(3)	B 血管(1～2)				講義	岡本		
11	循環(4)	B 血管(3～4)				講義	岡本		
12	循環(5)	C リンパ系				講義	岡本		
13	循環(6)	D 循環調節				講義	岡本		
14	評価(2)	8～13 回の評価				演習	岡本		
15	呼吸の生理学(1)	A 呼吸器系の構造、B 換気(1～3)				講義	岡本		
16	呼吸の生理学(2)	B 換気(4～5)、C ガス交換と運搬				講義	岡本		
17	呼吸の生理学(3)	D 呼吸周期の調節				講義	岡本		
18	栄養と代謝(1)	A 生体に必要な栄養素				講義	岡本		
19	栄養と代謝(2)	B エネルギー代謝				講義	岡本		
20	栄養と代謝(3)	C 栄養素の代謝、D 食物と栄養				講義	岡本		
21	消化と吸収(1)	A 消化器系の構成とはたらき(1～3)				講義	岡本		
22	評価(3)	15～21 回の評価				演習	岡本		
23	消化と吸収(2)	A 消化器系の構成とはたらき(4～6)				講義	岡本		
24	消化と吸収(3)	B 食物の消化と吸収				講義	岡本		
25	消化と吸収(4)	C 栄養素の消化と吸収(1～3)				講義	岡本		
26	消化と吸収(5)	C 栄養素の消化と吸収(4～7)				講義	岡本		
27	生殖(1)	A 性分化、B 男性生殖器				講義	岡本		
28	生殖(2)	C 女性生殖器、D 妊娠と分娩				講義	岡本		
29	評価(4)	23～28 回の評価				演習	岡本		
30	総括	生理学 I の総括				講義	岡本		
評価方法									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	生理学 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥6,000+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	初めて学ぶ学問であるため、授業ごとに予習・復習を行い、疑問を持ったらそのままにせず、調べたり教員に質問したりして早めに解決することを心掛ける。人体についての学問であり、生理学Ⅱ、Ⅳ、Ⅴや解剖学と独立するものではないので、それらをつなぎ合わせて総合的に理解することが重要である。								

科目名	生理学Ⅱ					柔道整復科Ⅱ部			
学科	1年	分野	専門基礎	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～2学期
評価担当	鍛冶屋 浩			担当教員	鍛冶屋 浩				
科目概要	生理学は人体の正常な機能を理解するうえで最も重要かつ基本となる学問である。生理学Ⅱでは、筋、神経、内分泌などの学習をとおして、人体の構造と機能及び心身の発達を系統立てて理解できる能力を養う。								
到達目標	①生理学の基礎を説明できる。 ②筋、神経、感覚のメカニズムを説明できる。 ③内分泌の機能や役割を説明できる。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	生理学とは(1)	B 組織・器官と生体の機能系				講義	鍛冶屋		
2	生理学とは(2)	C 生体の恒常性と統合機能、D 体液の区分と組成				講義	鍛冶屋		
3	筋の生理(1)	A 骨格筋(1～2)				講義	鍛冶屋		
4	筋の生理(2)	A 骨格筋(3～4)				講義	鍛冶屋		
5	筋の生理(3)	B 心筋、C 平滑筋				講義	鍛冶屋		
6	神経の生理(1)	A 神経信号の伝達(1～3)				講義	鍛冶屋		
7	評価(1)	1～6回の評価				演習	鍛冶屋		
8	神経の生理(2)	A 神経信号の伝達(4～5)				講義	鍛冶屋		
9	神経の生理(3)	B 神経系の構成、C 脳の高次機能(1～3)				講義	鍛冶屋		
10	神経の生理(4)	C 脳の高次機能(4～6)				講義	鍛冶屋		
11	神経の生理(5)	D 内臓機能の調節(1～3)				講義	鍛冶屋		
12	神経の生理(6)	D 内臓機能の調節(4～5)				講義	鍛冶屋		
13	運動の生理(1)	A 運動の調節、B 運動神経と運動単位				講義	鍛冶屋		
14	評価(2)	8～13回の評価				演習	鍛冶屋		
15	運動の生理(2)	C 脊髄による反射とその調節				講義	鍛冶屋		
16	運動の生理(3)	D 脳幹による運動調節、E 高次運動機能				講義	鍛冶屋		
17	感覚の生理(1)	A 感覚の一般的な特性				講義	鍛冶屋		
18	感覚の生理(2)	B 特殊感覚(1～2)				講義	鍛冶屋		
19	感覚の生理(3)	B 特殊感覚(3～4)				講義	鍛冶屋		
20	感覚の生理(4)	B 特殊感覚(5)、C 体性感覚				講義	鍛冶屋		
21	感覚の生理(5)	D 内臓感覚、E 痛覚				講義	鍛冶屋		
22	評価(3)	15～21回の評価				演習	鍛冶屋		
23	内分泌(1)	A 内分泌腺とホルモン(1～4)				講義	鍛冶屋		
24	内分泌(2)	A 内分泌腺とホルモン(4～6)				講義	鍛冶屋		
25	内分泌(3)	B それぞれの内分泌腺とホルモン(1～2)				講義	鍛冶屋		
26	内分泌(4)	B それぞれの内分泌腺とホルモン(3～6)				講義	鍛冶屋		
27	内分泌(5)	B それぞれの内分泌腺とホルモン(7～11)				講義	鍛冶屋		
28	内分泌(6)	C ホルモンによる内部環境の恒常性維持				講義	鍛冶屋		
29	評価(4)	23～28回の評価				演習	鍛冶屋		
30	総括	生理学Ⅱの総括				講義	鍛冶屋		
評価方法									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	生理学 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥6,600+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	初めて学ぶ学問であるため、授業ごとに予習・復習を行い、疑問を持ったままにせず、調べたり教員に質問したりして早めに解決することを心掛ける。人体についての学問であり、生理学Ⅰ、Ⅳ、Ⅴや解剖学と独立するものではないので、それらをつなぎ合わせて総合的に理解することが重要である。								

科目名	生理学Ⅲ						柔道整復科Ⅱ部		
学科	3年	分野	専門基礎	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	2～3学期
評価担当	加藤 健一			担当 教員	加藤 健一				
科目概要	生理学は人体の機能を明らかにし、その機能がどのような機序で現れるかを追求する学問である。現在の生理学は、解剖学的知識や実験などにより得られた科学的証拠に基づき構築されている。その成果は臨床医学の領域で病気の治療に不可欠な知識を提供している。								
到達目標	国家試験へ向けて基本事項～応用に至るまでの理解を深めていく中で、生理学と関連性の大きい種々の疾患理解し、説明することができるようになる。								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	生理学基礎、体液の生理学	人体を構成する要素、恒常性維持のしくみ					講義	加藤	
2	神経系の機能	内臓機能調節、姿勢と運動の調節、高次機能					講義	加藤	
3	感覚の生理学	感覚の種類・性質、体性感覚と内臓感覚、特殊感覚					講義	加藤	
4	内分泌系の機能	ホルモンの性質・種類・作用、					講義	加藤	
5	生殖、骨の生理学	性分化、生殖器、月経周期、妊娠分娩、乳汁分泌、骨の構造、形成と成長、再吸収と再形成					講義	加藤	
6	筋肉の機能	種類と特徴、筋の構造、収縮、興奮、筋長と張力					講義	加藤	
7	血液の生理学	血液の役割と組成、免疫機能、血液型、血液凝固					講義	加藤	
8	循環の生理学	心臓の機能、血管系、リンパ管系、循環の調節					講義	加藤	
9	呼吸の生理学	換気、ガス交換、ヘモグロビンの役割、二酸化炭素の運搬、呼吸の調節、呼吸の異常					講義	加藤	
10	消化と吸収	消化器系の働き、運動とその調節					講義	加藤	
11	栄養と代謝	代謝、中間代謝、エネルギー代謝					講義	加藤	
12	体温とその調節	体温、熱産生と熱放散、体温調節、うつ熱と発熱					講義	加藤	
13	尿の生成と排泄	腎の構造と機能、糸球体ろ過、尿細管の再吸収と分泌、尿の成分、排尿					講義	加藤	
14	高齢者の生理学的特徴	呼吸・循環器、消化・泌尿器、免疫系の老化					講義	加藤	
15	競技者の生理学的特徴	運動トレーニングと筋・神経系、運動と呼吸・循環器の機能					講義	加藤	
評価方法									
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	生理学 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥6,600+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の 注意点	1年次で学んだ内容をもとに、国家試験問題に対応する力を身につけていくことになるが、1年次の時より授業進度が速いので、授業で分からなかったことは、理解できるまで必ず自分で調べ、考え、質問し、解決する癖を身につけること。								

科目名	生理学Ⅳ					柔道整復科Ⅱ部			
学科	1年	分野	専門基礎	単位数	1単位	時間数	15時間	期間	3学期
評価担当	岡本 順子				担当 教員	岡本 順子			
科目概要	生理学は人体の正常な機能を理解するうえで最も重要かつ基本となる学問である。生理学Ⅳでは、尿の生成と排泄、高齢者の生理学的特徴などの学習をとおして、人体の構造と機能及び心身の発達を系統立てて理解できる能力を養う。								
到達目標	①腎臓の機能を説明できる。 ②高齢者の生理学的特徴を説明できる。								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	尿の生成と排泄(1)	A 腎臓の構造と機能					講義	岡本	
2	尿の生成と排泄(2)	B 尿の生成					講義	岡本	
3	尿の生成と排泄(3)	C 腎血流量					講義	岡本	
4	尿の生成と排泄(4)	D 排尿、E 腎臓による体液の調節					講義	岡本	
5	高齢者の生理学的特徴(1)	A 細胞・組織の加齢現象					講義	岡本	
6	高齢者の生理学的特徴(2)	B 高齢者の生理的特徴、C 運動と加齢					講義	岡本	
7	評価	1～6回の評価					演習	岡本	
8	総括	生理学Ⅳの総括					講義	岡本	
評価方法									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	生理学 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥6,600+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の 注意点	授業ごとに予習・復習を行い、疑問を持ったままにせず、調べたり教員に質問したりして早めに解決することを心掛ける。人体についての学問であり、生理学Ⅰ、Ⅱ、Ⅴや解剖学と独立するものではないので、それらをつなぎ合わせて総合的に理解することが重要である。								

科目名	生理学V						柔道整復科Ⅱ部		
学科	1年	分野	専門基礎	単位数	1単位	時間数	15時間	期間	3学期
評価担当	鍛冶屋 浩			担当 教員	鍛冶屋 浩				
科目概要	生理学は人体の正常な機能を理解するうえで最も重要かつ基本となる学問である。生理学Vでは、骨、体温、発育などの学習をとおして、人体の構造と機能及び心身の発達を系統立てて理解できる能力を養う。								
到達目標	①骨、体温調節機構について説明することができる。 ②発育と発達、競技者の生理学的特徴について説明することができる。								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	骨の生理(1)	A 骨の構造					講義	鍛冶屋	
2	骨の生理(2)	B 骨の成長					講義	鍛冶屋	
3	体温とその調節(1)	A 体温、B 熱産生、C 熱放散					講義	鍛冶屋	
4	体温とその調節(2)	D 体温調節、E 気候順化、F 発熱とうつ熱					講義	鍛冶屋	
5	発育と発達および競技者(1)	A 成長に伴うからだや運動能力の発達					講義	鍛冶屋	
6	発育と発達および競技者(2)	B 競技者の生理学的特徴・変化					講義	鍛冶屋	
7	評価	1～6回の評価					演習	鍛冶屋	
8	総括	生理学Vの総括					講義	鍛冶屋	
<b>評価方法</b>									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	生理学 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥6,600+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の 注意点	授業ごとに予習・復習を行い、疑問を持ったままにせず、調べたり教員に質問したりして早めに解決することを心掛ける。人体についての学問であり、生理学Ⅰ、Ⅱ、Ⅳや解剖学と独立するものではないので、それらをつなぎ合わせて総合的に理解することが重要である。								

科目名	運動学 I						柔道整復科 II 部		
学科	1 年	分野	専門基礎	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	2 学期
評価担当	當眞 裕樹			担当教員	當眞 裕樹				
科目概要	運動学では、人間の身体運動を医科学的に分析研究した知見に基づき、人体の構造や機能を再確認しつつ、正常運動の様態および運動障害等について学習する。								
到達目標	①人間の運動にかかわる身体の機能と構造を理解する。 ②正常な運動を学ぶことで、何が障害されているのかをわかるようになる。								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	運動学の目的	運動学とは、運動学の領域と目的、運動のとりえ方					講義	當眞	
2	身体運動と力学(1)	身体運動に関する力					講義	當眞	
3	身体運動と力学(2)	人体における単一機械構造					講義	當眞	
4	身体運動と力学(3)	運動の法則					講義	當眞	
5	身体運動と力学(4)	仕事と力学的エネルギー					講義	當眞	
6	神経の構造と機能	神経細胞、末梢神経、中枢神経					講義	當眞	
7	評価(1)	1～6 回の評価					演習	當眞	
8	運動感覚	運動感覚と運動の制御機構					講義	當眞	
9	反射と随意運動(1)	反射					講義	當眞	
10	反射と随意運動(2)	随意運動					講義	當眞	
11	姿勢	姿勢の分類、重心、立位姿勢、立位姿勢の制御					講義	當眞	
12	歩行	歩行周期、運動学的分析、力学的分析等					講義	當眞	
13	運動発達	神経組織の成熟、乳幼児期の運動発達					講義	當眞	
14	運動学習	運動技能と運動能力、学習曲線					講義	當眞	
15	評価(2)	8～14 回の評価					演習	當眞	
評価方法									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	運動学 (公社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 ¥4,200+税								
教材・参考図書	イラスト解剖学 松村譲児 中外医学社 ¥7,600+税								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	解剖学、生理学、心理学等の諸知識を基盤とし、運動学専門分野の学習、知識の習得につとめること。 また、前回授業の内容を踏まえて講義を実施するため、各講義後に復習を行うこと。								

科目名	運動学Ⅱ						柔道整復科Ⅱ部		
学科	2年	分野	専門基礎	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	1～2学期
評価担当	小磯 嘉貴			担当教員	小磯 嘉貴				
科目概要	運動学では、人間の身体運動を医科学的に分析研究した知見に基づき、人体の構造や機能を再確認しつつ、正常運動の様態および運動障害等について学習する。								
到達目標	①正常な関節運動は、どのように行われているか説明できるようになる。 ②正常な運動を学ぶことで、何が障害されているのかをわかるようになる。								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	運動の表し方	運動の表示、関節運動の表示					講義	小磯	
2	運動器の構造と機能(1)	骨、関節の構造と機能					講義	小磯	
3	運動器の構造と機能(2)	骨格筋の構造と機能					講義	小磯	
4	四肢と体幹の運動(1)	上肢帯の運動					講義	小磯	
5	四肢と体幹の運動(2)	肩関節の運動、肘関節と前腕の運動					講義	小磯	
6	四肢と体幹の運動(3)	手関節と手の運動					講義	小磯	
7	評価(1)	1～6回の評価					演習	小磯	
8	四肢と体幹の運動(4)	股関節の運動					講義	小磯	
9	四肢と体幹の運動(5)	膝関節の運動					講義	小磯	
10	四肢と体幹の運動(6)	足関節、足部の運動					講義	小磯	
11	四肢と体幹の運動(7)	体幹と脊柱					講義	小磯	
12	四肢と体幹の運動(8)	頸椎の運動、胸椎と胸郭の運動					講義	小磯	
13	四肢と体幹の運動(9)	腰椎・仙椎および骨盤の運動					講義	小磯	
14	四肢と体幹の運動(10)	顔面および頭部の運動					講義	小磯	
15	評価(2)	8～14回の評価					演習	小磯	
評価方法									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	運動学 (公社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 ¥4,200+税								
教材・参考図書	イラスト解剖学 松村譲児 中外医学社 ¥7,600+税								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。								

科目名	病理学概論						柔道整復科Ⅱ部		
学科	2年	分野	専門基礎	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～2学期
評価担当	大野 純			担当教員	大野 純				
科目概要	病理学は疾病の原因、成立過程、及びその結果など疾病の基本概念について学ぶものである。医療チームを構成する全ての職種に共通する必須の病理学総論が重要である。これを学ぶことで、柔道整復の臨床科目を深く理解することに繋がる。								
到達目標	①病理を研究する方法を知り、観察方法について考えることができ、疾病一般について意義・分類を知る。 ②細胞傷害、循環障害、進行性病変、炎症、腫瘍などのマクロ・ミクロの形態変化を知見として捉え、修得する。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	病理学とは	形態学における観察方法				講義	大野		
2	疾病の一般	疾病の経過・予後・転帰				講義	大野		
3	細胞傷害(退行性病変)	萎縮・変性・壊死				講義	大野		
4	細胞傷害(代謝障害)(1)	尿酸代謝異常・Ca代謝異常・色素代謝異常				講義	大野		
5	細胞傷害(代謝障害)(2)	アポトーシス・死の判定・死後の変化				講義	大野		
6	循環障害(1)	充血・うっ血・虚血・出血				講義	大野		
7	評価(1)	1～6回の評価				演習	大野		
8	循環障害(2)	血栓・塞栓・梗塞				講義	大野		
9	循環障害(3)	浮腫・脱水・高血圧症				講義	大野		
10	進行性病変(病的増殖)	肥大・過形成・再生・化生				講義	大野		
11	進行性病変(病的増殖)と細胞・組織の適応(1)	創傷治癒・組織内異物の処理・骨折の治癒				講義	大野		
12	進行性病変(病的増殖)と細胞・組織の適応(2)	移植 再生医学 脳死の法的判定基準				講義	大野		
13	炎症(1)	炎症の原因				講義	大野		
14	評価(2)	8～13回の評価				演習	大野		
15	炎症(2)	炎症の形態学変化				講義	大野		
16	炎症(3)	炎症の分類				講義	大野		
17	免疫異常・アレルギー(1)	免疫の仕組み・免疫不全・後天性免疫不全				講義	大野		
18	免疫異常・アレルギー(2)	自己免疫疾患・アレルギーの5型				講義	大野		
19	腫瘍(1)	腫瘍の定義・腫瘍の組織構造				講義	大野		
20	腫瘍(2)	発癌の原因・腫瘍の分類				講義	大野		
21	腫瘍(3)	主要な癌				講義	大野		
22	評価(3)	15～21回の評価				演習	大野		
23	先天性異常(1)	単遺伝子性遺伝・多因子遺伝性の形式をとる疾患				講義	大野		
24	先天性異常(2)	奇形の原因・奇形成立の時期・奇形の種類				講義	大野		
25	病 因(1)	内因・外因				講義	大野		
26	病 因(2)	物理的外因・化学的外因・生物学的な外因				講義	大野		
27	運動器の病理(1)	感染性疾患・骨及び軟部腫瘍				講義	大野		
28	運動器の病理(2)	関節骨疾患・骨粗鬆症・神経&筋疾患				講義	大野		
29	評価(4)	23～28回の評価				演習	大野		
30	総括	炎症・腫瘍・感染症				講義	大野		
評価方法									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	病理学概論 (公社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 ¥3,800+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	病理学の用語は直接、医療の場で使用される場合はその正確な意味に基づかなければならず、曖昧な理解は厳に慎まなければならない。よって、特に炎症、腫瘍、循環障害といった基本概念については十分に時間を費やす必要が求められる。各自、ノートには自分が後で最後に書き入れるスペースがあるような使い方をすること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。								

科目名	一般臨床医学 I					柔道整復科 II 部			
学科	2年	分野	専門基礎	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～2学期
評価担当	天野 雅文			担当教員	天野 雅文				
科目概要	近年、医療・保健・福祉を取り巻く環境が大きく変化し、柔道整復師はその職種の特異性から幅広い知識の習得が必要とされている。この科目では内科疾患を中心とした疾患の概念を学ぶと同時に、柔道整復師が臨床現場で注意を払わなければならない、鑑別しなくてはならない症状・所見の理解を深める。								
到達目標	①各器官別疾患の基礎的な知識(概念、原因、症状)を身に付ける。 ②柔道整復師の業務上必要な、念頭に置くべき臨床症状を理解し、鑑別できるようにする。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	診察概論、診察各論(1)	診察の意義、診察の進め方、医療面接、視診				講義	天野		
2	診察各論(2)	聴診、触診				講義	天野		
3	診察各論(3)	生命徴候、感覚検査、反射検査				講義	天野		
4	診察各論(4)	代表的な臨床症状(1)				講義	天野		
5	診察各論(5)	代表的な臨床症状(2)				講義	天野		
6	検査法	生理機能検査、運動機能検査、検体検査、運動機能検査				講義	天野		
7	評価(1)	1～6回の評価				演習	天野		
8	呼吸器疾患(1)	感染性呼吸器疾患、閉塞性呼吸器疾患				講義	天野		
9	呼吸器疾患(2)	拘束性呼吸器疾患、気胸、その他の呼吸器疾患				講義	天野		
10	循環器疾患(1)	心不全、心臓弁膜症、不整脈、代表的な先天性心疾患				講義	天野		
11	循環器疾患(2)	冠動脈疾患、動脈疾患、血圧異常				講義	天野		
12	消化器疾患(1)	口腔疾患、食道疾患、胃・十二指腸疾患				講義	天野		
13	消化器疾患(2)	腸疾患、腹膜疾患				講義	天野		
14	評価(2)	8～13回の評価				演習	天野		
15	代謝疾患(1)	糖代謝異常、脂質代謝異常				講義	天野		
16	代謝疾患(2)	尿酸代謝異常、その他の代謝異常症				講義	天野		
17	内分泌疾患(1)	下垂体疾患、甲状腺疾患				講義	天野		
18	内分泌疾患(2)	副腎疾患				講義	天野		
19	血液造血疾患(1)	赤血球疾患、白血球疾患				講義	天野		
20	血液造血疾患(2)	リンパ網内系疾患、出血性素因				講義	天野		
21	腎・尿路疾患(1)	原発性糸球体腎炎、腎不全症				講義	天野		
22	評価(3)	15～21回の評価				演習	天野		
23	腎・尿路疾患(2)	感染症、腫瘍性疾患、結石症、前立腺疾患				講義	天野		
24	神経疾患(1)	脳血管障害、感染性疾患、脊髄脳腫瘍				講義	天野		
25	神経疾患(2)	基底核疾患、その他の変性疾患、認知症性疾患、筋疾患				講義	天野		
26	感染症(1)	細菌感染症				講義	天野		
27	感染症(2)	ウイルス感染症、性感染症				講義	天野		
28	リウマチ・膠原病・アレルギー	総論(膠原病)、各疾患、総論(アレルギー)				講義	天野		
29	環境要因による疾患	高山病、熱中症 一酸化炭素中毒				講義	天野		
30	評価(4)	23～29回の評価				演習	天野		
評価方法									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	一般臨床医学	(公社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 ¥5,800+税							
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	解剖学・生理学の基礎知識が必要であるため、きちんと理解しておくこと。また、国家試験においても重要な科目となるので、授業後の復習は確実にすること。								

科目名	外科学概論						柔道整復科Ⅱ部		
学科	2年	分野	専門基礎	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～3学期
評価担当	宇田津 明彦			担当教員	宇田津 明彦				
科目概要	外傷を専門とする柔道整復師に必要な外科学の基本的知識の習得、日常の臨床の場で必要となる外科疾患の症状、診断法を修得する。								
到達目標	①身体に起こりうる外科的疾患を学ぶ。各損傷や疾患における症状を理解し、適切な治療法や手術について説明できる。 ②柔道整復師ができることとできないことを理解し、スムーズな医接連携ができるよう知識を身につける。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	外科学とは、損傷(1)	歴史と現在、損傷について				講義	宇田津		
2	損傷(2)	創傷(分類、治癒過程、処置、熱傷)				講義	宇田津		
3	炎症と外科感染症(1)	炎症の定義、分類、感染症発症のメカニズム				講義	宇田津		
4	炎症と外科感染症(2)	外科感染症各論				講義	宇田津		
5	腫瘍(1)	成因、分類、発育形式、症状				講義	宇田津		
6	腫瘍(2)	検査、治療				講義	宇田津		
7	評価(1)	1～6回の評価				演習	宇田津		
8	ショック	4つの分類とその原因、症状、治療				講義	宇田津		
9	輸血、輸液(1)	輸血の基礎知識、適応と実際				講義	宇田津		
10	輸血、輸液(2)	一般輸液と高カロリー輸液				講義	宇田津		
11	手術	切開法、結紮法、縫合法、穿刺術				講義	宇田津		
12	麻酔(1)	全身麻酔法				講義	宇田津		
13	麻酔(2)	局所麻酔法				講義	宇田津		
14	評価(2)	8～13回の評価				演習	宇田津		
15	移植と免疫	移植の用語、拒絶反応、移植の現状				講義	宇田津		
16	出血と止血(1)	出血の分類				講義	宇田津		
17	出血と止血(2)	止血の仕組み、外出血と内出血、止血法				講義	宇田津		
18	心肺蘇生法	救急救命の流れ、心肺蘇生法、人工呼吸法、AED				講義	宇田津		
19	脳神経外科疾患(1)	脳神経疾患の主要徴候、中枢性疾患特有な病態、画像検査				講義	宇田津		
20	脳神経外科疾患(2)	頭部外傷、脳血管障害、脳腫瘍				講義	宇田津		
21	甲状腺・頸部疾患	甲状腺、副甲状腺、頸部の疾患				講義	宇田津		
22	評価(3)	15～21回の評価				演習	宇田津		
23	胸壁・呼吸器疾患(1)	胸郭・肺の検査、手術(切開法)、ドレナージ				講義	宇田津		
24	胸壁・呼吸器疾患(2)	肺・胸膜の疾患、胸部損傷				講義	宇田津		
25	心臓・脈管疾患(1)	心臓疾患				講義	宇田津		
26	心臓・脈管疾患(2)	動脈・静脈疾患				講義	宇田津		
27	乳腺疾患	診断、乳腺疾患の種類、乳癌について				講義	宇田津		
28	腹部外科疾患(1)	主な症状、検査、代表的な腹部外科疾患				講義	宇田津		
29	腹部外科疾患(2)	その他の腹部外科疾患				講義	宇田津		
30	評価(4)	23～29回の評価				演習	宇田津		
評価方法									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	合計		
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	100		
教科書	外科学概論 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥5,700+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	外科学の授業では解剖学や生理学の知識が必要となる。よって、解剖学と生理学の教科書も併せ持つておくことが望ましい。授業後には最低1時間は予習・復習に充てること。								

科目名	整形外科学 I					柔道整復科 II 部			
学科	2年	分野	専門基礎	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1~2学期
評価担当	八嶋 康典			担当教員	八嶋 康典				
科目概要	整形外科学は運動器の医学であり、取り扱う部位は脊柱・骨盤・四肢である。対象とする組織は骨・関節・筋・靭帯・脊髄・神経であり、これらの組織の外傷・障害、炎症、先天異常、腫瘍、変性疾患、代謝疾患、骨系統疾患を診断、治療、研究する学問である。授業では臨床上必要となる運動器疾患全般についての基礎的な知識を習得する。								
到達目標	①運動器系の正常構造と機能を理解する。 ②整形外科診察法、検査法、治療法を理解する。運動器疾患の病因、病態、症候、診断、治療を理解する。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	整形外科とは 運動器の基礎知識	整形外科の意義と内容・歴史、骨・関節の基礎知識、筋・腱・靭帯の基礎知識、運動器の科学				講義	八嶋		
2	整形外科診察法	姿勢、体幹と四肢のバランス、上・下肢長・周径、跛行、関節拘縮と強直、徒手筋力テスト、知覚の診断、反射、検査の進め方、画像検査				講義	八嶋		
3	整形外科検査法	単純エックス線撮影、X線CT、磁気共鳴撮影法(MRI)、各種の造影法、核医学検査、超音波検査法				講義	八嶋		
4	整形外科的治療法	保存療法、観血的治療				講義	八嶋		
5	骨・関節損傷総論(1)	骨折総論、定義と分類、診断と症状、治癒、治療				講義	八嶋		
6	骨・関節損傷総論(2)	小児骨折の特徴、開放骨折、疲労骨折と病的骨折、合併症				講義	八嶋		
7	評価(1)	1~6回の評価				演習	八嶋		
8	骨・関節損傷総論(3)	関節損傷				講義	八嶋		
9	スポーツ整形外科 リハビリテーション	総論				講義	八嶋		
10	疾患別各論(1)	感染性疾患、骨腫瘍				講義	八嶋		
11	疾患別各論(2)	軟部腫瘍、変形性関節症、リウマチ、痛風				講義	八嶋		
12	疾患別各論(3)	骨・関節損傷の復習				講義	八嶋		
13	疾患別各論(4)	偽性痛風、血友病性関節症、関節遊離体				講義	八嶋		
14	評価(2)	8~13回の評価				演習	八嶋		
15	疾患別各論(5)	骨粗鬆症、先天性骨系統疾患				講義	八嶋		
16	疾患別各論(6)	多発性神経線維腫症、くる病、巨人症、下垂体性小人症、骨端症				講義	八嶋		
17	疾患別各論(7)	四肢循環障害				講義	八嶋		
18	疾患別各論(8)	上肢の神経麻痺と絞扼性神経障害				講義	八嶋		
19	疾患別各論(9)	下肢の神経麻痺と絞扼性神経障害				講義	八嶋		
20	疾患別各論(10)	全身性神経・筋疾患				講義	八嶋		
21	疾患別各論(11)	疾患別各論復習				講義	八嶋		
22	評価(3)	15~21回の評価				演習	八嶋		
23	身体部位別各論(1)	頸部、胸部、腰部				講義	八嶋		
24	身体部位別各論(2)	肩・肩甲帯、上腕・肘関節				講義	八嶋		
25	身体部位別各論(3)	前腕、手関節				講義	八嶋		
26	身体部位別各論(4)	手・手指、骨盤				講義	八嶋		
27	身体部位別各論(5)	大腿、膝関節				講義	八嶋		
28	身体部位別各論(6)	身体部位別各論復習				講義	八嶋		
29	身体部位別各論(7)	下腿、足関節				講義	八嶋		
30	評価(4)	23~29回の評価				演習	八嶋		
評価方法									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	整形外科学 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥5,600+税 標準整形外科学 松野丈夫・中村利孝 医学書院 ¥9,400+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	授業のみで整形外科領域を全て学ぶには時間的余裕はあまりない。学習範囲は広いので、教科書や参考図書などを利用して予習・復習をすること。予備知識として解剖学・生理学・病理学的知識が必要となるので十分身につけておくこと。								

科目名	リハビリテーション医学Ⅰ						柔道整復科Ⅱ部		
学科	2年	分野	専門基礎	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～2学期
評価担当	宮原 洋八			担当教員	宮原 洋八				
科目概要	今では治療の中にリハビリテーション的考えや手法が組み込まれていく傾向にある。リハビリテーション医学の理念に基づき、各疾患に対する評価法や検査法およびリハビリテーション治療について詳しく学習する。								
到達目標	①リハビリテーションの意味や内容を正しく理解し、説明ができる。 ②各疾患に対する評価法や検査法および治療法を正しく理解し、説明ができる。 ③リハビリテーション医学の関連職種について説明ができる。 ④リハビリテーションと福祉に関する法律を正しく理解し、説明ができる。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	リハビリテーションの理念	リハビリテーションという言葉、リハビリテーションの成立過程、障害者の復権とその源泉				講義	宮原		
2	リハビリテーションの対象と障害者の実態(1)	医学的リハビリテーションの対象、リハビリテーション医学の対象				講義	宮原		
3	リハビリテーションの対象と障害者の実態(2)	リハビリテーション医学と生物学的医学、障害児者の実態、身体障害児者の内訳				講義	宮原		
4	障害の階層とアプローチ(1)	ICDとICIDH、ICIDHからICFへ、ICF-CYについて				講義	宮原		
5	障害の階層とアプローチ(2)	ICFコアセット、WHODAS2.0について、障害へのアプローチ、病気と障害の相違				講義	宮原		
6	リハビリテーション評価学(1)	運動学と機能解剖				講義	宮原		
7	評価(1)	1～6回の評価				演習	宮原		
8	リハビリテーション評価学(2)	身体所見、小児運動発達の評価				講義	宮原		
9	リハビリテーション評価学(3)	ADLの評価、心理的評価、認知症の評価				講義	宮原		
10	リハビリテーション評価学(4)	電気生理学的検査、画像診断、運動失調				講義	宮原		
11	リハビリテーション障害学(1)	障害の評価、関節拘縮、関節の変形、筋萎縮、神経麻痺				講義	宮原		
12	リハビリテーション障害学(2)	痙縮、摂食嚥下障害、高次脳機能障害、ライフサイクルと各ステージの障害特性				講義	宮原		
13	リハビリテーション治療学(1)	障害の受容、廃用性症候群、関節拘縮、リンパ浮腫、筋力強化、中枢性麻痺と痙縮の治療				講義	宮原		
14	評価(2)	8～13回の評価				演習	宮原		
15	リハビリテーション治療学(2)	慢性疼痛、バイオフィードバック、歩行練習、全身運動、レクリエーション治療、リスク管理				講義	宮原		
16	リハビリテーション医学の関連職種(1)	医師・リハビリテーション科専門医、理学療法士				講義	宮原		
17	リハビリテーション医学の関連職種(2)	作業療法士、看護師、言語聴覚士				講義	宮原		
18	リハビリテーション医学の関連職種(3)	臨床心理士、医療ソーシャルワーカー、義肢装具士、介護支援専門員				講義	宮原		
19	リハビリテーション治療技術(1)	理学療法				講義	宮原		
20	リハビリテーション治療技術(2)	作業療法、言語聴覚療法				講義	宮原		
21	リハビリテーション治療技術(3)	補助具				講義	宮原		
22	評価(3)	15～21回の評価				演習	宮原		
23	高齢者のリハビリテーション(1)	平均寿命と健康寿命フレイル				講義	宮原		
24	高齢者のリハビリテーション(2)	フレイルから障害高齢者へ				講義	宮原		
25	高齢者のリハビリテーション(3)	認知症、高齢者虐待、要介護への予防				講義	宮原		
26	高齢者のリハビリテーション(4)	リハビリテーション前置主義、地域リハビリテーション				講義	宮原		
27	高齢者のリハビリテーション(5)	パーキンソン病、脳卒中				講義	宮原		
28	リハビリテーションと福祉	社会福祉、介護保険				講義	宮原		
29	障害者スポーツ	概要、大会の歴史、分類、種目、評価と効果				講義	宮原		
30	評価(4)	23～29回の評価				演習	宮原		
評価方法									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	リハビリテーション医学 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥5,000+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	リハビリテーションについて理論的に理解していく為には、解剖学や生理学などの基礎的な知識に加え、一般臨床学といった専門的な知識を身に付けておく必要がある。講義前には教科書を読んで予習を行う。分からない疾患等については該当科目の教科書をよく読み、最低限の知識は身に付けておくこと。								

科目名	リハビリテーション医学Ⅱ						柔道整復科Ⅱ部		
学科	2年	分野	専門基礎	単位数	1単位	時間数	15時間	期間	2～3学期
評価担当	喜多村 伸明			担当 教員	喜多村 伸明				
科目概要	<p>柔道整復師は、介護支援専門員や介護サービスとの連携や運営に置いて深い関係が構築されてきている。特に介護予防における機能訓練指導を担当することも制度上可能であり、柔道整復師は医療に留まらず、今後はますます介護予防や自立支援に関わることが大きくなるもの考えられている。リハビリテーション医学の理念に基づき、運動器のリハビリテーションの観点から高齢者運動機能の維持と回復について詳しく学習する。</p>								
到達目標	<p>①高齢者運動機能の維持と回復について、説明することができる。          ②高齢者自立支援を理解し、説明することができる。          ③柔道整復師が行う機能訓練指導を理解し、説明することができる。</p>								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	運動器のリハビリテーション(1)	骨折の治療と後療法(骨折治療の考え方と骨折治癒機転、整復法と固定法、適応と原則、後療法と治癒期間、偽関節と骨癒合遅延因子)					講義	喜多村	
2	運動器のリハビリテーション(2)	骨粗鬆症(病態、骨折好発部位、診断、椎体骨折、上腕骨外科頸骨折)					講義	喜多村	
3	運動器のリハビリテーション(3)	捻挫のアプローチ(定義と分類、症状と診断的アプローチ、RICE、足関節捻挫)					講義	喜多村	
4	運動器のリハビリテーション(4)	上肢損傷後症候群(肩関節、肘関節、フォルクマン拘縮、手関節と手指)					講義	喜多村	
5	運動器のリハビリテーション(5)	下肢損傷後症候群(股関節、膝関節、足関節)					講義	喜多村	
6	運動器のリハビリテーション(6)	頸肩腕症候群の病態とアプローチ、腰痛症の病態とアプローチ					講義	喜多村	
7	運動器のリハビリテーション(7)	肋骨骨折へのアプローチ、アキレス腱断裂へのアプローチ					講義	喜多村	
8	評価	1～7回の評価					演習	喜多村	
<b>評価方法</b>									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	リハビリテーション医学 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥5,000+税 柔道整復師と機能訓練指導 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥3,000+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。								

科目名	一般臨床医学Ⅱ						柔道整復科Ⅱ部		
学科	2年	分野	専門基礎	単位数	1単位	時間数	15時間	期間	3学期
評価担当	天野 雅文			担当 教員	天野 雅文				
科目概要	柔道整復師は、臨床現場において様々な運動器疾患に遭遇した際に柔道整復術に適する損傷と、適さない損傷を的確に判断できる能力を身につけなければならない。柔道整復師が臨床現場で注意を払わなければならない症状・所見の理解を深めるために診察の基本と疾患の概念を学ぶ。								
到達目標	①柔道整復師が業務を行うに当たり、対象となる疾患が業務範囲内の運動器疾患なのかどうかを適切に判断することができる。 ②患者に対する医療安全の観点から、柔道整復術を適切に実施できる能力を身に付ける。								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	損傷に類似した症状を示す疾患(1)	内臓疾患を疑う疼痛					講義	天野	
2	損傷に類似した症状を示す疾患(2)	腰痛を伴う疾患					講義	天野	
3	損傷に類似した症状を示す疾患(3)	化膿性の炎症など					講義	天野	
4	血流障害を伴う損傷	動脈損傷、骨折、脱臼					講義	天野	
5	末梢神経損傷を伴う損傷	腕神経叢麻痺、骨折、脱臼					講義	天野	
6	脱臼骨折	肩関節脱臼骨折、肘関節脱臼骨折、股関節脱臼骨折、足関節脱臼骨折					講義	天野	
7	期末まとめ	1～6回の評価					演習	天野	
8	外出血を伴う損傷	開放性骨折、開放性脱臼					講義	天野	
<b>評価方法</b>									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	医療の中の柔道整復 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥2,300+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の 注意点	解剖学・生理学の基礎知識が必要であるため、きちんと理解しておくこと。また、国家試験においても重要な科目となるので、授業後の復習は確実にを行うこと。予備知識として解剖学・生理学・病理学的知識が必要となるので十分身につけておくこと。								

科目名	整形外科学Ⅱ					柔道整復科Ⅱ部			
学科	2年	分野	専門基礎	単位数	1単位	時間数	15時間	期間	3学期
評価担当	八嶋 康典				担当 教員	八嶋 康典			
科目概要	柔道整復師は、臨床現場において様々な運動器疾患に遭遇した際に柔道整復術に適する損傷と、適さない損傷を的確に判断できる能力を身につけなければならない。柔道整復師が臨床現場で注意を払わなければならない症状・所見の理解を深めるために運動器疾患全般の知識を学ぶ。								
到達目標	①柔道整復師が業務を行うに当たり、対象となる運動器疾患が業務範囲にあるかどうかを適切に判断することができる。 ②患者に対する医療安全の観点から、柔道整復術を適切に実施できる能力を身に付ける。								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	病的骨折および脱臼	病的骨折、病的脱臼					講義	八嶋	
2	意識障害を伴う損傷	頭蓋骨骨折、脳挫傷、外傷性クモ膜下出血、急性硬膜外出血、急性硬膜下出血、急性脳内出血、慢性硬膜下出血					講義	八嶋	
3	脊髄損傷症状のある損傷(1)	頸髄損傷、非骨傷性頸髄損傷					講義	八嶋	
4	脊髄損傷症状のある損傷(2)	胸椎・腰椎損傷、非骨傷性胸椎・腰椎部脊髄損傷					講義	八嶋	
5	呼吸運動障害を伴う損傷	胸部外傷					講義	八嶋	
6	内臓損傷の合併が疑われる損傷	骨折、脱臼					講義	八嶋	
7	高エネルギー損傷	外傷性ショック、播種性血管内凝固症候群、脂肪塞栓症候群、深部静脈血栓症、肺血栓塞栓症					講義	八嶋	
8	評価	1～7回の評価					演習	八嶋	
<b>評価方法</b>									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	医療の中の柔道整復 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥2,300+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の 注意点	授業のみで整形外科領域を全て学ぶには時間的余裕はあまりない。学習範囲は広いので、教科書や参考図書などを利用して予習・復習をすること。予備知識として解剖学・生理学・病理学的知識が必要となるので十分身につけておくこと。								

科目名	医学史					柔道整復科Ⅱ部			
学科	1年	分野	専門基礎	単位数	1単位	時間数	15時間	期間	1学期
評価担当	坂主 充史			担当教員	坂主 充史				
科目概要	医学は過去の長い歴史を通じて発達したものであるが、その全体像をとらえることはきわめて難しい。医学の発達を、経験治療から自然科学として発展した部分を紹介し、現代の医学および医療の基礎的な発展の経緯を学ぶ。また、医療人としての基本的倫理・患者の権利の基礎を学ぶ。								
到達目標	①医学の歴史的展開により我が国における医療・医学の姿を知り、臨床医学がEBM; Evidence based medicine という概念から、治療到達をいかに患者の望むものにするのかというものを習得する。 ②柔道整復術の成り立ちを学び、柔道整復の基本理念を習得する。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	医学と医療の歴史(1)	温故知新、ヒポクラテス、ベサリウス、フレミング、北里柴三郎				講義	坂主		
2	医学と医療の歴史(2)	臨床疫学とEBM、科学とは、医療と医学、臨床疫学医の倫理				講義	坂主		
3	医学と医療の歴史(3)	医療安全、柔道整復師の倫理綱領、患者の権利				講義	坂主		
4	評価(1)	1～3回の評価				演習	坂主		
5	医療と社会(1)	医の倫理、柔道整復師の倫理綱領、				講義	坂主		
6	医療と社会(2)	医療安全、患者の権利				講義	坂主		
7	日本の医療システム	医療従事者と医療施設、医療と経済(社会保障)				演習	坂主		
8	評価(2)	5～7回の評価				講義	坂主		
評価方法									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	医療概論 系統看護学講座 医学書院 ¥2,200+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	講義形式はテキストを中心とするので、必ずノートを持参すること。効果的に知識を習得するために、医学概論という広い内容に入るので、キーワードを中心にメモするようにすること。								

科目名	衛生学・公衆衛生学					柔道整復科Ⅱ部			
学科	1年	分野	専門基礎	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～2学期
評価担当	本川 渉			担当教員	本川 渉				
科目概要	衛生学・公衆衛生学は環境を整え、傷病を予防し健康の保持増進を図る目的の学問である。柔道整復師も他の医療資格者と共に地域の公衆衛生の推進者となることが期待されている。健康を規定する社会的因子を広くとらえ医療関係者が健康維持・増進にどのように関わっていくべきか講義する。								
到達目標	①基本的な衛生学・公衆衛生学の知識を修得し、柔道整復師として勤務・開業した後の公衆衛生活動に役立てることが出来るようになること。 ②国家試験に必要な頻出内容を重点的に網羅していき合格できる実力を修得する。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動	衛生学と公衆衛生学の歴史を学びその違いを理解する。公衆衛生活動の概略を理解する。				講義	本川		
2	健康の概念(1)	WHO 憲章を中心に健康についての理解を深める。慢性疾患の予防に重要視される生活の要素を考える。				講義	本川		
3	健康の概念(2)	様々な健康指標の意味を理解し日本と諸外国の健康水準を比較する。				講義	本川		
4	感染症の予防(1)	感染症が成立するための要件や各種の病原微生物の分類・特徴・感染経路などを理解する。				講義	本川		
5	感染症の予防(2)	感染症の予防対策(感染症法や予防接種など)、最近の動向や院内感染の問題を理解する。				講義	本川		
6	消毒(1)	化学的消毒法や理学的消毒法の分類や殺菌スペクトル、使用領域や禁忌を理解する。				講義	本川		
7	評価(1)	1～6回の評価				演習	本川		
8	消毒(2)	消毒法の応用として具体的な手指皮膚、施術所などでの実施方法を習得する。院内感染の予防のための消毒法を理解する。				講義	本川		
9	環境衛生(1)	様々な環境問題について理解する。温熱の4要素と測定法を理解する。				講義	本川		
10	環境衛生(2)	化学的環境要因およびわが国の4大公害訴訟を中心に公害の問題について考える。大気汚染物質の種類、最近の環境問題について理解する。				講義	本川		
11	生活環境・食品衛生活動(1)	水の衛生と基準、居住環境について理解する。食中毒の原因となる病原微生物について理解する。				講義	本川		
12	生活環境・食品衛生活動(2)	栄養と健康について理解を深める。廃棄物処理の指標と具体的方法を学ぶ。				講義	本川		
13	母子保健	母子保健の現状と母子保健の指標となる様々な統計を理解する。				講義	本川		
14	評価(2)	8～13回の評価				演習	本川		
15	学校保健(1)	学校保健の意味、学校保健の組織と運営について理解する。学校保健管理、特に感染症の予防について理解する。				講義	本川		
16	学校保健(2)	学校環境管理とその主な内容、保健教育と学期の健康状況の統計を理解する。				講義	本川		
17	産業保健(1)	産業保健と労働衛生管理について理解する。最近の職場の特徴について理解する。				講義	本川		
18	産業保健(2)	職業病とその対策、職場における健康診断と健康増進について理解する。				講義	本川		
19	成人・高齢者保健(1)	成人、高齢者の健康状態を理解する。生活習慣病の中では悪性新生物について過去からの推移と諸外国との比較を行う。				講義	本川		
20	成人・高齢者保健(2)	悪性新生物以外の生活習慣病について理解する。高齢者医療確保法、介護保険制度について理解する。				講義	本川		
21	精神保健(1)	精神保健の定義と歴史、主な精神疾患について理解をする。				講義	本川		
22	評価(3)	15～21回の評価				演習	本川		
23	精神保健(2)	(1)の続きと精神保健活動と原則、その中でも精神保健福祉法における入院形態を特に理解する。				講義	本川		
24	地域保健と国際保健(1)	地域とその特徴、地域保健課活動について理解する。				講義	本川		
25	地域保健と国際保健(2)	保健に関する国際協力と世界保健機関(WHO)について。特にWHOの活動内容を重点的に理解する。国際的な環境保全戦略について理解する。				講義	本川		
26	衛生行政と保健医療の制度(1)	衛生行政やわが国の衛生行政機構について。特に保健所の業務について理解を深める。保健医療従事者の全体像を理解する。				講義	本川		
27	衛生行政と保健医療の制度(2)	医療保険制度の仕組みや財源などを理解する。増大する国民医療費の現状と健康作り対策「健康日本21」について重点的に理解する。				講義	本川		
28	医の倫理	医療及び公衆衛生活動の問題と倫理について理解する。医療の安全の確保と対策を理解する。				講義	本川		
29	疫学	具体的調査方法、特に分析疫学におけるコホート研究と患者対照研究、介入研究について理解する。				講義	本川		
30	評価(4)	23～29回の評価				演習	本川		
評価方法									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	衛生学・公衆衛生学 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥5,000+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	授業内容について当日中にまとめたノートを作り復習すること。授業中に重要な部分は教科書にチェックさせるので、ノートを作る際に参照すること。								

科目名	関係法規 I						柔道整復科 II 部		
学科	1 年	分野	専門基礎	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	1～2 学期
評価担当	中村 秀樹			担当教員	中村 秀樹				
科目概要	国民は憲法の基本的人権に基づき、良質かつ適切な医療の提供を受ける権利を有している。そのためには意向を十分に尊重した医療を提供しなければならない。また、秘密保持だけでなくプライバシーを保護し、個人情報の適切な取扱い、インフォームド・コンセントも当然求められる医療の一端を担う柔道整復師は、当然医療制度の中で医事法規を十分理解し、倫理観をもってその職責を全うすることが大切である。								
到達目標	①現代法は、禁止・罰則のためではなく、社会における人の権利、人権を守ることが目的である。医療の中心も人、患者であり、その権利と医療従事者自体の権利を守ることとも法の精神であること、を修得する。 ②柔道整復師として業務に従事するうえで、「柔道整復師法」とその業務や医療従事者一般として必要な医事福祉法規を中心に、理解しておくべき法令を修得する。								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	職業倫理	柔道整復師に求められる職業倫理					講義	中村	
2	序論	法の意義、法の体系					講義	中村	
3	総則、免許(1)	柔道整復師法の目的、免許を受けるための要件					講義	中村	
4	評価(1)	1～3 回の評価					演習	中村	
5	免許(2)、免許証(1)	免許の申請・取消し、免許証の書換え・再交付					講義	中村	
6	免許証(2)、名簿	再交付、返納および提出、登録事項、訂正、削除					講義	中村	
7	評価(2)	5～6 回の評価					演習	中村	
8	国家試験、業務(1)	試験の実施、業務の禁止					講義	中村	
9	業務(2)	業務範囲、守秘義務					講義	中村	
10	施術所、雑則、罰則、指定登録・試験機関	施術所の届出、広告の制限、名称の制限経過措置の制定、罪刑法定主義、罰則					講義	中村	
11	評価(3)	8～10 回の評価					演習	中村	
12	医療従事者の資格法	医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法等					講義	中村	
13	医療法、社会福祉関係法規	医療法、社会福祉六法					講義	中村	
14	社会保険関係法規等	健康保険法、個人情報の保護に関する法律					講義	中村	
15	評価(4)	12～14 回の評価					演習	中村	
評価方法									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	関係法規 (公社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 ¥2,400+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	全体的な法規を熟知しておくことが大切である。基本的には柔道整復師法が主体となるが、細かい点で注意すべき事項を授業で指摘する。授業は板書を中心に行うので、ノートを必ず持参すること。								

科目名	関係法規Ⅲ						柔道整復科Ⅱ部		
学科	3年	分野	専門基礎	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	1～3学期
評価担当	坂主 充史			担当教員	坂主 充史				
科目概要	医療の一端を担う柔道整復師は、当然医療制度の中で医事法規を十分に理解し、倫理観をもって職責を全うしなければならない。柔道整復師として業務に従事するうえで必要な「柔道整復師法」とその業務内容を修得するとともに、職業倫理を身に付ける。								
到達目標	①1・2年次で習得した知識を基礎とした柔道整復師の業務内容を踏まえ、柔道整復師法と実際の業務内容、他の医療資格の業務内容、医療法との関係を修得する。 ②各疾患、各外傷が柔道整復師の業務範囲か否かを鑑別できるようになる。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	序論(1)	法の意義、法の体系、柔道整復師および柔道整復に関する法律、柔道整復師と患者の権利				講義	坂主		
2	序論(2)、総則(1)	患者の権利、医療過誤とリスクマネジメント、柔道整復師法の目的				講義	坂主		
3	総則(2)、免許(1)	柔道整復師の定義、柔道整復師免許				講義	坂主		
4	免許(2)	免許を受けるための要件、免許の申請、免許の取り消し				講義	坂主		
5	免許証	柔道整復師免許証(免許証明書)、書き換え交付、再交付、返納および提出、行政処分				講義	坂主		
6	柔道整復師名簿	登録事項、訂正、登録の削除				講義	坂主		
7	柔道整復師国家試験、業務(1)	試験の実施、合格証書と合格証明書、業務の禁止				講義	坂主		
8	業務(2)	業務範囲、秘密を守る義務				講義	坂主		
9	業務(3)、施術所(1)	都道府県知事の指示、緊急時における厚生労働大臣の事務執行、施術所の届け出				講義	坂主		
10	施術所(2)	施術所の構造設備、施術所に対する監督				講義	坂主		
11	雑則	広告の制限、名称の制限				講義	坂主		
12	罰則(1)	罪刑法定主義、柔道整復師法に定められている罰則				講義	坂主		
13	罰則(2)、医療従事者の資格法(1)	両罰規定、医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法、診療放射線技師法、				講義	坂主		
14	医療従事者の資格法(2)、医療法	理学療法士及び作業療法士法、救急救命士法、目的、開設の許可、医療施設の定義				講義	坂主		
15	社会保障、個人情報保護法	社会福祉関係法規と社会保険関係法規、医療における個人情報				講義	坂主		
評価方法									
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	関係法規 (公社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 ¥2,400+税 社会保障制度と職業倫理 (公社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 ¥2,000+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	全体的な法規を熟知しておくことが大切である。基本的には柔道整復師法が主体となるが、細かい点で注意すべき事項を授業で指摘する。法規を知り、医療人としての自覚に再確認する必要がある。効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。								

科目名	柔道 I						柔道整復科 II 部		
学科	1 年	分野	専門基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	1～3 学期
評価担当	富永 忠雅、比留間 俊幸			担当教員	富永 忠雅、比留間 俊幸				
科目概要	授業では武道の基本である礼法の修得、怪我防止のため受身の修得には十分時間を費やす。その後、基本的な技を説明し、打ち込み動作の練習を行なう。最終的には技の理合いを投の形を通じて理解する。また寝技の固め技(関節技等)を行ない、柔道整復術の成り立ちを学ぶ。								
到達目標	①「礼に始まり礼に終わる」の武道精神、柔道と柔道整復師の関係を知る。 ②柔道をととして柔道整復術の成り立ちを学ぶ。 ③受身や立技・寝技の技を修得する。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	オリエンテーション	授業概要等の説明				実技	富永・比留間		
2	柔道の基本動作(1)	礼法(立礼・座礼・立ち方・座り方)				実技	富永・比留間		
3	柔道の基本動作(2)	礼法、受身(前方・後方・側方)				実技	富永・比留間		
4	柔道の基本動作(3)	礼法、前方回転受身				実技	富永・比留間		
5	評価(1)	1～4 回の評価				演習	富永・比留間		
6	柔道の技(1)	組み方(体捌き、崩し方)				実技	富永・比留間		
7	柔道の技(2)	送足払、打ち込み練習、技を用いての受身練習				実技	富永・比留間		
8	柔道の技(3)	大外刈、打ち込み練習、技を用いての受身練習				実技	富永・比留間		
9	柔道の技(4)	大腰、打ち込み練習、技を用いての受身練習				実技	富永・比留間		
10	柔道の技(5)	大外刈、大腰を用いての移動打ち込み				実技	富永・比留間		
11	柔道の技(6)	相手を崩し、技を掛ける練習				実技	富永・比留間		
12	柔道の技(7)	相手を崩し、技を掛ける練習				実技	富永・比留間		
13	評価(2)	6～12 回の評価				演習	富永・比留間		
14	柔道の技(8)	固め技(袈裟固、横四方固、上四方固)、寝技の攻防(お互いが背中合わせから)				実技	富永・比留間		
15	柔道の技(9)	固め技(縦四方固、肩車)、寝技の攻防(一方が腹臥位から)				実技	富永・比留間		
16	柔道の技(10)	固め技(裸絞、送襟絞、片羽絞)、寝技の攻防(一方が背臥位から)				実技	富永・比留間		
17	柔道の技(11)	固め技(腕がらみ、腕挫十字固)、寝技の乱取				実技	富永・比留間		
18	柔道の技(12)	一本背負投、打ち込み練習、技を用いての受身練習				実技	富永・比留間		
19	柔道の技(13)	背負投、打ち込み練習、技を用いての受身練習				実技	富永・比留間		
20	評価(3)	14～19 回の評価				演習	富永・比留間		
21	柔道の技(14)	釣込腰、打ち込み練習、技を用いての受身練習				実技	富永・比留間		
22	柔道の技(15)	約束乱取				実技	富永・比留間		
23	柔道の技(16)	投げ形(礼法、体捌き)				実技	富永・比留間		
24	柔道の技(17)	投げ形(浮落)				実技	富永・比留間		
25	柔道の技(18)	投げ形(背負投、肩車)				実技	富永・比留間		
26	柔道の技(19)	投げ形(浮腰、払腰)				実技	富永・比留間		
27	柔道の技(20)	投げ形(釣込腰、送足払)				実技	富永・比留間		
28	柔道の技(21)	投げ形(支釣込足、内股)				実技	富永・比留間		
29	評価(4)	21～28 回の評価				演習	富永・比留間		
30	総括	1～29 回の総括				実技	富永・比留間		
評価方法									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	適宜、プリントを配布する。								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	健康管理に十分注意し、柔道授業に臨むこと。怪我防止のため、ふざけることや私語はしないように心掛けること。常に柔道着は清潔にし、身体に装飾品(指輪、ピアス、ネックレス、ミサンガ等)は身に付けず、爪は切っておくこと。								

科目名	柔道Ⅱ						柔道整備科Ⅱ部		
学科	3年	分野	専門基礎	単位数	1単位	時間数	45時間	期間	1～2学期
評価担当	舘原 宗幸、富永 忠雅			担当教員	舘原 宗幸、富永 忠雅				
科目概要	柔道Ⅰで修得した内容を復習し、レベルアップして実践できるように反復練習を行なう。柔道を練習するなかで身体の取り扱い、武道的心構えを学ぶ。								
到達目標	①「礼に始まり礼に終わる」の武道精神、柔道と柔道整備師の関係を知る。 ②柔道をととして柔道整備術の成り立ちを学ぶ。 ③受身や立技・寝技の技を修得する。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	オリエンテーション	授業概要等の説明				実技	舘原・富永		
2	柔道の基本動作(1)	礼法、受身(後方受身)				実技	舘原・富永		
3	柔道の基本動作(2)	礼法、受身(前方回転受身)				実技	舘原・富永		
4	柔道の技(1)	投げ技(大外刈)、乱取				実技	舘原・富永		
5	柔道の技(2)	投げ技(大腰)、乱取				実技	舘原・富永		
6	柔道の技(3)	投げ技(大外刈、大腰)、乱取				実技	舘原・富永		
7	柔道の技(4)	投げ技(背負投)、乱取				実技	舘原・富永		
8	柔道の技(5)	投げ技(釣込腰)、乱取				実技	舘原・富永		
9	柔道の技(6)	投げ技(背負投、釣込腰)、乱取				実技	舘原・富永		
10	柔道の技(7)	投の形(浮落、背負投)、乱取				実技	舘原・素根		
11	柔道の技(8)	投の形(浮落、背負投)、乱取				実技	舘原・富永		
12	柔道の技(9)	投の形(肩車、浮腰)、乱取				実技	舘原・富永		
13	柔道の技(10)	投の形(肩車、浮腰)、乱取				実技	舘原・富永		
14	柔道の技(11)	投の形(払腰、釣込腰)、乱取				実技	舘原・富永		
15	柔道の技(12)	投の形(払腰、釣込腰)、乱取				実技	舘原・富永		
16	柔道の技(13)	投の形(送足払、支釣込足)、乱取				実技	舘原・富永		
17	柔道の技(14)	投の形(送足払、支釣込足)、乱取				実技	舘原・富永		
18	柔道の技(15)	投の形(内股)、乱取				実技	舘原・富永		
19	柔道の技(16)	投の形(浮落、背負投、肩車、浮腰、払腰)				実技	舘原・富永		
20	柔道の技(17)	投の形(釣込腰、送足払、支釣込足、内股)				実技	舘原・富永		
21	投げ技総括	4～9回の総括				実技	舘原・富永		
22	投の形総括(1)	10～15回の総括				実技	舘原・富永		
23	投の形総括(2)	16～20回の総括				実技	舘原・富永		
評価方法									
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	100
教科書	適宜、プリントを配布する。								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の 注意点	健康管理に十分注意し、柔道授業に臨むこと。怪我防止のため、ふざけることや私語はしないように心掛けること。常に柔道着は清潔にし、身体に装飾品(指輪、ピアス、ネックレス、ミサンガ等)は身に付けず、爪は切っておくこと。								

科目名	関係法規Ⅱ						柔道整復科Ⅱ部		
学科	3年	分野	専門基礎	単位数	1単位	時間数	15時間	期間	2学期
評価担当	坂主 充史			担当教員	坂主 充史				
科目概要	柔道整復師も国民の健康を維持することにより社会保障制度の一端を担っている。ゆえに、医療費や療養費等の医療経済を含む社会保障制度を理解する必要がある。また、免許取得後すぐに開業する事も可能であるため、職業倫理についても理解を深める。								
到達目標	①社会保障制度、社会保険、医療保険の関係を理解する。 ②療養費と受領委任払い制度を説明できるようになる。 ③柔道整復師に必要な基本的倫理観を身に付ける。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	わが国の社会保障(1)	社会保障とは				講義	坂主		
2	わが国の社会保障(2)	社会保障制度とは				講義	坂主		
3	わが国の社会保障(3)	公的年金				講義	坂主		
4	わが国の社会保障(4)	医療保険制度				講義	坂主		
5	柔道整復師と療養費(1)	療養費制度の概要				講義	坂主		
6	柔道整復師と療養費(2)	受領委任払い				講義	坂主		
7	職業倫理(1)	医療従事者の職業倫理				講義	坂主		
8	職業倫理(2)	柔道整復師に必要な基本的倫理観				講義	坂主		
評価方法									
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	社会保障制度と職業倫理 (公社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 ¥2,000+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	社会保障制度を知り、医療人としての自覚に再確認する必要がある。効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。職業倫理では実際に柔道整復師として働く姿を想像しながら事例を考えていくので予習が必要となる。								

科目名	柔道整復総論 I					柔道整復科 II 部			
学科	1年	分野	専門	単位数	3単位	時間数	75時間	期間	1~3学期
評価担当	松山 基博			担当教員	松山 基博				
科目概要	今日にいたる柔道整復師の歴史および沿革や業務範囲とその心得を学習し、運動器に加わる急性、亜急性の原因によって発生する各組織の損傷の理解と修得に努める。また、柔道整復師の治療法は、整復・固定・後療法の3段階に分けられる。それに加え、相乗効果が期待できる治療手法として、患者の指導管理を行いながら早期社会復帰させることを目的としている。損傷を分類、症状、治癒の病理、予後、他疾患との鑑別を理解したうえで、治療法の一部である整復法と固定法、患者とその関係者に対する指導管理を理解し修得する。また近年の柔道整復師に対するニーズを踏まえて運動指導や痛みのメカニズムについても理解を深化させる。								
到達目標	①柔道整復師の沿革、業務範囲とその心得を正しく理解する。 ②各組織の解剖学的構造や機能を理解し、運動器に加わる急性、亜急性の原因によって発生する各組織の損傷を理解し説明することができる。 ③柔道整復師が施術後に患者とその関係者へ説明・理解させるために、整復・固定・後療法の意義・必要性を理解し説明することができる。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	概説(1)	柔道整復術および柔道整復師の沿革				講義	松山		
2	概説(2)	業務範囲とその心得および柔道整復師倫理綱領				講義	松山		
3	総論(1)	人体に加わる力				講義	松山		
4	総論(2)	損傷時に加わる力				講義	松山		
5	総論(3)	痛みの基礎				講義	松山		
6	総論(4)	痛みの基礎				講義	松山		
7	評価(1)	1~6回の評価				演習	松山		
8	骨の損傷(1)	骨の形態と機能				講義	松山		
9	骨の損傷(2)	骨損傷の概説				講義	松山		
10	骨の損傷(3)	骨折の分類				講義	松山		
11	骨の損傷(4)	骨折の症状				講義	松山		
12	骨の損傷(5)	骨折の合併症				講義	松山		
13	骨の損傷(6)	小児骨折・高齢者骨折				講義	松山		
14	評価(2)	8~13回の評価				演習	松山		
15	骨の損傷(7)	骨折の癒合日数				講義	松山		
16	骨の損傷(8)	骨折の治癒過程				講義	松山		
17	骨の損傷(9)	骨折の予後				講義	松山		
18	骨の損傷(10)	骨折の治癒に影響を与える因子				講義	松山		
19	関節の損傷(1)	関節の構造と機能				講義	松山		
20	関節の損傷(2)	関節損傷の概説				講義	松山		
21	関節の損傷(3)	関節損傷の分類				講義	松山		
22	評価(3)	15~21回の評価				演習	松山		
23	関節の損傷(4)	損傷される組織・鑑別診断を要する類症、関節構成組織損傷				講義	松山		
24	関節の損傷(5)	靭帯、関節包の損傷、関節周囲を通過あるいは起始停止する筋・腱の損傷				講義	松山		
25	関節の損傷(6)	関節軟骨損傷、その他関節構成組織の損傷				講義	松山		
26	関節の損傷(7)	定義と概説・発生頻度・分類				講義	松山		
27	関節の損傷(8)	症状・合併症				講義	松山		
28	関節の損傷(9)	整復障害・経過				講義	松山		
29	評価(4)	23~28回の評価				演習	松山		
30	関節の損傷(10)	治癒機序と予後				講義	松山		
31	治療法(整復法)(1)	徒手整復施行時の配慮・骨折の整復法				講義	松山		
32	治療法(整復法)(2)	脱臼の整復法・徒手整復後の確認と配慮				講義	松山		
33	治療法(整復法)(3)	軟部組織損傷の初期処置				講義	松山		
34	治療法(固定法)	固定施行時の配慮・固定後の配慮				講義	松山		
35	指導管理(1)	患者とその環境の把握、患者と環境に対する指導管理(1)				講義	松山		
36	指導管理(2)	患者と環境に対する指導管理(2)・自己管理に対する指導				講義	松山		
37	評価(5)	30~36回の評価				演習	松山		
38	総括	1~37回まで総復習				講義	松山		
評価方法									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	柔道整復学・理論編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,300+税								
教材・参考図書	イラスト解剖学 松村譲児 中外医学社 ¥7,600+税								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。								

科目名	柔道整復総論Ⅱ						柔道整復科Ⅱ部		
学科	1年	分野	専門	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	1～2学期
評価担当	諸岡 大輔			担当教員	諸岡 大輔				
科目概要	筋・腱・靭帯損傷だけでなく骨折や脱臼に合併する神経・血管損傷の症状、処置について理解する。柔道整復師は、正しく聞き、視て、触れて、動かして、評価する能力を身につけ、第一に考えなければならない病態から鑑別を要する疾患までを列挙できなければならない。また、柔道整復術の一つである後療法(手技療法や運動療法、物理療法)の概念を理解する。								
到達目標	①各損傷の特徴を理解し、他の損傷や疾患との鑑別ができるようになる。 ②評価の構成(問診・視診・触診・測定評価・動的な評価・検査評価)を理解し、患者の状態を正確に評価、記録することができる。後療法の種類、実施方法、適応疾患、禁忌について正しく理解する。 ③外傷を未然に防ぐための知識を身に付ける。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	筋の損傷	概説、分類、症状、治癒機序、予後				講義	諸岡		
2	腱の損傷 評価(1)	概説、分類、症状、治癒機序、予後 1～2回の評価				講義 演習	諸岡		
3	末梢神経の損傷	概説、分類、症状、治癒機序、予後				講義	諸岡		
4	血管系、リンパ系の損傷	概説、分類、症状、治癒機序、予後				講義	諸岡		
5	評価(2) 皮膚の損傷	3～4回の評価 概説、分類、症状、治癒機序、予後				演習 講義	諸岡		
6	評価手順の概説(1)	評価環境、整容、接遇、身体評価の流れ				講義	諸岡		
7	評価手順の概説(2) 評価(3)	時期分類、施術録 5～6回の評価				講義 演習	諸岡		
8	後療法(1)	手技療法				講義	諸岡		
9	後療法(2)	運動療法				講義	諸岡		
10	評価(4) 後療法(3)	8～9回の評価 運動療法、物理療法				演習 講義	諸岡		
11	後療法(4)	物理療法				講義	諸岡		
12	後療法(5)	物理療法				講義	諸岡		
13	外傷予防(1)	基礎的状态、環境要因				講義	諸岡		
14	外傷予防(2)	啓発活動、メンタルヘルス、早期発見・治療				講義	諸岡		
15	評価(5)	10～14回の評価				演習	諸岡		
評価方法									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	柔道整復学・理論編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,300+税								
教材・参考図書	イラスト解剖学 松村譲児 中外医学社 ¥7,600+税								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。								

科目名	柔道整復総論Ⅲ						柔道整復科Ⅱ部		
学科	3年	分野	専門	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	1～2学期
評価担当	館原 宗幸			担当教員	館原 宗幸				
科目概要	柔道整復学を理解する上で重要な柔道整復学総論を解剖学的な知識を絡めて体系的に理解する。さらに総論が実際の外傷とどのように関連しているかを学ぶことで臨床現場に活用できる知識を修得する。								
到達目標	体系的に理解することで学んだ知識を実際の臨床現場で活用し、適切に診察・鑑別・施術・指導管理できる能力を身につける。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	骨の損傷	定義、分類				講義	館原		
2	骨折の症状	局所症状、全身症状				講義	館原		
3	骨折の合併症	併発症、続発症、後遺症				講義	館原		
4	小児骨折、高齢者骨折	小児骨折の特徴、高齢者骨折の特徴				講義	館原		
5	骨折の癒合日数・治癒経過 関節の損傷(捻挫・脱臼)	骨折の治癒経過、予後、関節損傷の分類、靭帯、関節包、関節軟骨、その他関節構成組織損傷				講義	館原		
6	脱臼	定義、分類、症状、合併症、脱臼の経過と予後				講義	館原		
7	筋の損傷	形態と機能、概説、分類、症状、治癒機序、予後				講義	館原		
8	腱の損傷	構造と機能、概説、分類、症状、治癒機序、予後				講義	館原		
9	末梢神経の損傷	構造と機能、概説、分類、症状、治癒機序、予後				講義	館原		
10	診察、治療法(1)	診察時の注意点、流れ、計画、施術録の扱い 治療法(骨折)				講義	館原		
11	治療法(2)	治療法(脱臼、軟部組織損傷の初期処置)				講義	館原		
12	固定法	固定の目的、種類、範囲、肢位、期間、材料				講義	館原		
13	後療法(1)	手技療法、運動療法				講義	館原		
14	後療法(2)	物理療法、指導管理				講義	館原		
15	外傷予防	運動機能向上と教育活動、啓発、特異的予防				講義	館原		
評価方法									
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	柔道整復学・理論編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,300+税 柔道整復学・実技編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,000+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。								

科目名	基礎演習 I					柔道整復科 II 部			
学科	3年	分野	専門	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～3学期
評価担当	富永 忠雅			担当教員	富永 忠雅				
科目概要	臨床現場で遭遇する怪我や障害について理解を深めるため、体の構造や機能を再確認し、姿勢や歩行といった身体運動の仕組み学ぶ。また小児の運動発達や運動学習についても学習する。								
到達目標	①1・2年次で習得した知識を基礎とし、人間の運動にかかわる身体の機能と構造を理解する。 ②正常な運動を学ぶことで、何が障害されているのかをわかるようになる。 ③小児の運動発達や運動学習を学ぶことによって運動障害患者の治療・訓練の基礎知識を身につける。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	運動学の目的 運動の表し方	運動学の領域と目的、運動の表し方				講義	富永		
2	運動器の構造と機能(1)	骨の構造				講義	富永		
3	運動器の構造と機能(2)	骨の機能				講義	富永		
4	運動器の構造と機能(3)	関節の構造と機能				講義	富永		
5	運動器の構造と機能(4)	骨格筋の構造と機能(筋線維の種類、運動単位)				講義	富永		
6	運動器の構造と機能(5)	骨格筋の構造と機能(筋収縮の様態、筋の働き)				講義	富永		
7	神経の構造と機能(1)	神経細胞、神経線維、脊髄				講義	富永		
8	神経の構造と機能(2)	末梢神経(上肢の筋肉の支配神経)				講義	富永		
9	神経の構造と機能(3)	末梢神経(下肢の筋肉の支配神経)				講義	富永		
10	神経の構造と機能(4)	中枢神経(脳、錐体路、錐体外路)				講義	富永		
11	運動感覚	運動感覚と運動の制御機構				講義	富永		
12	反射と随意運動(1)	反射(反射弓、反射中枢の部位による分類)				講義	富永		
13	反射と随意運動(2)	随意運動				講義	富永		
14	骨格系(1)	各論(上肢骨、下肢骨)				講義	富永		
15	骨格系(2)	各論(脊柱、胸郭)				講義	富永		
16	骨格系(3)	各論(上肢・下肢の関節)				講義	富永		
17	骨格系(4)	各論(頭蓋)				講義	富永		
18	筋系(1)	上肢の筋				講義	富永		
19	筋系(2)	下肢の筋				講義	富永		
20	筋系(3)	頸部・胸部・腹部・背部の筋				講義	富永		
21	四肢と体幹の運動(1)	上肢帯・肩関節・肘関節・前腕の運動				講義	富永		
22	四肢と体幹の運動(2)	手関節・手の運動				講義	富永		
23	四肢と体幹の運動(3)	股関節・膝関節・足関節・足部の運動				講義	富永		
24	四肢と体幹の運動(4)	体幹と脊柱の運動、呼吸運動				講義	富永		
25	姿勢	重心、立位姿勢、立位姿勢の制御				講義	富永		
26	歩行(1)	歩行周期、運動学的分析				講義	富永		
27	歩行(2)	運動力学的分析、筋活動、エネルギー代謝				講義	富永		
28	歩行(3)	異常歩行の見方、原因別にみる異常歩行				講義	富永		
29	運動発達	乳幼児の運動発達(反射・反応、運動発達)				講義	富永		
30	運動学習	運動技能と運動能力、動機づけ等				講義	富永		
評価方法									
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	運動学 (公社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 ¥4,200+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。								

科目名	基礎演習Ⅱ						柔道整復科Ⅱ部		
学科	3年	分野	専門	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	1～3学期
評価担当	藤井 和彦			担当教員	藤井 和彦				
科目概要	超高齢社会の中、運動器疾患の診方および治療は益々重要になってきており、リハビリテーションの臨床は医師を中心に柔道整復師やさまざまな医療従事者によって行われている。また、運動器疾患以外に神経疾患や呼吸・循環器疾患による重複障害を持った状態で施術所に来院されることも少なくない。それらの疾患を持っている患者に対応できるようリハビリテーション医学の方面から基本的事項を修得する。								
到達目標	①リハビリテーションの概念・障害・各種評価を理解し、修得する。 ②各種神経疾患および呼吸・循環器疾患に対する医学的リハビリテーションアプローチを理解し、患者のもつあらゆる障害に対し総合的に対処することができる。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	リハビリテーションの理念	語源、成立過程				講義	藤井		
2	リハビリテーションの対象と障害者の実態	医学的リハビリテーションの対象、障害者（児）の実態と内訳				講義	藤井		
3	障害の階層とアプローチ	ICIDH（国際障害分類）ICF（国際生活機能分類）				講義	藤井		
4	障害の階層とアプローチ	ICF（国際生活機能分類）				講義	藤井		
5	障害の階層とアプローチ	障害へのアプローチ				講義	藤井		
6	リハビリテーション医学の評価と診断	ADLの評価				講義	藤井		
7	リハビリテーション医学の評価と診断	画像診断				講義	藤井		
8	リハビリテーション医学の評価と診断	運動失調				講義	藤井		
9	リハビリテーション医学の基礎医学	障害学				講義	藤井		
10	リハビリテーション医学の基礎医学	治療学				講義	藤井		
11	リハビリテーション医学の関連職種	医師、理学療法士、作業療法士、看護師、言語聴覚士等				講義	藤井		
12	リハビリテーション治療技術	理学療法				講義	藤井		
13	リハビリテーション治療技術	作業療法				講義	藤井		
14	リハビリテーション治療技術	補装具				講義	藤井		
15	リハビリテーションの実際	脳卒中、パーキンソン病				講義	藤井		
評価方法									
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	リハビリテーション医学（公社）全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥5,000+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。								

科目名	基礎演習Ⅲ						柔道整復科Ⅱ部		
学科	3年	分野	専門	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	1～3学期
評価担当	中村 秀樹			担当教員	中村 秀樹				
科目概要	疾病を予防するには、環境を整え、健康の保持増進を図る必要がある。健康を規定する社会的因子を広く捉え、医療従事者として公衆衛生学の知識を学び、その理解と修得に努める。								
到達目標	1年生で修得した基本的な衛生学・公衆衛生学の知識を基礎とし、疾病予防、院内環境・社会環境の整備、保健活動について理解することで、地域医療に貢献することができる。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	消毒法	消毒の目的による分類、理学的方法、化学的方法、殺菌スペクトルと使用領域、消毒法の応用				講義	中村		
2	衛生・公衆衛生学の意義	健康の概念(WHO憲章)、疾病				講義	中村		
3	公衆衛生に関する憲章と宣言、法律	オタワ憲章、アルマ・アタ宣言、日本国憲法第25条				講義	中村		
4	感染症(1)	病原体の分類、感染症成立の要因、感染経路				講義	中村		
5	感染症(2)	感染症の分類、予防接種、不顕性感染、院内感染				講義	中村		
6	衛生統計(1)	人口ピラミッド、人口統計、健康指標				講義	中村		
7	疾病の予防、疫学(1)	疾病の予防段階、疫学研究の意義と方法				講義	中村		
8	疫学(2)、母子保健	記述疫学、分析疫学、介入研究、母子保健の指標、母子保健制度				講義	中村		
9	学校保健	保健教育、保健管理、学校保健対策、学校伝染病				講義	中村		
10	産業保健	産業保健の目的、職業病、労働災害、産業保健対策				講義	中村		
11	成人保健	成人保健の意義、主要死因別死亡率、肥満に関する指標、生活習慣病と対策				講義	中村		
12	高齢者の保健	高齢者医療の確保に関する法律、介護保険法				講義	中村		
13	環境衛生(1)	外部環境、内部環境、環境と健康				講義	中村		
14	環境衛生(2)	住居・衣服と健康、上水、下水				講義	中村		
15	環境衛生(3)	廃棄物の種類、廃棄物処理、地球環境と公害				講義	中村		
評価方法									
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	衛生学・公衆衛生学 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥5,000+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。								

科目名	基礎演習Ⅳ						柔道整復科Ⅱ部		
学科	3年	分野	専門	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	1～3学期
評価担当	小磯 嘉貴			担当教員	小磯 嘉貴				
科目概要	疾病の鑑別のためには、健康な状態と病的な状態の知識が必要である。疾病における臓器、組織、細胞の形態変化に重点を置き、その理解と修得に努める。								
到達目標	1・2年次で習得した知識を基礎とし、疾病の原因、経過、本態、治療効果などについて、細胞、組織、臓器などの形態の変化を理解することで、他の疾病との鑑別をすることができる。								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	疾病の一般	健康と疾病、疾病の分類					講義	小磯	
2	病因	内因と外因					講義	小磯	
3	退行性病変	定義、萎縮と疾患、変性と疾患、壊死と疾患					講義	小磯	
4	循環障害	充血、うっ血、虚血、出血、血栓、塞栓、梗塞					講義	小磯	
5	進行性病変	肥大、過形成、再生、化生と疾患					講義	小磯	
6	炎症	原因、形態学的変化、特徴、肉芽種性炎と疾患					講義	小磯	
7	免疫異常、アレルギー	免疫の仕組み、アレルギー（Ⅰ型～Ⅴ型）と疾患					講義	小磯	
8	免疫不全	原発性免疫不全、後天性免疫不全、自己免疫疾患					講義	小磯	
9	腫瘍(1)	定義、原因、特長、異型成、腫瘍マーカー					講義	小磯	
10	腫瘍(2)	腫瘍の分類、治療と再発					講義	小磯	
11	先天性異常(1)	単因子性遺伝子疾患、多因子性遺伝子疾患、染色体異常と疾患					講義	小磯	
12	先天性異常(2)	奇形の原因、時期、種類、感染性疾患の鑑別					講義	小磯	
13	運動器の病理(1)	骨腫瘍(良性腫瘍、悪性腫瘍)の鑑別、軟部腫瘍(良性軟部腫瘍、悪性軟部腫瘍)の鑑別					講義	小磯	
14	運動器の病理(2)	非感染性軟部・骨関節疾患(変形性関節症他)、全身性の骨・軟部疾患(先天性骨系統疾患)					講義	小磯	
15	運動器の病理(3)	骨端症、四肢循環障害、神経・筋疾患					講義	小磯	
評価方法									
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	病理学概論 (公社)全国柔道整復学校協会		医歯薬出版 ¥3,800+税						
	外科学概論 (公社)全国柔道整復学校協会		南江堂 ¥5,700+税						
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。								

科目名	基礎演習 V						柔道整復科 II 部		
学科	3年	分野	専門	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	2~3学期
評価担当	岩瀬 惇平			担当教員	岩瀬 惇平				
科目概要	人体の構造と機能などの基礎医学的知識や、疾病と傷害、柔道整復術の適応、保健医療福祉と柔道整復の理念、社会保障制度などの専門基礎知識、基礎柔道整復学や臨床柔道整復学などの専門知識について学習し、実践につなげる。また、国家試験の過去問や本校独自で作成した問題を活用し、グループ学習を行う。								
到達目標	①臨床の場を想定して、総合的・基本的な思考力や適切な判断力を身につける。 ②損傷に対して柔道整復術の適応を見極め、適切に施術を行うことができる。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	患者の人権・柔道整復師の義務と倫理、医療の安全の確保	医の倫理と患者の権利、柔道整復師と医師の関係、医療事故の防止、医療裁判				講義	岩瀬		
2	社会と医療、人体の概要	健康・疾病・障害の概念と社会環境、人体の構成と機能、細胞、組織				講義	岩瀬		
3	運動器、物質の摂取と排泄	骨格系、筋系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系				講義	岩瀬		
4	環境変化の伝達と反応、診察法	血液、生体防御機構、循環器系、神経系、感覚器系、内分泌系、医療面接、視診、打診、聴診、触診、生命徴候				講義	岩瀬		
5	炎症、消毒	分類、消毒法の一般、種類と方法、消毒法の応用				講義	岩瀬		
6	ショック、意識障害	定義、原因による分類、臨床上の分類、症状、分類				講義	岩瀬		
7	主要な内科疾患	消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、内分泌・代謝疾患、膠原病、腎・尿路疾患、神経系疾患				講義	岩瀬		
8	運動器の検査法	神経学的検査法、エックス線検査法、MRI 検査法、超音波検査法				講義	岩瀬		
9	評価法、外傷	関節可動域評価、筋力評価、計測、協調性テスト、運動発達テスト、救急外傷、スポーツ外傷と障害				講義	岩瀬		
10	感染性軟部組織・関節疾患、骨・軟部腫瘍	化膿性骨髄炎、化膿性関節炎、結核性脊椎炎、破傷風、蜂窩織炎、しょう疽、骨腫瘍、軟部腫瘍				講義	岩瀬		
11	骨端症、軟部組織・関節疾患	キーンバック病、ペルテス病、変形性膝関節症、椎間板ヘルニア、肩関節周囲炎、変形性脊椎炎				講義	岩瀬		
12	リハビリテーション	理学療法、作業療法、義肢・装具、言語療法				講義	岩瀬		
13	骨折の治癒過程、療法	骨癒合の機序、治癒に影響を与える因子、保存療法				講義	岩瀬		
14	施術法、頭部・体幹の外傷	施術法、頭部・体幹の骨折・脱臼・軟部組織損傷				講義	岩瀬		
15	上肢の外傷、下肢の外傷	上肢・下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷				講義	岩瀬		
評価方法									
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	柔道整復学・理論編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,300+税 解剖学 (公社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 ¥7,800+税 整形外科学 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥5,600+税 標準整形外科学 松野丈夫・中村利孝 医学書院 ¥9,400+税 外科学概論 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥5,700+税 病理学概論 (公社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 ¥3,800+税 リハビリテーション医学 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥5,000+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、復習を確実にし、知識の修得を目指すこと。								

科目名	柔道整復各論 I						柔道整復科 II 部		
学科	1 年	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	3 学期
評価担当	吉塚 亮一、諸岡 大輔			担当教員	吉塚 亮一、諸岡 大輔				
科目概要	柔道整復師は骨折や脱臼、軟部組織の損傷など種々の外傷に対して整復や固定、後療法といった形で治療を行う。そのためには、まずその外傷が柔道整復師の業務範囲内であるか否かを判断し、その後適切な処置ができるだけの知識と技術を備えておく必要がある。当該科目では骨折や脱臼、軟部組織損傷の症状や合併症、それに対する処置の方法などを学習する。								
到達目標	①各損傷の症状や合併症などの特徴を理解する。 ②各損傷に対して業務範囲内であるか否かを判断できる。 ③各損傷に対して適切な処置ができるようになる。								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
1	鎖骨骨折(1)	概要、発生機序、症状					講義	吉塚	
2	肩部・上腕部の損傷(1)	腱板断裂(発生機序、症状)					講義	諸岡	
3	鎖骨骨折(2)	合併症、整復法、固定法					講義	吉塚	
4	肩部・上腕部の損傷(2)	腱板断裂(検査法、治療法)					講義	諸岡	
5	肩甲骨骨折(1)	概要、骨体部骨折、上・下角骨折、関節窩骨折					講義	吉塚	
6	肩部・上腕部の損傷(3)	上腕二頭筋長頭腱損傷(発生機序、症状)					講義	諸岡	
7	肩甲骨骨折(2)	外科頸骨折、肩峰骨折、烏口突起骨折					講義	吉塚	
8	肩部・上腕部の損傷(4)	上腕二頭筋長頭腱損傷(検査法、治療法)					講義	諸岡	
9	鎖骨の脱臼(1)	胸鎖関節脱臼、肩鎖関節脱臼(分類、発生機序、症状)					講義	吉塚	
10	肩部・上腕部の損傷(5)	ベネット損傷、SLAP 損傷					講義	諸岡	
11	鎖骨の脱臼(2)	肩鎖関節脱臼(整復法、固定法)					講義	吉塚	
12	肩部・上腕部の損傷(6)	肩峰下インピンジメント症候群、リトルリーガー肩					講義	諸岡	
13	評価(1)	1・3・5・7・9・11 回の評価					演習	吉塚	
14	評価(2)	2・4・6・8・10・12 回の評価					演習	諸岡	
15	物理療法	機器の取扱い					講義	吉塚	
評価方法									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	柔道整復学・理論編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,300+税 柔道整復学・実技編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,000+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。								

科目名	柔道整復各論Ⅱ						柔道整復科Ⅱ部		
学科	2年	分野	専門	単位数	3単位	時間数	75時間	期間	1～3学期
評価担当	南 正大			担当教員	南 正大				
科目概要	柔道整復師が日常の臨床で遭遇する上肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷について各部位の解剖、発生機序、症状、治療法、予後、鑑別診断について学習する。								
到達目標	①柔道整復師の施術が適応する部分についての確に評価・鑑別・施術出来る知識を習得する。 ②各疾患の発生機序、症状、その他特徴について理解し説明ができる。 ③類似疾患との鑑別をし、的確な治療法が選択できるようになる。 ④重度の外傷に遭遇した場合を想定し、他の骨折、脱臼についても適切に判断し医科との連携が取れる知識を習得する。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	肩関節部の損傷(1)	上腕骨骨頭骨折、解剖頸骨折、外科頸骨折				講義	南		
2	肩関節部の損傷(2)	大結節単独骨折、小結節単独骨折、近位骨端線離開				講義	南		
3	肩関節部の損傷(3)	肩関節前方脱臼				講義	南		
4	肩関節部の損傷(4)	肩関節後方脱臼、肩関節下方脱臼、肩関節上方脱臼				講義	南		
5	肩関節部の損傷(5)	反復性肩関節脱臼				講義	南		
6	肩関節部の損傷(6)	不安定症、末梢神経障害、その他の疾患注意すべき疾患				講義	南		
7	評価(1)	1～6回の評価				演習	南		
8	上腕部の損傷	解剖と機能、上腕骨骨幹部骨折、橈骨神経損傷 尺骨神経損傷、注意すべき疾患				講義	南		
9	肘関節部の損傷(1)	解剖と機能、上腕骨顆上骨折				講義	南		
10	肘関節部の損傷(2)	上腕骨外顆骨折、上腕骨内側上顆骨折				講義	南		
11	肘関節部の損傷(3)	橈骨近位端部骨折、肘頭骨折				講義	南		
12	肘関節部の損傷(4)	前腕両骨後方脱臼				講義	南		
13	肘関節部の損傷(5)	前腕両骨前方脱臼、側方脱臼、前腕両骨分散脱臼				講義	南		
14	評価(2)	8～13回の評価				演習	南		
15	肘関節部の損傷(6)	橈骨頭単独脱臼、肘内障				講義	南		
16	肘関節部の損傷(7)	靭帯の損傷、野球肘、テニス肘、その他の疾患 注意すべき疾患				講義	南		
17	前腕部の損傷(1)	解剖と機能、橈骨骨幹部骨折、ガレアジ骨折尺骨骨幹部骨折、 モンテギア骨折 橈・尺両骨骨幹部骨折				講義	南		
18	前腕部の損傷(2)	前腕コンパートメント症候群、腱交叉症候群末梢神経障害				講義	南		
19	手関節部の損傷(1)	解剖と機能、コーレス骨折				講義	南		
20	手関節部の損傷(2)	スミス骨折、バートン骨折、ショウファー骨折、橈骨遠位骨 端線離解				講義	南		
21	手関節部の損傷(3)	舟状骨骨折、三角骨骨折、有鉤骨骨折、豆状骨骨折その他の 手根骨骨折				講義	南		
22	評価(3)	15～21回の評価				演習	南		
23	手関節部の損傷(4)	遠位橈尺関節脱臼、橈骨手根関節脱臼				講義	南		
24	手関節部の損傷(5)	月状骨脱臼および月状骨周囲脱臼				講義	南		
25	手関節部の損傷(6)	三角線維軟骨複合体損傷(TFCC損傷)、ド・ケルバン病、末梢 神経障害				講義	南		
26	手関節部の損傷(7)	キーンバック病、マーデルング変形、注意すべき疾患				講義	南		
27	手・指部の損傷(1)	解剖と機能、中手骨骨頭部骨折、中手骨頸部骨折、中手骨骨 幹部骨折				講義	南		
28	手・指部の損傷(2)	第1中手骨基部骨折、第5中手骨基部骨折				講義	南		
29	評価(4)	23～28回の評価				演習	南		
30	手・指部の損傷(3)	手根中手関節脱臼				講義	南		
31	手・指部の損傷(4)	基節骨骨折				講義	南		
32	手・指部の損傷(5)	中節骨骨折				講義	南		
33	手・指部の損傷(6)	末節骨骨折、マレットフィンガー				講義	南		
34	手・指部の損傷(7)	第1指中手指節関節脱臼、第1指以外の中手指節関節脱臼				講義	南		
35	手・指部の損傷(8)	近位指節間関節脱臼、遠位指節間関節脱臼				講義	南		
36	手・指部の損傷(9)	指側副靭帯損傷、ロッキングフィンガー、ばね指				講義	南		
37	手・指部の損傷(10)	デュブイトラン拘縮、ヘバーデン結節、ボタン穴変形、スワ ンネック変形、注意すべき疾患				講義	南		
38	評価(5)	30～37回の評価				演習	南		
評価方法									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	柔道整復学・理論編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,300+税 柔道整復学・実技編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,000+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授 業後の復習を欠かさず行うこと。								

科目名	柔道整復各論Ⅲ					柔道整復科Ⅱ部			
学科	2年	分野	専門	単位数	3単位	時間数	75時間	期間	1~3学期
評価担当	佐々木 達也			担当教員	佐々木 達也				
科目概要	柔道整復師が日常の臨床で遭遇する外傷(主に下肢骨の骨折・脱臼・軟部組織損傷)について各部位の解剖、発生機序、症状、整復法、固定法、治療法、予後、鑑別診断について習得する。講義では教科書の内容に加え、臨床例を基に実践的な知識となるよう進めていく。特に認定実技審査で出題される内容については重点的に講義を行う。								
到達目標	①下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷についての的確に評価・施術するための実践的な知識を修得する。 ②認定実技審査で出題される範囲の整復・固定法について、その意義や重要点を理解する。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	骨盤骨骨折、大腿骨近位端部骨折(1)	骨盤骨単独骨折、骨盤骨輪骨折、大腿骨骨頭部骨折、大腿骨頸部骨折				講義	佐々木		
2	大腿骨近位端部骨折	大腿骨頸部骨折、大腿骨転子部骨折				講義	佐々木		
3	股関節脱臼	大腿骨転子下骨折前方脱臼、後方脱臼、中心性脱臼				講義	佐々木		
4	大腿骨幹部の骨折、大腿骨遠位端部骨折(1)	大腿骨骨幹部骨折、大腿骨頸上骨折、大腿骨遠位骨端線離開				講義	佐々木		
5	大腿骨遠位端部骨折(2)	大腿骨頸部骨折、内側側副靭帯付着部の裂離骨折				講義	佐々木		
6	下腿骨近位端部骨折(1)	脛骨頸部骨折、腓骨頭単独骨折				講義	佐々木		
7	評価(1)	1~6回の評価				演習	佐々木		
8	下腿骨近位端部骨折(2)、膝関節脱臼	脛骨頰間隆起骨折、脛骨粗面骨折、前方脱臼、後方脱臼、側方脱臼、回旋脱臼				講義	佐々木		
9	膝蓋骨の骨折膝蓋骨脱臼、下腿骨骨幹部骨折(1)	膝蓋骨骨折外側脱臼、脛骨単独骨折および脛腓両骨骨折				講義	佐々木		
10	下腿骨骨幹部骨折(2)	腓骨骨幹部単独骨折、下腿部果上骨折下腿骨疲労骨折				講義	佐々木		
11	下腿遠位端部骨折(1)	顆部骨折(分類)、顆部骨折(外転損傷)				講義	佐々木		
12	下腿遠位端部骨折(2)、足根骨骨折(1)	顆部骨折(内転損傷)、距骨骨折				講義	佐々木		
13	足根骨骨折(2)、足関節部の脱臼(1)	踵骨骨折、足関節脱臼足関節脱臼(骨折を合併するもの)、				講義	佐々木		
14	評価(2)	8~13回の評価				演習	佐々木		
15	足根骨部の骨折	舟状骨骨折、立方骨骨折、楔状骨骨折				講義	佐々木		
16	中足骨部の骨折	中足骨骨折、中足骨骨折(疲労性骨折)				講義	佐々木		
17	趾骨部の骨折、中足指節関節指節間関節の脱臼	趾骨骨折、中足指節関節の脱臼指節間関節の脱臼				講義	佐々木		
18	下肢の疲労骨折	特徴的な下肢の疲労骨折				講義	佐々木		
19	股関節の軟部組織損傷	鼠径部痛症候群、関節唇損傷、弾発股、梨状筋症候群				講義	佐々木		
20	股関節の軟部組織損傷	股関節外転位拘縮、股関節内転位拘縮、股関節屈曲位拘縮				講義	佐々木		
21	乳幼児期にみられる疾患、思春期にみられる疾患	発達性股関節脱臼、臼蓋形成不全、化膿性股関節炎、ヘルペス病、単純性股関節炎大腿骨頭すべり症				講義	佐々木		
22	評価(3)	15~21回の評価				演習	佐々木		
23	大腿部の軟部組織損傷	大腿骨頭壊死症、変形性股関節症、大腿部打撲、大腿部肉離れ、大腿部骨化性筋炎				講義	佐々木		
24	膝関節部の軟部組織損傷	側副靭帯損傷、十字靭帯損傷				講義	佐々木		
25	発育期の膝関節障害	反跳膝、内反膝、外反膝、プラント病、大腿四頭筋拘縮症、オスグッド・シュラッター病、ジャンパー膝、有痛性分裂膝蓋骨				講義	佐々木		
26	発育期の膝関節障害(1)	腸脛靭帯炎、鷲足炎膝蓋軟骨軟化症				講義	佐々木		
27	発育期の膝関節障害(2)	滑膜ひだ障害、膝蓋大腿関節症、膝蓋前皮下包				講義	佐々木		
28	発育期の膝関節障害(3)	脛骨粗面皮下包、腓腓筋半膜筋筋包、側副靭帯滑液包					佐々木		
29	評価(4)	23~28回の評価				演習	佐々木		
30	青少年期にみられる疾患、中高年期にみられる疾患	悪性骨腫瘍、離断性骨軟骨炎、関節リウマチ、偽性痛風変形性膝関節症、				講義	佐々木		
31	下腿部の軟部組織損傷(1)	過労性脛部痛、アキレス腱炎、アキレス腱周囲炎				講義	佐々木		
32	下腿部の軟部組織損傷(2)	アキレス腱断裂、下腿三頭筋の肉離れ、コンパートメント症候群				講義	佐々木		
33	足関節部の軟部組織損傷(1)	下腿感染症、下腿骨腫瘍、下肢血管障害、外側靭帯損傷内側靭帯損傷、遠位脛腓靭帯損傷、二分靭帯損傷				講義	佐々木		
34	足関節部の軟部組織損傷(2)	距骨滑車の骨軟骨損傷、足根洞症候群、腓骨筋腱脱臼、前方インピンジメント、後方インピンジメント				講義	佐々木		
35	足根部の軟部組織損傷、足・趾部の軟部組織損傷(1)	ショパール関節損傷、リスフラン関節損傷、扁平足障害、セーバー病、有痛性外脛骨、アキレス腱滑液包、踵骨棘				講義	佐々木		
36	足・趾部の軟部組織損傷(2)、前足部の有痛性疾患	足底腱膜炎、第1ケーラー病、足根管症候群、外反母趾、強剛母趾、種子骨障害第2ケーラー病、モートン病				講義	佐々木		
37	下肢のスポーツ障害	思春期に特徴的な下肢のスポーツ障害				講義	佐々木		
38	評価(5)	30~37回の評価				演習	佐々木		
評価方法									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	柔道整復学・理論編 (公社)全国柔道整復学校協会		柔道整復学・実技編 (公社)全国柔道整復学校協会	南江堂	¥7,300+税	南江堂	¥7,000+税		
教材・参考図書	適宜紹介する。								

オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の 注意点	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。臨床上特に接する機会が多いと思われる症例に基づき、当該症例の検査・鑑別法及び治療法に関する理解を深める知識を身につけることを目的とするために、授業後の復習を欠かさず行うこと。

科目名	柔道整復各論Ⅳ					柔道整復科Ⅱ部			
学科	2年	分野	専門	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～3学期
評価担当	佐藤 豪介、曲淵 靖洋			担当教員	佐藤 豪介、曲淵 靖洋				
科目概要	頭部から体幹の骨折・脱臼及び軟部組織損傷の知識を修得する。临床上遭遇する可能性が高い肋骨骨折、顎関節脱臼及び頸部から腰部の軟部組織損傷に特に重点を置き講義を行う。また、患者の症状、所見から柔道整復術の適否を判断するための知識、超音波観察装置などの医用画像に関する知識、柔道整復師が遭遇する可能性のある様々な損傷・疾患について学ぶ。								
到達目標	①柔道整復師の施術が適応する部分についての的確に評価・鑑別・施術できる知識を習得する。 ②重度の外傷に遭遇した場合を想定し、他の骨折、脱臼についても適切に判断し医科との連携が取れる知識を習得する。 ③安全に柔道整復術を提供するため、超音波観察装置などの医療画像を理解し、説明することができる。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	頭部・顔面部の損傷、頭蓋骨骨折	解剖と機能、頭蓋冠骨折(脳震盪含む)、頭蓋底骨折				講義	佐藤		
2	顔面頭蓋骨折	鼻骨骨折・鼻軟骨骨折、上顎骨折、眼窩底破裂骨折(眼窩底吹き抜け骨折)頬骨骨折、				講義	佐藤		
3	評価(1)	1, 2回の評価				演習	佐藤		
4	下顎骨骨折、顎関節脱臼(1)	下顎骨骨体部骨折、下顎枝部骨折、前方脱臼				講義	佐藤		
5	顎関節脱臼(2)、頭部・顔面部の軟部組織損傷(1)	後方脱臼、側方脱臼、頭部・顔面部打撲				講義	佐藤		
6	頭部・顔面部の軟部組織損傷(2)、頸部の損傷	顎関節症、顎関節症、頸椎の解剖と機能				講義	佐藤		
7	評価(2)	4～6回の評価				演習	佐藤		
8	頸椎骨折、頸椎脱臼	上位頸椎骨折、中・下位頸椎骨折、環軸関節の脱臼および脱臼骨折、下位頸椎の脱臼および脱臼骨折				講義	佐藤		
9	頸部の軟部組織損傷、注意すべき疾患	外傷性頸部症候群(むちうち損傷)、胸郭出口症候群、寝違え、斜頸、頸椎椎間板ヘルニア、頸椎症、後縦靭帯骨化症、頸椎の炎症性病変、外傷性腕神経叢麻痺(上位型麻痺)、外傷性腕神経叢麻痺(下位型麻痺)、外傷性腕神経叢麻痺(全型麻痺)、分娩麻痺、副神経麻痺、長胸神経麻痺、頸髄損傷、先天性奇形				講義	佐藤		
10	柔道整復術適否の判断(1)	施術の適応判断の必要性、適応の判断、意識障害を伴う損傷				講義	曲淵		
11	評価(3)	8～10回の評価				演習	佐藤		
12	柔道整復術適否の判断(2)	脊髄損傷症状のある損傷、呼吸運動障害を伴う損傷内臓損傷の合併が疑われる損傷、				講義	曲淵		
13	胸・背部の損傷、胸部の骨折(1)	胸・背部の解剖と機能、肋骨骨折、肋軟骨骨折				講義	佐藤		
14	評価(4)	10, 12回の評価				演習	曲淵		
15	胸部の骨折(2)、胸椎の骨折・脱臼	胸骨骨折、胸腰椎椎体圧迫骨折、胸腰椎移行部椎体圧迫骨折				講義	佐藤		
16	柔道整復術適否の判断(3)	外出血を伴う損傷、血流障害を伴う損傷				講義	曲淵		
17	胸・背部の軟部組織損傷、注意すべき疾患	胸肋関節損傷、肋間筋損傷、胸部・背部打撲傷、背部の軟部組織損傷、胸・背部の損傷				講義	佐藤		
18	柔道整復術適否の判断(4)	末梢神経損傷を伴う損傷、high energy 損傷、脱臼骨折				講義	曲淵		
19	評価(5)	13, 15, 17回の評価				演習	佐藤		
20	柔道整復術適否の判断(5)	病的骨折および脱臼、損傷に類似した症状を示す疾患(1)、損傷に類似した症状を示す疾患(2)				講義	曲淵		
21	腰部・仙骨部の損傷、腰椎の骨折(1)	腰部・仙骨部の解剖と機能、下位腰椎椎体圧迫骨折、チャンス骨折				講義	佐藤		
22	評価(6)	16, 18, 20回の評価				演習	曲淵		
23	腰椎の骨折(2)、腰椎の脱臼	腰椎椎体破裂骨折、腰椎肋骨突起(横突起)骨折、腰椎脱臼				講義	佐藤		
24	医用画像(1)	X線、X線CT				講義	曲淵		
25	腰部の軟部組織損傷	関節性、靭帯性、筋・筋膜性、				講義	佐藤		
26	医用画像(2)	X線CT、MRI、MRI、				講義	曲淵		
27	腰部の注意すべき疾患	腰部の損傷				講義	佐藤		
28	医用画像(3)	超音波画像装置、超音波画像装置				講義	曲淵		
29	評価(7)	21, 23, 25, 27回の評価				演習	佐藤		
30	評価(8)	24, 26, 28回の評価				演習	曲淵		
評価方法									
評価指標		定期試験	平常点	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)		80	20	-	-	-	-	100	
教科書	柔道整復学・理論編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,300+税 柔道整復学・実技編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,000+税 施術の適応と医用画像の理解 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥2,600+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。								

科目名	柔道整復各論Ⅴ						柔道整復科Ⅱ部			
学科	3年	分野	専門	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～3学期	
評価担当	岩瀬 惇平			担当教員	岩瀬 惇平					
科目概要	柔道整復師は画像(X線、MRIなど)を撮影する事ができない為、疾患に対し触診や徒手検査を行って損傷の判断をしなければならない。この科目では上肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷における骨片転位や症状を学習し、各疾患の整復や治療法および後療法を修得する。									
到達目標	①各疾患の発生機序、症状、その他特徴について理解し説明ができる。 ②類似疾患との鑑別をし、的確な治療法が選択できるようになる。									
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員			
1	鎖骨部の損傷(1)	解剖と機能、鎖骨骨折、鎖骨の脱臼				講義	岩瀬			
2	鎖骨部の損傷(2)	注意すべき疾患				講義	岩瀬			
3	肩関節部の損傷(1)	解剖と機能、肩甲骨の骨折				講義	岩瀬			
4	肩関節部の損傷(2)	上腕骨近位部の骨折(上腕骨骨頭骨折、解剖頸骨折、外科頸骨折)				講義	岩瀬			
5	肩関節部の損傷(3)	上腕骨近位部の骨折(大結節単独骨折、小結節単独骨折、骨端線離開)				講義	岩瀬			
6	肩関節部の損傷(4)	肩関節脱臼				講義	岩瀬			
7	肩関節部の損傷(5)	軟部組織損傷(筋・腱の損傷、スポーツ損傷)				講義	岩瀬			
8	肩関節部の損傷(6)	軟部組織損傷(不安定症、末梢神経障害、その他の疾患)				講義	岩瀬			
9	上腕部の損傷(1)	解剖と機能、上腕骨骨幹部骨折				講義	岩瀬			
10	上腕部の損傷(2)	上腕部の軟部組織損傷、注意すべき疾患				講義	岩瀬			
11	肘関節部の損傷(1)	解剖と機能、上腕骨遠位部の骨折(上腕骨顆上骨折)				講義	岩瀬			
12	肘関節部の損傷(2)	上腕骨遠位部の骨折(上腕骨外顆骨折、上腕骨内側上顆骨折)				講義	岩瀬			
13	肘関節部の損傷(3)	前腕骨近位部の骨折				講義	岩瀬			
14	肘関節部の損傷(4)	肘関節の脱臼(前腕両骨脱臼、橈骨頭単独脱臼、肘内障)				講義	岩瀬			
15	肘関節部の損傷(5)	肘関節部の軟部組織損傷、注意すべき疾患				講義	岩瀬			
16	前腕部の損傷(1)	解剖と機能、前腕骨骨幹部骨折(橈骨骨幹部骨折、ガレアジ骨折)				講義	岩瀬			
17	前腕部の損傷(2)	前腕骨骨幹部骨折(尺骨骨幹部骨折、モンテギア骨折、橈・尺両骨骨幹部骨折)				講義	岩瀬			
18	前腕部の損傷(3)	前腕部の軟部組織損傷(前腕コンパートメント症候群、腱交叉症候群)				講義	岩瀬			
19	前腕部の損傷(4)	前腕部の軟部組織損傷(末梢神経障害)				講義	岩瀬			
20	手関節部の損傷(1)	解剖と機能、前腕骨遠位端部骨折(コーレス骨折、スミス骨折)				講義	岩瀬			
21	手関節部の損傷(2)	前腕骨遠位端部骨折( Barton骨折、ショウファー骨折、橈骨遠位骨端線離開)				講義	岩瀬			
22	手関節部の損傷(3)	手根骨部の骨折、手関節の脱臼				講義	岩瀬			
23	手関節部の損傷(4)	手関節部の軟部組織損傷(TFCC損傷、ド・ケルバン病、末梢神経障害)				講義	岩瀬			
24	手関節部の損傷(5)	手関節部の軟部組織損傷(キーンバック病、マーデルング変形、注意すべき疾患)				講義	岩瀬			
25	手・指部の損傷(1)	解剖と機能、中手骨部の骨折(中手骨骨頭部・頸部・骨幹部骨折)				講義	岩瀬			
26	手・指部の損傷(2)	中手骨部の骨折(第1・5中手骨基部骨折、後療法)、手根中手関節の脱臼				講義	岩瀬			
27	手・指部の損傷(3)	指骨部の骨折(基節骨骨折、中節骨骨折)				講義	岩瀬			
28	手・指部の損傷(4)	指骨部の骨折(末節骨骨折、マレットフィンガー)				講義	岩瀬			
29	手・指部の損傷(5)	中手指節関節・指節間関節の脱臼				講義	岩瀬			
30	手・指部の損傷(6)	軟部組織損傷(腱・靭帯の損傷)(その他の手指部の変性疾患および変形、注意すべき疾患)				講義	岩瀬			
評価方法										
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	柔道整復学・理論編 (公社)全国柔道整復学校協会		南江堂	¥7,300+税		柔道整復学・実技編 (公社)全国柔道整復学校協会		南江堂	¥7,000+税	
教材・参考図書	適宜紹介する。									
オフィスアワー	適宜確認すること。									
履修上の注意	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。									

科目名	柔道整復各論Ⅵ						柔道整復科Ⅱ部		
学科	3年	分野	専門	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	2～3学期
評価担当	館原 宗幸			担当教員	館原 宗幸				
科目概要	柔道整復学を理解する上で重要な柔道整復学総論を解剖学的な知識を絡めて体系的に理解する。さらに総論が実際の外傷とどのように関連しているかについて下肢の損傷(骨折・脱臼・打撲・捻挫・挫傷)で学び臨床現場で活用できる知識を修得する。								
到達目標	体系的に理解することで学んだ知識を実際の臨床現場で活用し、適切に診察・鑑別・施術・指導管理できる能力を身につける。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	頭部・顔面	頭部・顔面骨折・打撲、顎関節脱臼、顎関節症				講義	館原		
2	頸部の損傷	頸椎骨折、脱臼、軟部組織損傷				講義	館原		
3	胸部・背部の損傷	胸部の骨折、胸椎骨折、脱臼、軟部組織損傷				講義	館原		
4	腰部の損傷、骨盤部の損傷	腰椎骨折、脱臼、軟部組織損傷、骨盤骨骨折				講義	館原		
5	股関節部の損傷(1)	大腿骨近端部骨折(骨頭、頸部、転子部、転子下)				講義	館原		
6	股関節部の損傷(2)	大腿骨頸部外側骨折・転子部・骨幹部、股関節脱臼				講義	館原		
7	大腿部の損傷	大腿骨骨幹部骨折、軟部組織損傷、注意すべき疾患				講義	館原		
8	膝関節部の損傷	膝関節脱臼、膝蓋骨骨折、膝蓋骨脱臼				講義	館原		
9	膝関節部の軟部組織損傷(1)	半月板、靭帯損傷、発育期膝蓋骨障害				講義	館原		
10	膝関節部の軟部組織損傷(2)	腸脛靭帯炎、鵞足炎、膝蓋大腿関節障害、膝周囲の関節包、滑液包の異常、神経障害				講義	館原		
11	下腿部の損傷	下腿骨幹部骨折、下腿部の軟部組織損傷				講義	館原		
12	足関節部の損傷	下腿遠位端部骨折、足根骨部の骨折、足関節部脱臼				講義	館原		
13	足関節部の軟部組織損傷	足関節捻挫、足関節捻挫の類床鑑別				講義	館原		
14	足・趾部の損傷(1)	足根骨部・中足部・趾骨部の骨折				講義	館原		
15	足・趾部の損傷(2)	足根部の脱臼と軟部組織損傷、中足趾節関節・趾節間関節部の脱臼、足部の有痛性疾患				講義	館原		
評価方法									
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	100
教科書	柔道整復学・理論編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,300+税 柔道整復学・実技編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,000+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。								

科目名	臨床演習 I						柔道整復科 II 部		
学科	3年	分野	専門	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	1~3学期
評価担当	喜多村 伸明			担当教員	喜多村 伸明				
科目概要	柔道整復師は運動器の施術を行うので、運動器全体の知識すなわち整形外科全般についても基本的な知識を持っている必要がある。柔道整復師による施術が運動器の治療全体においてどのような位置付けにあるかを理解し、運動器の疾患を鑑別する知識を習得する。								
到達目標	2年次までに修得した知識を基礎とし、運動器疾患の種類、診断法、治療法などについて学び、柔道整復学と整形外科の関係を理解することで、他の疾病との鑑別をすることができる。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	疾患別各論(1)	感染性疾患(急性化膿性骨髄炎、慢性骨髄炎)、感染性疾患(プロディ骨膿瘍、骨関節結核、化膿性関節炎)				講義	喜多村		
2	疾患別各論(2)	骨および軟部腫瘍(悪性骨腫瘍)、骨および軟部腫瘍(良性骨腫瘍、軟部腫瘍)				講義	喜多村		
3	疾患別各論(3)	非感染性軟部・骨関節疾患(変形性関節症)、非感染性軟部・骨関節疾患(関節リウマチ)				講義	喜多村		
4	疾患別各論(4)	非感染性軟部・骨関節疾患(痛風、偽性痛風)、非感染性軟部・骨関節疾患(血友病性関節症、離断性骨軟骨炎、関節遊離体)				講義	喜多村		
5	疾患別各論(5)	非感染性軟部・骨関節疾患(その他の関節炎)、非感染性軟部・骨関節疾患(骨粗鬆症)				講義	喜多村		
6	疾患別各論(6)	全身性の骨・軟部疾患(先天性骨系統疾患)、全身性の骨・軟部疾患(先天性骨系統疾患)				講義	喜多村		
7	疾患別各論(7)	全身性の骨・軟部疾患(多発性神経線維腫症、くる病、巨人症、下垂体性小人症)、骨端症(ペルテス病、オスグッド・シュラッター病、ブラント病)				講義	喜多村		
8	疾患別各論(8)	骨端症(セーバー病、キーンバック病、ケーラー病、フライバーグ病)、神経・筋疾患(上肢の神経麻痺と絞扼性神経障害)				講義	喜多村		
9	疾患別各論(9)	神経・筋疾患(上肢の神経麻痺と絞扼性神経障害)、神経・筋疾患(下肢の神経麻痺と絞扼性神経障害)				講義	喜多村		
10	疾患別各論(10)	神経・筋疾患(腕神経叢損傷・分娩麻痺)、神経・筋疾患(全身性神経・筋疾患)				講義	喜多村		
11	疾患別各論(11)	神経・筋疾患(全身性神経・筋疾患)、神経・筋疾患(脊髄腫瘍、脊髄損傷)				講義	喜多村		
12	身体部位別各論(1)	体幹(頸部)、体幹(胸部)				講義	喜多村		
13	身体部位別各論(2)	体幹(腰部)、肩甲帯および上肢の疾患(肩・肩甲帯、上腕・肘関節)				講義	喜多村		
14	身体部位別各論(3)	肩甲帯および上肢の疾患(前腕、手関節)、肩甲帯および上肢の疾患(手・手指)				講義	喜多村		
15	身体部位別各論(4)	骨盤および下肢の疾患(骨盤・股関節、大腿・膝関節)、骨盤および下肢の疾患(下腿・足関節、足・足趾)				講義	喜多村		
評価方法									
評価指標		定期試験	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合(%)		100	-	-	-	-	-	-	100
教科書	整形外科 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥5,600+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。								

科目名	臨床演習Ⅱ						柔道整復科Ⅱ部		
学科	3年	分野	専門	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～3学期
評価担当	石橋 大輔			担当教員	石橋 大輔				
科目概要	診察の基本と内科疾患を中心とした概念を学ぶと同時に、柔道整復師が臨床現場で注意を払わなければならない症状・所見の理解を深める。								
到達目標	2年次までに習得した知識を基礎とし、各疾患の原因、症状、検査所見、治療、予後といった病態生理を理解し、医療面接における患者所見から鑑別診断を行うことができる。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	診察概論	診察の進め方と心構え・評価と記録				講義	石橋		
2	診察各論(1)	医療面接・視診				講義	石橋		
3	診察各論(2)	打診・聴診・触診・生命徴候				講義	石橋		
4	診察各論(3)	感覚検査・反射検査				講義	石橋		
5	診察各論(4)	代表的な臨床症状				講義	石橋		
6	検査法	生命徴候の測定・生理機能検査・検体検査、運動機能検査				講義	石橋		
7	呼吸器疾患(1)	主要徴候、肺炎、肺癌				講義	石橋		
8	呼吸器疾患(2)	気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患				講義	石橋		
9	循環器疾患(1)	主要徴候、心不全、虚血性心疾患				講義	石橋		
10	循環器疾患(2)	心臓弁膜症、高血圧				講義	石橋		
11	循環器疾患(3)	動脈・静脈疾患				講義	石橋		
12	消化器疾患(1)	主要徴候、食道、胃疾患				講義	石橋		
13	消化器疾患(2)	大腸疾患、肝疾患				講義	石橋		
14	代謝疾患	糖尿病、脂質異常症、痛風				講義	石橋		
15	内分泌疾患(1)	下垂体疾患				講義	石橋		
16	内分泌疾患(2)	甲状腺疾患				講義	石橋		
17	内分泌疾患(3)	副腎疾患				講義	石橋		
18	血液・造血器疾患(1)	主要徴候、赤血球疾患				講義	石橋		
19	血液・造血器疾患(2)	白血球疾患、出血傾向				講義	石橋		
20	腎・尿路疾患(1)	主要徴候、腎不全				講義	石橋		
21	腎・尿路疾患(2)	糸球体疾患				講義	石橋		
22	神経系疾患(1)	主要徴候、脳血管障害				講義	石橋		
23	神経系疾患(2)	神経変性疾患				講義	石橋		
24	神経系疾患(3)	神経免疫疾患、筋疾患				講義	石橋		
25	感染症	エイズ、梅毒				講義	石橋		
26	膠原病(1)	病因・病態、関節リウマチ				講義	石橋		
27	膠原病(2)	全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎				講義	石橋		
28	膠原病(3)	シェーグレン症候群、ベーチェット病				講義	石橋		
29	総論および各論(1)	診察・検査法の総括				講義	石橋		
30	総論および各論(2)	主要疾患の総括的事項の確認				講義	石橋		
評価方法									
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	一般臨床医学 (公社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 ¥5,800+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。								

科目名	臨床演習Ⅲ						柔道整復科Ⅱ部		
学科	3年	分野	専門	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～3学期
評価担当	諸岡 大輔			担当教員	諸岡 大輔				
科目概要	EBM(根拠に基づいた医療)やインフォームド・コンセントが広く徹底されてきている。臨床現場で遭遇する骨折・脱臼・軟部組織損傷を鑑別するために、柔道整復学だけでなく外科学の知識を総合的に学ぶことで損傷の分類や治療方法、治癒過程を理解し、柔道整復術の適応か否か判断できる知識を修得する。								
到達目標	2年次までに習得した知識を基礎とし、柔道整復師が対応可能な疾患とそうでない疾患の鑑別について学び、医療面接等で得た情報から医学的知識を統合し、適切な治療が行えるようになる。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	損傷(1)	損傷分類、バイタルサイン、交通外傷、特殊損傷				講義	諸岡		
2	損傷(2)	創傷分類、創傷の治癒過程、処置、熱傷				講義	諸岡		
3	炎症と外科感染症(1)	炎症の定義、分類、感染症発症のメカニズム				講義	諸岡		
4	炎症と外科感染症(2)	外科感染症各論				講義	諸岡		
5	腫瘍(1)	成因、分類、発育形式、症状				講義	諸岡		
5	腫瘍(2)	検査、治療				講義	諸岡		
6	ショック(1)	ショックの4つの分類と原因、症状、治療法				講義	諸岡		
7	ショック(2)	緊急処置、合併症				講義	諸岡		
8	輸血、輸液(1)	輸血の基礎知識、適応と実際				講義	諸岡		
9	輸血、輸液(2)	一般輸液と高カロリー輸液				講義	諸岡		
10	消毒と滅菌	消毒薬の種類、滅菌法				講義	諸岡		
11	手術	切開法、結紮法、縫合法、穿刺術				講義	諸岡		
12	麻酔	全身麻酔の分類、導入方法、合併症、局所麻酔の分類、穿刺方法、合併症				講義	諸岡		
13	移植と免疫	移植の用語、免疫抑制、改正臓器移植法、世界と日本の移植の現状				講義	諸岡		
14	出血と止血(1)	出血の分類				講義	諸岡		
15	出血と止血(2)	止血の仕組み、外出血と内出血、止血法				講義	諸岡		
16	心肺蘇生法	救急救命の流れ、心肺蘇生法、人工呼吸法、AED				講義	諸岡		
17	脳神経外科疾患(1)	脳神経疾患の主要徴候、中枢性疾患特有な病態				講義	諸岡		
18	脳神経外科疾患(2)	画像検査、頭部外傷				講義	諸岡		
19	脳神経外科疾患(3)	脳血管障害、脳腫瘍				講義	諸岡		
20	甲状腺疾患	甲状腺疾患、副甲状腺疾患				講義	諸岡		
21	頸部疾患	頸部の腫瘍性疾患、後天性疾患				講義	諸岡		
22	胸壁・呼吸器疾患(1)	胸郭・肺の検査、手術(切開法)、ドレナージ				講義	諸岡		
23	胸壁・呼吸器疾患(2)	肺・胸膜の疾患、胸部損傷				講義	諸岡		
24	心臓・脈管疾患(1)	心臓疾患、心・血管系疾患に対する検査法				講義	諸岡		
25	心臓・脈管疾患(2)	心臓手術法、先天性心疾患、弁膜症				講義	諸岡		
26	心臓・脈管疾患(3)	心臓腫瘍、動脈疾患、静脈疾患				講義	諸岡		
27	乳腺疾患(1)	診断、乳腺疾患				講義	諸岡		
28	乳腺疾患(2)	良性腫瘍、悪性腫瘍、乳癌				講義	諸岡		
29	腹部外科疾患(1)	腹部外科疾患・消化器疾患に対する主な検査				講義	諸岡		
30	腹部外科疾患(2)	代表的腹部外科疾患				講義	諸岡		
評価方法									
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	外科学概論 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥5,700+税 柔道整復学・理論編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,300+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。								

科目名	臨床演習Ⅳ					柔道整復科Ⅱ部			
学科	3年	分野	専門	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～2学期
評価担当	石橋 大輔			担当教員	石橋 大輔				
科目概要	これまで習得した知識を基礎とし、実際の外傷とどのように関連しているか、損傷(骨折・脱臼・打撲・捻挫・挫傷)の鑑別を理解するために、柔道整復学だけではなく内科や整形外科の知識を総合的に学ぶことで、臨床現場で柔道整復術の適応か否か判断できる知識を修得する。また、国家試験の過去問や本校独自で作成した問題を活用しながら知識を定着させる。								
到達目標	①柔道整復師として非常に重要な基本的事項である医学的知識および技能ともに、社会的、倫理的側面について学ぶことで、安全な医療を提供する観点から適切に診察・鑑別・施術・指導管理が行えるようになる。 ②臨床の場を想定して、総合的・基本的な思考力や適切な判断力を身につける。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	柔道整復術の適否	診断の原則				講義	石橋		
2	損傷に類似した症状を示す疾患(1)	内臓疾患の投影を疑う疼痛				講義	石橋		
3	損傷に類似した症状を示す疾患(2)	腰痛を伴う疾患(腰痛のレッドフラッグ)				講義	石橋		
4	損傷に類似した症状を示す疾患(3)	腰痛を伴う疾患(後正中型腰椎椎間板ヘルニア)				講義	石橋		
5	損傷に類似した症状を示す疾患(4)	腰痛を伴う疾患(特発性脊髄硬膜外血腫)				講義	石橋		
6	損傷に類似した症状を示す疾患(5)	腰痛を伴う疾患(急性化膿性脊椎炎)				講義	石橋		
7	損傷に類似した症状を示す疾患(6)	腰痛を伴う疾患(転移性脊椎腫瘍)				講義	石橋		
8	損傷に類似した症状を示す疾患(7)	化膿性の炎症				講義	石橋		
9	損傷に類似した症状を示す疾患(8)	軟部組織の圧迫損傷				講義	石橋		
10	血流障害を伴う損傷	動脈損傷、骨折、脱臼				講義	石橋		
11	末梢神経損傷を伴う損傷(1)	腕神経叢麻痺				講義	石橋		
12	末梢神経損傷を伴う損傷(2)	骨折				講義	石橋		
13	末梢神経損傷を伴う損傷(3)	脱臼				講義	石橋		
14	脱臼骨折(1)	肩関節、肘関節				講義	石橋		
15	脱臼骨折(2)	股関節、足関節				講義	石橋		
16	外出血を伴う損傷(1)	開放性骨折				講義	石橋		
17	外出血を伴う損傷(2)	開放性脱臼				講義	石橋		
18	病的骨折および脱臼	病的骨折、病的脱臼				講義	石橋		
19	意識障害を伴う損傷(1)	頭蓋骨骨折				講義	石橋		
20	意識障害を伴う損傷(2)	脳挫傷、外傷性クモ膜下出血				講義	石橋		
21	意識障害を伴う損傷(3)	急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫				講義	石橋		
22	意識障害を伴う損傷(4)	急性脳内血腫、慢性硬膜下血腫				講義	石橋		
23	脊髄症状のある損傷(1)	頸椎損傷、非骨傷性頸髄損傷				講義	石橋		
24	脊髄症状のある損傷(2)	胸椎・腰椎損傷、非骨傷性胸椎・腰椎部脊髄損傷				講義	石橋		
25	呼吸運動障害を伴う損傷	胸部外傷				講義	石橋		
26	内臓損傷の合併が疑われる損傷(1)	骨折(肋骨骨折、骨盤骨折)				講義	石橋		
27	内臓損傷の合併が疑われる損傷(2)	脱臼(胸鎖関節脱臼、股関節脱臼骨折)				講義	石橋		
28	高エネルギー外傷(1)	外傷性ショック、DIC				講義	石橋		
29	高エネルギー外傷(2)	FES、DVT、PTE				講義	石橋		
30	総合まとめ	1～29回まで総合まとめ				演習	石橋		
評価方法									
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	医療の中の柔道整復 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥2,300+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意点	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。								

科目名	柔道整復実技 I						柔道整復科 II 部		
学科	1 年	分野	専門	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	1～2 学期
評価担当	比留間 俊幸			担当教員	比留間 俊幸				
科目概要	柔道整復術の一つである固定の中の「包帯による固定法」と「テーピングによる固定法」について学ぶ。「包帯による固定法」では基本となる基本包帯法と身体の部位別包帯法、鎖骨骨折に対する代表的な巻き方であるデゾー包帯法、肩関節脱臼に対する代表的な巻き方であるヴェルポー包帯法・ジュール包帯法を習得する。「テーピングによる固定法」では膝関節内側副靭帯損傷と足関節外側靭帯損傷に対する固定法を習得する。								
到達目標	①固定の目的・範囲・肢位および固定施行時の一般原則を理解する。 ②包帯・テーピングを素早く・しっかりと・丁寧に巻けるようになる。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	オリエンテーション 固定材料の種類	固定の目的・範囲・肢位、硬性材料、軟性材料				実技	比留間		
2	膝関節内側副靭帯損傷	X サポートテープ固定				実技	比留間		
3	足関節外側靭帯損傷(1)	バスケットウィーブテープ固定				実技	比留間		
4	足関節外側靭帯損傷(2)	バスケットウィーブテープ固定				実技	比留間		
5	足関節外側靭帯損傷(3)	フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定				実技	比留間		
6	足関節外側靭帯損傷(4)	フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定				実技	比留間		
7	評価(1)	1～6 回の評価				演習	比留間		
8	評価(1)	1～6 回の評価				演習	比留間		
9	包帯の巻き方と注意事項	包帯の巻き方の基礎・持ち方・巻き戻し				実技	比留間		
10	基本包帯法(1)	環行帯・螺旋帯・蛇行帯・折転帯				実技	比留間		
11	基本包帯法(2)	亀甲帯・麦穂帯				実技	比留間		
12	基本包帯法(3)	手から肘の基本包帯法				実技	比留間		
13	評価(2)	9～12 回の評価				演習	比留間		
14	評価(2)	9～12 回の評価				演習	比留間		
15	基本包帯法(4)	肘から肩の基本包帯法				実技	比留間		
16	基本包帯法(5)	肘から肩の基本包帯法				実技	比留間		
17	基本包帯法(6)	足から膝の基本包帯法				実技	比留間		
18	基本包帯法(7)	基本包帯法復習				実技	比留間		
19	基本包帯法(8)	基本包帯法復習				実技	比留間		
20	評価(3)	15～19 回の評価				演習	比留間		
21	評価(3)	15～19 回の評価				演習	比留間		
22	部位別包帯法	手関節・手指部の包帯法、足関節・足趾部の包帯法				実技	比留間		
23	冠名包帯法(1)	デゾー包帯法				実技	比留間		
24	冠名包帯法(2)	ヴェルポー包帯法				実技	比留間		
25	冠名包帯法(3)	ジュール包帯法				実技	比留間		
26	身体測定法の評価(1)	身体測定法(上肢)				実技	比留間		
27	身体測定法の評価(2)	身体測定法(下肢)				実技	比留間		
28	評価(4)	22～27 回の評価				演習	比留間		
29	評価(4)	22～27 回の評価				演習	比留間		
30	総括	1～29 回までの総括				実技	比留間		
評価方法									
評価指標		定期試験	平常点	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)		80	20	-	-	-	-	100	
教科書	包帯固定学 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥2,500+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	実習着および整容は、常に清潔に保ち衛生面に留意すること。実技が中心となるので、必ず実技道具とノートを持参すること。また、効果的に技術を習得するために、授業後の練習を欠かさず行うこと。自分が行った固定に対して、目的が果たされているか否かの確認を常に行い、その中から課題を見つけだして技術を向上させていくこと。								
担当教員の 実務経験	比留間：施術所にて 15 年間の柔道整復の臨床経験を有し、包帯、テーピングの実技に精通している。								

科目名	柔道整復実技Ⅱ						柔道整復科Ⅱ部		
学科	1年	分野	専門	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～3学期
評価担当	佐藤 豪介			担当教員	佐藤 豪介				
科目概要	柔道整復術を業として行うためには多くの医学的知識が必要であり、特に運動器の解剖は必須である。この科目では柔道整復師が治療を行うことができる骨折、脱臼と関わりが深い骨や筋、関節について解説する。								
到達目標	①骨や筋、関節の構造等を学び、骨のランドマークや筋の起始・停止・作用の理解を深めて、関節の運動について説明できるようになる。 ②実際に身体に触れてみて、その部位の名称を答えられるようになる。 ③正常な構造等を学ぶことで、何が異常なのか鑑別できるようになる。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	骨の触診(1)	上肢帯の骨の触診				実技	佐藤		
2	骨の触診(2)	下肢帯の骨の触診				実技	佐藤		
3	筋の触診(1)	肩部、上腕部の筋の触診				実技	佐藤		
4	筋の触診(2)	前腕部、手部の筋の触診				実技	佐藤		
5	筋の触診(3)	体幹・腰背部の筋の触診				実技	佐藤		
6	評価(1)	1～5回の評価				演習	佐藤		
7	評価(1)	1～5回の評価				演習	佐藤		
8	筋の触診(4)	下肢の筋の触診				実技	佐藤		
9	後療法：手技療法(1)	軽擦法・揉捏法・圧迫法				実技	佐藤		
10	後療法：手技療法(2)	叩打法・強擦法・曲手				実技	佐藤		
11	後療法：手技療法(3)	上肢の手技療法				実技	佐藤		
12	後療法：手技療法(4)	腰背部の手技療法				実技	佐藤		
13	後療法：手技療法(5)	下肢の手技療法				実技	佐藤		
14	評価(2)	8～13回の評価				演習	佐藤		
15	評価(2)	8～13回の評価				演習	佐藤		
16	運動療法(1)	肩部、上腕部の筋の運動療法				実技	佐藤		
17	運動療法(2)	前腕部、手部の筋の運動療法				実技	佐藤		
18	運動療法(3)	殿部、大腿部の筋の運動療法				実技	佐藤		
19	運動療法(4)	膝部、下腿部、足部の筋の運動療法				実技	佐藤		
20	運動療法(5)	体幹の筋の運動療法				実技	佐藤		
21	評価(3)	16～20回の評価				演習	佐藤		
22	評価(3)	16～20回の評価				演習	佐藤		
23	運動療法(6)	腰背部の筋の運動療法				実技	佐藤		
24	進級実技演習(1)	手関節～前腕の包帯固定				実技	佐藤		
25	進級実技演習(2)	肘関節～肩関節の包帯固定				実技	佐藤		
26	進級実技演習(3)	足関節～下腿の包帯固定(膝関節含む)				実技	佐藤		
27	進級実技演習(4)	足関節のテーピング				実技	佐藤		
28	進級実技演習(5)	膝関節のテーピング				実技	佐藤		
29	評価(4)	23～28回の評価				演習	佐藤		
30	評価(4)	23～28回の評価				演習	佐藤		
評価方法									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	解剖学 (公社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 ¥7,800+税 柔道整復学・理論編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,300+税								
教材・参考図書	イラスト解剖学 松村譲児 中外医学社 ¥7,600+税								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	実習着および整容は、常に清潔に保ち衛生面に留意すること。実技が中心となるので、必ず実技道具とノートを持参すること。効果的に技術を習得するために、授業後の練習を欠かさず行うこと。								
担当教員の 実務経験	佐藤：施術所にて24年間の柔道整復の臨床経験を有し、包帯、テーピングの実技、触診実技、手技療法、運動療法に精通している。								

科目名	柔道整復実技Ⅲ					柔道整復科Ⅱ部			
学科	1年	分野	専門	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	3学期
評価担当	喜多村 伸明			担当教員	喜多村 伸明				
科目概要	<p>運動療法・物理療法には様々な種類があるが、血液循環の改善、疼痛軽減だけでなく、障害予防、巧緻性改善なども目的とされ、スポーツ分野に限らず病院、クリニック、接骨院などでも頻繁に用いられている。種々の物理療法機器を実際に使用し、身体に現れる効果・反応を科学的に理解し、適応や禁忌を学ぶ。</p> <p>また、様々な症状で来所した患者に対し、患者を全人的に受け入れて、患部を愛護的に扱い、適切な治療を施すため、症状を鑑別するための触診を学び、二次損傷(血管・神経損傷)を確認するための技術を学ぶ。</p>								
到達目標	<p>①解剖学的・生理学的理解に基づいた物理療法を、確実かつ安全に実施できる知識と技術を修得する。</p> <p>②各種物理療法機器の効果、適応、禁忌を理解し、確実かつ安全に実施できる知識と技術を修得する。</p> <p>③施術の介助(患者誘導、患部の愛護的な扱い方)を修得する。</p> <p>④それぞれの症例に必要な触診を確実かつ安全に実施できる知識を修得する。</p> <p>⑤血管・神経損傷の確認を確実かつ安全に実施できる知識を修得する。</p>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	概論	物理療法概論				実技	喜多村		
2	電気療法(1)	干渉波療法の操作方法				実技	喜多村		
3	電気療法(2)	干渉波療法の操作及び模擬患者への施行				実技	喜多村		
4	光線療法・温熱療法	赤外線、パラフィン浴、ホットパック療法				実技	喜多村		
5	温熱療法	超音波、極超短波				実技	喜多村		
6	触診技術(1)	オリエンテーション、鎖骨定型的骨折、肩鎖関節上方脱臼				実技	喜多村		
7	触診技術(2)	上腕骨外科頸外転型骨折、肩関節烏口下脱臼、腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷				実技	喜多村		
8	触診技術(3)	肘関節後方脱臼、肘内障、コーレス骨折				実技	喜多村		
9	触診技術(4)	ハムストリング損傷、大腿四頭筋打撲、膝関節側副靭帯損傷、膝関節十字靭帯損傷				実技	喜多村		
10	触診技術(5)	膝関節半月板損傷、下腿三頭筋損傷、足関節外側靭帯損傷				実技	喜多村		
11	臨床実習前施術試験	1～5回の評価				演習	喜多村		
12	臨床実習前施術試験	1～5回の評価				演習	喜多村		
13	臨床実習前施術試験	6～10回の評価				演習	喜多村		
14	臨床実習前施術試験	6～10回の評価				演習	喜多村		
15	総括	総復習				実技	喜多村		
評価方法									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	合計		
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	100		
教科書	柔道整復学・理論編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,300+税 柔道整復学・実技編(公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,000+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意点	実習着および整容は、常に清潔に保ち衛生面に留意すること。実技が中心となるので、必ず実技道具とノートを持参すること。効果的に技術を習得するために、授業後の練習を欠かさず行うこと。								
担当教員の実務経験	喜多村：施術所にて30年間の柔道整復の臨床経験を有し、物理療法実施に関する知識と技術、触診感覚検査の実技に精通している。								

科目名	柔道整復実技Ⅳ						柔道整復科Ⅱ部		
学科	2年	分野	専門	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～2学期
評価担当	吉塚 亮一			担当教員	吉塚 亮一				
科目概要	<p>施術所やスポーツ現場で数多く遭遇する体幹・上・下肢の軟部組織損傷については、教科書以外にも様々な臨床例からの知識が必要な場合が多い。本講義では教科書の内容に加え、臨床例を基にその診断・治療に必要な知識を習得する。</p>								
到達目標	<p>①徒手筋力検査(MMT)：体幹・上・下肢の代表的な筋の損傷程度を的確に評価・施術するため必要な、知識を習得する。 ②上・下肢の関節の損傷予防のテーピングテクニックを修得する。</p>								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	総括：MMTについて	授業の流れ、概要の説明、注意点、柔道整復師が行うMMTとは				実技	吉塚		
2	体幹・上肢筋のMMT(1)	MMTの実施法・注意点、僧帽筋のMMT				実技	吉塚		
3	体幹・上肢筋のMMT(2)	広背筋・三角筋のMMT				実技	吉塚		
4	体幹・上肢筋のMMT(3)	三角筋・大胸筋・上腕二頭筋・上腕筋のMMT				実技	吉塚		
5	体幹・上肢筋のMMT(4)	胸鎖乳突筋・上腕三頭筋・上腕筋のMMT				実技	吉塚		
6	体幹・上肢筋のMMT(5)	体幹・棘上筋・棘下筋				実技	吉塚		
7	評価(1)	1～6回の評価				演習	吉塚		
8	体幹・下肢筋のMMT(1)	腹直筋・内外腹斜筋・脊柱起立筋のMMT				実技	吉塚		
9	体幹・下肢筋のMMT(2)	中殿筋・大殿筋のMMT				実技	吉塚		
10	体幹・下肢筋のMMT(3)	中殿筋・大殿筋・大腿筋膜張筋・外旋6筋のMMT				実技	吉塚		
11	体幹・下肢筋のMMT(4)	大腰筋・腸骨筋・腰方形筋・大腿四頭筋のMMT				実技	吉塚		
12	体幹・下肢筋のMMT(5)	ハムストリングス・下腿三頭筋・縫工筋のMMT				実技	吉塚		
13	上肢・体幹・下肢のMMT	体幹・下肢筋のMMT				実技	吉塚		
14	評価(2)	8～13回の評価				演習	吉塚		
15	テーピング基礎(1)	テーピングの種類と使用法・臨床例解説				実技	吉塚		
16	テーピング基礎(2)	テーピング実践・アンダーラップ他				実技	吉塚		
17	臨床テーピング(1)	足関節(アンカー・スターアップ)				実技	吉塚		
18	臨床テーピング(2)	足関節(フォースシュー・サーキュラー)				実技	吉塚		
19	臨床テーピング(3)	足関節(ラジヒールロック)				実技	吉塚		
20	臨床テーピング(4)	足関節(フィギュアエイト・ラッピング)				実技	吉塚		
21	臨床テーピング(5)	膝関節疾患総論(1)				実技	吉塚		
22	評価(3)	15～21回の評価				演習	吉塚		
23	臨床テーピング(6)	膝関節疾患総論(2)				実技	吉塚		
24	臨床テーピング(7)	膝関節(アンテリアサポート・サーキュラー)				実技	吉塚		
25	臨床テーピング(8)	膝関節(スパイラル・スプリットテープ)				実技	吉塚		
26	臨床テーピング(9)	膝関節(Xサポート・スパイラル)				実技	吉塚		
27	臨床テーピング(10)	膝関節(ACL・MCL損傷テーピング)				実技	吉塚		
28	臨床テーピング(11)	キネシオテーピング理論・実践				実技	吉塚		
29	臨床テーピング(12)	肘関節・指関節のテーピング				実技	吉塚		
30	評価(4)	23～29回の評価				演習	吉塚		
評価方法									
評価指標		定期試験	平常点	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)		80	20	-	-	-	-	100	
教科書	<p>運動学 (公社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 ¥4,200+税 解剖学 (公社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 ¥7,800+税</p>								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	<p>実習着および整容は、常に清潔に保ち衛生面に留意すること。筋肉の解剖学的構造を理解していないと、検査を理論的に理解することが困難な為、解剖学や運動学の教科書等を使用し予習をすること。必ずノートを持参すること。効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。</p>								
担当教員の 実務経験	<p>吉塚：施術所にて33年間の柔道整復の臨床経験を有し、触診およびMMTに関する知識と技術、障害予防のテーピングに精通している。</p>								

科目名	柔道整復実技V						柔道整復科Ⅱ部		
学科	2年	分野	専門	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～2学期
評価担当	小磯 嘉貴			担当教員	小磯 嘉貴				
科目概要	柔道整復術は、急性及び亜急性の原因によって発生する各種運動器損傷に対する施術である。この授業では、非観血的に行う「整復法」と「固定法」の2つについて、日常の臨床でよく遭遇する各損傷別に実技を通じて修得する。								
到達目標	①上肢の骨折・脱臼の発生機序の理解、類似損傷との鑑別のポイント、具体的な治療計画(整復法、検査法、評価法、固定法、後療法、可動域訓練、筋力増強訓練、指導管理、治癒日程等)を立てることが出来る。 ②骨折部位、脱臼部位、軟部組織損傷部の状態と位置を正確に把握し指し示すことができる。 ③整復法、検査法の手順や手技を理解し正確に行うことができる。 ④種々の固定材料の特性を把握し、症例に応じて使い分けることができる。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	鎖骨骨折(1)	診察・整復				実技	小磯・林		
2	鎖骨骨折(2)	固定				実技	小磯・林		
3	上腕骨近位部の骨折(1)	上腕骨外科頸骨折 1)外転型骨折(診察・整復)、2)内転型骨折				実技	小磯・林		
4	上腕骨近位部の骨折(2)	上腕骨近位骨端線離開				実技	小磯・林		
5	上腕骨骨幹部骨折	固定				実技	小磯・林		
6	評価(1)	1～5回の評価				実技	小磯・林		
7	評価(1)	1～5回の評価				実技	小磯・林		
8	上腕骨遠位部の骨折(1)	上腕骨顆上骨折				演習	小磯・林		
9	上腕骨遠位部の骨折(2)	上腕骨外顆骨折				実技	小磯・林		
10	上腕骨遠位部の骨折(3) 前腕骨近位部の骨折	上腕骨内側上顆骨折、橈骨近位端部骨折、肘頭骨折				実技	小磯・林		
11	前腕骨骨幹部骨折	モンテギア骨折、橈尺両骨骨幹部骨折				実技	小磯・林		
12	前腕骨遠位端部骨折(1)	コーレス骨折(診察・整復)				実技	小磯・林		
13	評価(2)	8～12回の評価				演習	小磯・林		
14	評価(2)	8～12回の評価				演習	小磯・林		
15	前腕骨遠位端部骨折(2)	コーレス骨折(固定)				実技	小磯・林		
16	前腕骨遠位端部骨折(3) 手根部・中手骨部の骨折	スミス骨折、舟状骨骨折、ベネット骨折				実技	小磯・林		
17	中手骨部の骨折	中手骨骨幹部骨折、中手骨頸部骨折(固定)				実技	小磯・林		
18	指骨の骨折(1)	基節骨基部骨折				実技	小磯・林		
19	指骨の骨折(2)	基節骨骨幹部骨折、中節骨掌側板付着部裂離骨折、中節骨骨折(頸部骨折骨幹部骨折)				実技	小磯・林		
20	肩鎖関節脱臼(1)	診察・整復				実技	小磯・林		
21	評価(3)	15～20回の評価				演習	小磯・林		
22	評価(3)	15～20回の評価				演習	小磯・林		
23	肩鎖関節脱臼(2)	固定				実技	小磯・林		
24	肩関節脱臼(1)	診察・整復				実技	小磯・林		
25	肩関節脱臼(2)	固定				実技	小磯・林		
26	肘関節脱臼(1)	診察・整復				実技	小磯・林		
27	肘関節脱臼(2)	固定、肘内障(診察・整復)				実技	小磯・林		
28	指関節脱臼	PIP関節脱臼(固定)、第1指MP関節脱臼				実技	小磯・林		
29	期末まとめ	23～28回の評価				演習	小磯・林		
30	期末まとめ	23～28回の評価				演習	小磯・林		
評価方法									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	柔道整復学・理論編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,300+税 柔道整復学・実技編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,000+税 包帯固定学 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥2,500+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意点	実習着および整容は、常に清潔に保ち衛生面に留意すること。必ずノートを持参すること。効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。								
担当教員の 実務経験	小磯：施術所にて23年間の柔道整復の臨床経験を有し、骨折、脱臼、その他外傷に対する診察、治療法の実技に精通している。								

科目名	柔道整復実技Ⅵ						柔道整復科Ⅱ部		
学科	2年	分野	専門	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～3学期
評価担当	佐藤 豪介			担当教員	佐藤 豪介				
科目概要	柔道整復術は、急性及び亜急性の原因によって発生する各種運動器損傷に対する施術である。この授業では筋・腱・靭帯など軟部組織損傷の評価のために重要な「検査法」、非観血的に行う「整復法」と「固定法」の3つについて、日常の臨床でよく遭遇する各損傷別に実技を通じて修得する。								
到達目標	①上肢の軟損、下肢の骨折・脱臼・軟損の発生機序の理解、類似損傷との鑑別のポイント、具体的な治療計画(整復法、検査法、評価法、固定法、後療法、可動域訓練、筋力増強訓練、指導管理、治療日程等)を立てることが出来る。 ②骨折部位、脱臼部位、軟部組織損傷部の状態と位置を正確に把握し指し示すことができる。 ③整復法、検査法の手順や手技を理解し正確に行うことができる。 ④種々の固定材料の特性を把握し、症例に応じて使い分けることができる。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	肩部軟部組織損傷(1)	腱板断裂(診察・検査)				実技	佐藤		
2	肩部軟部組織損傷(2)	上腕二頭筋長頭腱損傷(診察・検査)				実技	佐藤		
3	肘部・手部軟部組織損傷	肘関節内側側副靭帯損傷、ロッキングフィンガー(第2指)、第1指MP関節側副靭帯損傷				実技	佐藤		
4	手部・指部軟部組織損傷	PIP関節側副靭帯損傷、マレットフィンガー				実技	佐藤		
5	評価(1)	1～4回の評価				演習	佐藤		
6	評価(1)	1～4回の評価				演習	佐藤		
7	大腿骨骨折	大腿骨頸部骨折(内側骨折、外側骨折)				実技	佐藤		
8	大腿骨・膝蓋骨骨折	大腿骨骨幹部骨折、膝蓋骨骨折				実技	佐藤		
9	下腿骨骨折(1)	下腿骨骨幹部骨折(固定)				実技	佐藤		
10	下腿骨骨折(2)	顆部骨折				実技	佐藤		
11	足根骨骨折	踵骨体部骨折				実技	佐藤		
12	中足骨骨折	第5中足骨基底部裂離骨折				実技	佐藤		
13	評価(2)	7～12回の評価				演習	佐藤		
14	評価(2)	7～12回の評価				演習	佐藤		
15	中足骨・趾骨骨折	中足骨骨幹部骨折、足趾の骨折				実技	佐藤		
16	股関節脱臼	後方脱臼				実技	佐藤		
17	膝蓋骨・足趾脱臼	膝蓋骨脱臼(側方脱臼)、足趾の脱臼				実技	佐藤		
18	大腿屈筋群損傷	ハムストリングスの肉離れ(診察・検査)				実技	佐藤		
19	大腿四頭筋打撲	診察・検査				実技	佐藤		
20	評価(3)	15～19回の評価				演習	佐藤		
21	評価(3)	15～19回の評価				演習	佐藤		
22	膝関節前十字靭帯損傷	診察・検査				実技	佐藤		
23	膝関節側副靭帯損傷(1)	内側側副靭帯損傷(診察・検査、固定)				実技	佐藤		
24	膝関節半月(板)損傷	診察・検査				実技	佐藤		
25	アキレス腱断裂	固定				実技	佐藤		
26	下腿三頭筋の肉離れ	診察・検査				実技	佐藤		
27	足関節捻挫	診察・検査				実技	佐藤		
28	足関節捻挫	固定(3種)				実技	佐藤		
29	評価(4)	23～28回の評価				演習	佐藤		
30	評価(4)	23～28回の評価				演習	佐藤		
評価方法									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	柔道整復学・理論編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,300+税 柔道整復学・実技編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,000+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	実習着および整容は、常に清潔に保ち、衛生面に留意すること。必ずノートを持参すること。効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。								
担当教員の 実務経験	佐藤 : 施術所にて24年間の柔道整復の臨床経験を有し、骨折・脱臼の整復及び軟部組織損傷の診察法・検査法の実技に精通している。								

科目名	柔道整復実技Ⅶ					柔道整復科Ⅱ部			
学科	2年	分野	専門	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～3学期
評価担当	比留間 俊幸、石橋 大輔			担当教員	比留間 俊幸、石橋 大輔				
科目概要	我が国は、少子高齢化が急速に進んでおり、医療費などの社会保障関係費は今後も増加すると見込まれている。こうした状況下で、国民の健康寿命の延伸の実現に向けて、健康づくりや介護予防などに貢献できる柔道整復師が求められている。また、スポーツ現場における外傷予防・外傷処置は柔道整復師にとって必須の能力である。本科目では、柔道整復師への社会的要請の一つである高齢者および競技者の外傷予防に対し、生理学で習得したそれぞれの特徴および生理学的変化に関する知識を活用し、具体的な外傷予防の手法を学ぶ。								
到達目標	①高齢者の心理、加齢に伴う身体機能の変化、フレイルやサルコペニア、高齢者特有の疾病や症状、認知症の理解など高齢者介護に必要な知識を理解し、説明できる。 ②高齢者に対する適切な運動指導が実施できる知識・技術・コミュニケーション能力を修得する。 ③競技者に対して適切な評価・処置・運動指導・生活指導・予防指導が出来る実践力を修得する。 ④関連職種と連携するために必要な、医療や福祉分野全般に共通する基礎理論・技術を修得する。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	柔道整復師と介護保険発達の理解	介護保険の目的と理念、介護保険制度における柔道整復師、人間の成長と発達の基礎的理解、老年期の発達と熟成、老化に伴う心と身体の変化と日常生活、エイジング理論、高齢者と健康				講義	比留間・石橋		
2	認知症の理解	認知症の定義、認知症を取り巻く状況、医学的側面からみた認知症の基礎、認知症に伴う心と身体の変化と日常生活、連携と協働、家族への支援、認知症予防				講義	比留間・石橋		
3	介護保険制度	介護保険、要介護度、要介護認定、介護保険の給付、介護サービスの利用、介護サービスの受給パターン、介護サービス事業所、介護連携職種				講義	比留間・石橋		
4	介護の過程	介護過程の意義、介護過程、情報収集と課題の優先順位、介護過程の実践的展開				講義	比留間・石橋		
5	高齢者介護とICF	高齢者介護、ICF、リハビリテーションとICF、機能訓練とICF				講義	比留間・石橋		
6	評価(1)	1～5回の評価				演習	比留間・石橋		
7	機能訓練(1)	機能訓練の手順				実技	比留間・石橋		
8	機能訓練(2)	体力測定の見測法				実技	比留間・石橋		
9	機能訓練(3)	個別サービス計画書の作成法				実技	比留間・石橋		
10	機能訓練(4)	器具を用いない運動				実技	比留間・石橋		
11	機能訓練(5)	簡単な器具を用いて行う運動				実技	比留間・石橋		
12	機能訓練(6)	運動メニューの作成				実技	比留間・石橋		
13	評価(2)	7～12回の評価				演習	比留間・石橋		
14	評価(2)	7～12回の評価				演習	比留間・石橋		
15	機能訓練(7)	運動メニューの作成				実技	比留間・石橋		
16	競技者の外傷処置(1)	オリエンテーション、競技者の特徴				実技	比留間・石橋		
17	競技者の外傷処置(2)	RICE処置				実技	比留間・石橋		
18	競技者の外傷処置(3)	心肺蘇生を含む救急処置				実技	比留間・石橋		
19	競技者の外傷予防(4)	頭頸部のスポーツ外傷に対する評価・処置・運動指導・生活指導・予防指導				実技	比留間・石橋		
20	評価(3)	15～19回の評価				演習	比留間・石橋		
21	評価(3)	15～19回の評価				演習	比留間・石橋		
22	競技者の外傷予防(5)	肩関節のスポーツ外傷に対する評価・処置・運動指導・生活指導・予防指導				実技	比留間・石橋		
23	競技者の外傷予防(6)	肘関節のスポーツ外傷に対する評価・処置・運動指導・生活指導・予防指導				実技	比留間・石橋		
24	競技者の外傷予防(7)	手関節のスポーツ外傷に対する評価・処置・運動指導・生活指導・予防指導				実技	比留間・石橋		
25	競技者の外傷予防(8)	腰部・大腿部のスポーツ外傷に対する評価・処置・運動指導・生活指導・予防指導				実技	比留間・石橋		
26	競技者の外傷予防(9)	膝関節のスポーツ外傷に対する評価・処置・運動指導・生活指導・予防指導				実技	比留間・石橋		
27	競技者の外傷予防(10)	下腿部・足関節のスポーツ外傷に対する評価・処置・運動指導・生活指導・予防指導				実技	比留間・石橋		
28	競技者の外傷予防(11)	競技者に対する運動指導のシミュレーション				実技	比留間・石橋		
29	評価(4)	22～28回の評価				演習	比留間・石橋		
30	評価(4)	22～28回の評価				演習	比留間・石橋		
評価方法									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	柔道整復師と機能訓練指導 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥3,000+税 競技者の外傷予防 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 (予定)								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	実習着および整容は、常に清潔に保ち衛生面に留意すること。必ずノートを持参すること。効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。								
担当教員の実務経験	比留間：施術所にて15年間の柔道整復の臨床経験を有し、介護保険、機能訓練、外傷に対する評価、処置、予防法に関する知識と技術に精通している。 石橋：施術所にて18年間の施術所での柔道整復の臨床経験を有し、外傷に対する評価、処置、予防法に関する知識と技術に精通している。								

科目名	柔道整復実技Ⅷ					柔道整復科Ⅱ部			
学科	2年	分野	専門	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	3学期
評価担当	坂主 充史			担当教員	坂主 充史				
科目概要	実際の臨床と同様の「医療面接から始まり、検査等を行い、疾患を特定する」ロールプレイおよびシミュレーションを行い、実践力を身につける。								
到達目標	①患者に対する接遇方法を身につける。 ②医療面接(問診)の手順を学び、患者の訴えを的確に把握できるようになる。 ③検査・測定法の目的と手順を理解し、疑われる疾患・傷病に応じた検査等を実践できるようになる。 ④検査等の結果を記録する事ができるようになる。								
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員		
1	医療面接の基本	医療面接の目的、面接項目、質問法等				実技	坂主		
2	医療面接の実践	面接結果の評価と記録、結果の記載方法				実技	坂主		
3	頸部の検査・測定・評価(1)	関節可動域測定(ROM)、臨床徒手検査				実技	坂主		
4	頸部の検査・測定・評価(2)	神経学的検査、徒手筋力検査(MMT)				実技	坂主		
5	腰部の検査・測定・評価(1)	関節可動域測定(ROM)、臨床徒手検査				実技	坂主		
6	腰部の検査・測定・評価(2)	神経学的検査、徒手筋力検査(MMT)				実技	坂主		
7	膝部の検査・測定・評価(1)	関節可動域測定(ROM)、臨床徒手検査				実技	坂主		
8	膝部の検査・測定・評価(2)	徒手筋力検査(MMT)、触診(圧痛部位)				実技	坂主		
9	面接・検査・測定・記録(1)	医療面接、測定と評価、結果と記録				実技	坂主		
10	面接・検査・測定・記録(2)	医療面接、測定と評価、結果と記録				実技	坂主		
11	臨床実習前施術試験(1)	1～10回の評価				演習	坂主		
12	臨床実習前施術試験(2)	1～10回の評価				演習	坂主		
13	臨床実習前施術試験(3)	1～10回の評価				演習	坂主		
14	臨床実習前施術試験(4)	1～10回の評価				演習	坂主		
15	総合実践	医療面接～評価までのロールプレイ				実技	坂主		
評価方法									
評価指標	定期試験	平常点	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	20	-	-	-	-	-	100	
教科書	一般臨床医学 (公社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 ¥5,800+税 整形外科学 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥5,600+税 柔道整復学・理論編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,300+税 柔道整復学・実技編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,000+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意点	実習着および整容は、常に清潔に保ち衛生面に留意すること。必ずノートを持参すること。効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。								
担当教員の実務経験	坂主 : 施術所にて24年間の柔道整復の臨床経験を有し、医療面接から治療まで柔道整復実技に精通している。								

科目名	柔道整復実技Ⅸ						柔道整復科Ⅱ部				
学科	3年	分野	専門	単位数	3単位	時間数	90時間	期間	1～2学期		
評価担当	喜多村 伸明、坂主 充史				担当教員	喜多村 伸明、坂主 充史					
科目概要	柔道整復師の業務範囲である、骨折・脱臼・筋腱等軟部組織損傷を鑑別する手段としての診察法ならびに検査法、治療する手段としての整復法ならびに固定法を修得する。										
到達目標	①診察法や整復法ならびに検査法、固定法の意義を理論的に理解する。 ②実際の損傷を想定して処置を行い、臨床現場において各々の損傷に対処できるようになる。										
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員			
1	固定装具作成	シーネ、すだれ副子、腋窩枕子の作成					実技	喜多村・坂主			
2	鎖骨骨折	リング固定又は8字帯、Sayer テープ固定・診察・整復					実技	喜多村・坂主			
3	上腕骨骨幹部骨折	ミッドドルフ三角副子固定					実技	喜多村・坂主			
4	コーレス骨折	クラメル副子と局所副子・三角巾固定・診察・整復					実技	喜多村・坂主			
5	肩鎖関節上方脱臼	テープ固定・診察・整復					実技	喜多村・坂主			
6	肩関節前方脱臼	局所副子・三角巾固定・診察・整復					実技	喜多村・坂主			
7	肘関節後方脱臼	クラメル副子・三角巾固定・診察・整復					実技	喜多村・坂主			
8	下腿骨骨幹部骨折	クラメル副子固定					実技	喜多村・坂主			
9	アキレス腱断裂	クラメル副子固定					実技	喜多村・坂主			
10	骨折総合(1)	診察及び整復(鎖骨骨折)					実技	喜多村・坂主			
11	骨折総合(2)	診察及び整復(上腕骨外科頸骨折)					実技	喜多村・坂主			
12	骨折総合(3)	診察及び整復(上腕骨外科頸骨折)					実技	喜多村・坂主			
13	骨折総合(4)	診察及び整復(コーレス骨折)					実技	喜多村・坂主			
14	骨折総合(5)	固定(鎖骨骨折)					実技	喜多村・坂主			
15	骨折総合(6)	固定(上腕骨骨幹部骨折)					実技	喜多村・坂主			
16	骨折総合(7)	固定(コーレス骨折)					実技	喜多村・坂主			
17	骨折総合(8)	固定(第5中手骨頸部骨折)					実技	喜多村・坂主			
18	骨折総合(9)	固定(下腿骨骨幹部骨折)					実技	喜多村・坂主			
19	骨折総合(10)	固定(肋骨骨折)					実技	喜多村・坂主			
20	脱臼総合(1)	診察及び整復(肩鎖関節脱臼)					実技	喜多村・坂主			
21	脱臼総合(2)	診察及び整復(肩関節脱臼)					実技	喜多村・坂主			
22	脱臼総合(3)	診察及び整復(肘関節脱臼)					実技	喜多村・坂主			
23	脱臼総合(4)	診察及び整復(肘内障)					実技	喜多村・坂主			
24	脱臼総合(5)	固定(肩鎖関節脱臼)					実技	喜多村・坂主			
25	脱臼総合(6)	固定(肩関節脱臼)					実技	喜多村・坂主			
26	脱臼総合(7)	固定(肘関節脱臼)					実技	喜多村・坂主			
27	脱臼総合(8)	固定(手第2指PIP関節背側脱臼)					実技	喜多村・坂主			
28	軟部組織損傷総合(1)	診察及び検査(腱板損傷)					実技	喜多村・坂主			
29	軟部組織損傷総合(2)	診察及び検査(上腕二頭筋長頭腱損傷)					実技	喜多村・坂主			
30	軟部組織損傷総合(3)	診察及び検査(大腿部損傷)					実技	喜多村・坂主			
31	軟部組織損傷総合(4)	診察及び検査(膝関節側副靭帯損傷)					実技	喜多村・坂主			
32	軟部組織損傷総合(5)	診察及び検査(膝関節十字靭帯損傷)					実技	喜多村・坂主			
33	軟部組織損傷総合(6)	診察及び検査(膝関節半月板損傷)					実技	喜多村・坂主			
34	軟部組織損傷総合(7)	診察及び検査(下腿三頭筋損傷)					実技	喜多村・坂主			
35	軟部組織損傷総合(8)	診察及び検査(足関節外側側副靭帯損傷)					実技	喜多村・坂主			
36	軟部組織損傷総合(9)	固定(アキレス腱断裂)					実技	喜多村・坂主			
37	軟部組織損傷総合(10)	固定(足関節外側靭帯損傷(局所副子固定))					実技	喜多村・坂主			
38	軟部組織損傷総合(11)	固定(膝関節内側側副靭帯損傷)					実技	喜多村・坂主			
39	軟部組織損傷総合(12)	固定(足関節外側靭帯損傷(バスケットウィープ)・足関節外側靭帯損傷(フィギュアエイト・ヒールロック))					実技	喜多村・坂主			
40	総括(1)	1～39回の総括					実技	喜多村・坂主			
41	総括(2)	1～39回の総括					実技	喜多村・坂主			
42	総括(3)	1～39回の総括					実技	喜多村・坂主			
43	総括(4)	1～39回の総括					実技	喜多村・坂主			
44	総括(5)	1～39回の総括					実技	喜多村・坂主			
45	総括(6)	1～39回の総括					実技	喜多村・坂主			
評価方法											
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100
教科書	柔道整復学・理論編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,300+税 柔道整復学・実技編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,000+税										
教材・参考図書	適宜紹介すること。										
オフィスアワー	適宜確認すること。										
履修上の注意	実習および整容は、常に清潔に保ち衛生面に留意すること。必ずノートを持参すること。効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。										
担当教員の実務経験	喜多村：施術所にて30年間の柔道整復の臨床経験を有し、骨折、脱臼、軟部組織損傷の処置における実技に精通している。 坂主：施術所にて24年間の柔道整復の臨床経験を有し、骨折、脱臼、軟部組織損傷の処置における実技に精通している。										



科目名	臨床実習Ⅱ					柔道整復科Ⅱ部			
学科	2年	分野	専門	単位数	1単位	時間数	45時間	期間	1学期
評価担当	喜多村 伸明、富永 忠雅、坂主 充史、佐藤 豪介、舘原 宗幸、中村 秀樹、小磯 嘉貴、石橋 大輔、岩瀬 惇平、田代 秀敏、諸岡 大輔、林 賢一								
科目概要	柔道整復実技Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで修得した包帯法・触診法・物理療法の知識と技術が、実際の現場で有資格者によってどのように用いられているのか、施術や受付の応対、医療面接を含めた実際の医療現場を見学する。また、挨拶をとおしてスタッフや患者と触れ合う機会を得る。原則としては、正統的周辺参加論に基づき、「見て学ぶ」ことを主眼に置くが、積極的に質問をできる環境を設け、まずは施術所の全体像の概要を学ぶ。								
到達目標	①社会人としての礼節をわきまえた挨拶と自己紹介ができる。 ②実習施設関係者(スタッフや患者・家族等)に、好印象を与える挨拶と受答えができる。 ③実習施設内での業務を見学することで、医療従事者としての職業観を確立し、自己の資格をより具体的に把握・理解し行動することができる。 ④症例に応じた適切な物理療法機器の選択及び施行ができる。 ⑤包帯法や手技療法、触診に関する知識と技術の有用性を理解することができる。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
	臨床実習Ⅱ		実習期間：令和9年7月～令和9年8月 実習時間：9:00～18:00 実習場所：福岡医療学院接骨院 他、合計20施設 実習方法：学生2名を1グループとし、4日間の実習を行う。 実習詳細：スタッフや患者とコミュニケーションをとりながら、受付対応から実際の施術に至るまでを見学し、全体の流れを把握する。また臨床実習Ⅰで身に付けた物理療法機器の取扱いを有資格者の指導のもとで行う。				実習	喜多村 富永 坂主 佐藤 舘原 中村 小磯 石橋 岩瀬 田代 諸岡 林	
評価方法									
評価指標	学外評価	レポート	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	50	50	-	-	-	-	-	100	
教科書	柔道整復学・理論編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,300+税 柔道整復学・実技編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,000+税 解剖学 (公社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 ¥7,800+税								
教材・参考図書	実習オリエンテーション時に紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意点	実習着および整容は、常に清潔に保ち衛生面に留意すること。自己の健康管理には、十分に注意すること。事前の学習内容は、実習オリエンテーション時に提示する。 実習・学習内容は、実習後すぐに記録し、報告・連絡・相談を欠かさないこと。								

科目名	臨床実習Ⅲ						柔道整復科Ⅱ部		
学科	3年	分野	専門	単位数	1単位	時間数	45時間	期間	1学期
評価担当	喜多村 伸明、富永 忠雅、坂主 充史、佐藤 豪介、舘原 宗幸、中村 秀樹、小磯 嘉貴、石橋 大輔、岩瀬 惇平、田代 秀敏、諸岡 大輔、林 賢一								
科目概要	柔道整復実技Ⅷで修得した医療面接の技術を、実際の臨床現場において活用することを目的とする。実習担当教員及び実習指導者の指導のもと、受け持ち対象者に対して受傷機序や日時、症状等の医療面接を行い、必要であれば検査法等を交えながら損傷部位と重症度を把握するための方策を学ぶ。実習担当教員及び実習指導者から指導・アドバイスを受けながら、必要な情報をうまく引き出すためのコミュニケーション術を学ぶ。								
到達目標	①有資格者や他のスタッフと連携し、業務にあたることができる。 ②施術が円滑に出来るよう、院内環境整備や必要な固定具の準備ができる。 ③患者との関わりを通じて、柔道整復師として必要なコミュニケーション能力を身につける。 ④院内業務を通して、関係者との意思の疎通を図り、主体的に課題を発見して、課題解決に寄与することができる。								
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員	
	臨床実習Ⅲ	実習期間：令和10年6月 実習時間：9:00～18:00 実習場所：福岡医療学院整骨院 他、合計20施設 実習方法：学生2名を1グループとし、5日間の実習を行う。 実習詳細：実習担当教員及び実習指導者の指導のもと、院内業務や施術補助を行う。また、これまで学内の授業で学んだ内容が、臨床現場でどのように活用されているのかを学ぶ。					実習	喜多村 富永 坂主 佐藤 舘原 中村 小磯 石橋 岩瀬 田代 諸岡 林	
評価方法									
評価指標	学外評価	レポート	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	50	50	-	-	-	-	-	100	
教科書	柔道整復学・理論編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,300+税 柔道整復学・実技編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,000+税 解剖学 (公社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 ¥7,800+税								
教材・参考図書	実習オリエンテーション時に紹介する。								
オフィスアワー	適宜確認すること。								
履修上の注意	実習着および整容は、常に清潔に保ち衛生面に留意すること。自己の健康管理には、十分に注意すること。事前の学習内容は、実習オリエンテーション時に提示する。 実習・学習内容は、実習後すぐに記録し、報告・連絡・相談を欠かさないこと。								

科目名	臨床実習Ⅳ						柔道整復科Ⅱ部			
学科	3年	分野	専門	単位数	1単位	時間数	45時間	期間	1学期	
評価担当	喜多村 伸明、富永 忠雅、坂主 充史、佐藤 豪介、館原 宗幸、中村 秀樹、小磯 嘉貴、石橋 大輔、岩瀬 惇平、田代 秀敏、諸岡 大輔、林 賢一									
科目概要	1、2年次で学んできた包帯法、触診、手技、医療面接、各種検査法、物理療法、運動療法等に関する知識と技術を生かし、実際の施術所において、有資格者が行う施術に対する補助を行う。様々な症例に対して、医療面接から施術、指導管理に至るまで補助スタッフとして、対象者の状態に応じた患者安全の確保と柔道整復の施術ができるようになるための知識と技術を修得する。									
到達目標	①多様な背景をもつ患者に応じた言葉遣いの大切さを理解することができ、言葉以外の様々な患者への配慮を理解することができる。 ②説明と同意・選択など患者本位の対応の必要性を理解することができる。 ③開放型質問と閉鎖型質問等、医療面接の展開を理解することができる。 ④共感的態度や支持的態度など患者の感情面への配慮の必要性を理解することができる。 ⑤症例に応じた適切な物理療法機器の選択および施行ができる。 ⑥医療面接から得た情報を元に、症状の鑑別、評価、治療プログラムの作成ができる。									
回数	単元項目	授業内容					形態	担当教員		
	臨床実習Ⅳ	実習期間：令和10年6月 実習時間：9:00～18:00 実習場所：福岡医療学院整骨院 他、合計20施設 実習方法：学生2名を1グループとし、5日間の実習を行う。 実習詳細：これまでの実習・実技で身につけてきた知識と技能を生かし、医療面接から施術、患者指導に至るまで、全ての面において有資格者の補助を行う。					実習	喜多村 富永 坂主 佐藤 館原 中村 小磯 石橋 岩瀬 田代 諸岡 林		
評価方法										
評価指標	学外評価	レポート	-	-	-	-	-	合計		
評価割合(%)	50	50	-	-	-	-	-	100		
教科書	柔道整復学・理論編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,300+税 柔道整復学・実技編 (公社)全国柔道整復学校協会 南江堂 ¥7,000+税 解剖学 (公社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 ¥7,800+税									
教材・参考図書	実習オリエンテーション時に紹介する。									
オフィスアワー	適宜確認すること。									
履修上の注意	実習着および整容は、常に清潔に保ち衛生面に留意すること。自己の健康管理には、十分に注意すること。事前の学習内容は、実習オリエンテーション時に提示する。 実習・学習内容は、実習後すぐに記録し、報告・連絡・相談を欠かさないこと。									

